

あ

アウエル小体(—しょうたい)

Auer body

アズール好性の針状の小体で、ペルオキシダーゼ反応陽性。主として骨髄性白血病の場合に白血病細胞の細胞質内に出現する。

注単球性白血病でも出現するが、リンパ性白血病では出現しないので、ギムザ染色*によりアウエル小体の有無を観察することが重要である。

悪性(あくせい)

[名詞] malignancy, [形容詞] malignant

一般的には経過・予後の不良な病態を示す。腫瘍*では転移能を持つ病変、すなわち癌*をさす。腫瘍以外では臨床経過の悪い病態という意味で用いられる。なお、医療の進歩により悪性の病変の致命率は改善されている場合が少なくない。 ● 良性

用例悪性腫瘍(malignant tumor: 癌を意味する)

悪性組織球症(malignant histiocytosis: 癌の一型)

悪性高血圧症(malignant hypertension: 非腫瘍性病変)

悪性貧血(pernicious anemia: 非腫瘍性病変)

悪性黒色腫(あくせいこくしょくしゅ) ●メラニン(p.127)

悪性腫瘍(あくせいしゅよう) =癌(p.26)

悪性上皮性腫瘍(あくせいじょうひせいしゅよう) =癌腫(p.28)

悪性上皮性新生物(あくせいじょうひせいしんせいぶつ) =癌腫(p.28)

悪性新生物(あくせいしんせいぶつ) =癌(p.26)

悪性腺腫(あくせいせんしゅ) ●腺腫(p.75)

悪性中胚葉性混合腫瘍(あくせいちゅうはいようせいこんごうしゅよう) ●癌肉腫(p.31)

悪性非上皮性腫瘍(あくせいひじょうひせいしゅよう) =肉腫(p.97)

悪性リンパ腫(あくせいりんぱしゅ)

malignant lymphoma

略語: リンパ腫

リンパ組織の悪性腫瘍。リンパ球や組織球*またはこれらの前駆細胞の異常増殖を特徴とする悪性腫瘍ともいえる。広義ではホジキン病(Hodgkin disease)と非ホジキンリンパ腫(non-Hodgkin lymphoma)とに大別できる。狭義には後者のみを意味する。

注 1. 非ホジキンリンパ腫は、組織学的には大別してびまん型と結節型に分けられる。

2. リンパ球系の各種マーカーを応用して、T 細胞, B 細胞などの免疫表現型(immunophenotype)から分類する場合もある。

用例咽頭リンパ腫(laryngeal lymphoma)

骨の悪性リンパ腫(malignant lymphoma of the bone)

Ki-1 リンパ腫(Ki-1 lymphoma)

MALT リンパ腫(mucosa associated lymphoid tissue lymphoma)

アジソン病(一びょう) ●メラニン(p.127)

アズール顆粒(一かりゅう)

azurophilic granule

ギムザ染色*においてアズールに染まり赤紫色を示す細胞質*の顆粒。血球のうちリンパ球, 単球に存在し, まれにリンパ芽球にみられ, 骨髄球には骨髄性アズール顆粒をみる。その本体は不明である。

アスベスト小体(一しょうたい)

asbestos body

アスベスト(石綿)を長期にわたり吸引することにより, アスベスト繊維に含鉄たんぱく質が付着して形成される。形態は長幹骨に類似し, 喀痰中に出現する。珪肺や肺癌, 悪性中皮腫などの悪性疾患発生との関連性が指摘されている。 ●含鉄小体

圧挫法(あつざほう)

squash preparation

生検材料や穿刺吸引物で材料が固形物ないし小組織片で採取された場合, 2枚のスライドガラスで材料を挟んで両方から指で圧するように潰して塗抹する方法である。

注 1. 捺印法*(stamp preparation)で細胞*の取れにくいものにも有用である。

2. 圧挫法で作製した塗抹標本は, 個々の細胞の観察に加えて組織構築像を見ることができる。

しかし, あまり強く圧すると細胞の挫滅が起こることがあり, 注意深い標本作製が必要である。

アポトーシス

apoptosis

遺伝子に「プログラムされた細胞死」である。細胞分裂と表裏一体となって細胞集団を制御している。形態学的には, 最初核*と細胞質*が凝縮・縮小して細胞*全体の大きさの縮小が起こり(壊死*では細胞膨化が起こってくる), 次に細胞, 核に大小の突起を生じる。さらにこれがくびれ, ちぎれて細胞の断片化が起こり, 大小の球状の小胞〔アポトーシス小体(apoptotic body)〕となって周囲細胞に取り込まれ除去される。アポトーシスは細胞集団内で散発的にそして急速に起こり, また炎症*はみられない。

注 1988年版の『文部省学術用語集 動物学編』では, 日本語訳は「細胞自滅」となっている。しかし, 最近の出版物ではほとんどが「アポトーシス(apoptosis)」と記載されている。

アポトーシス小体(一しょうたい) ●アポトーシス(前項)

アミロイド小体(一しょうたい) =類でんぶん小体(p.134)

アルコール硝子体(一しょうたい) ●硝子化(p.64)

アンブレラ細胞(一さいぼう)

umbrella cell

同: 被蓋細胞(tegmental cell, Deck Zellen)

尿路粘膜の移行上皮の最表層に位置する大型の細胞*で、形態が雨傘に似るためアンブレラ細胞と呼ばれる。

注 1. 尿が多量に貯留した状態ではアンブレラ細胞は伸展して扁平化する。

2. アンブレラ細胞は大型で 2 核のこともあるので、尿中に出現すると異型細胞として認識されることがある。

い

鑄型核(いがたかく) ●相互圧排像(p.81)

異型(いけい)

atypia, atypism

同：異型性

正常な細胞*あるいは組織*と形態学的に異なることをいう。腫瘍*に関連する病変においては、その程度は通常その病変の悪性度と平行する。

注 1. 細胞異型(cellular atypia)と構造異型(structural atypia)とに分けられ、組織診においてはこれらの 2 者が総合的に判断されるが、細胞診では判断の多くを前者に負うことになる。

2. 「異型」という術語は、腫瘍に関連する病変のみならず、より多くの病変において正常とは異なる場合に用いられることが多い。

用例異型細胞(atypical cell)

異型腺腫(atypical adenoma)

異型増殖症(atypical hyperplasia)

異形成(いけいせい)

dysplasia

細胞*の異常増殖を示す状態であり、その構成細胞には大きさ、形状、配列の異常を認めそれらが癌*に類似の異型*を示すが、その程度が癌ほどではないもの。前癌病変*と位置づけられることもあるが、何ら治療を加えなくとも消退することもまれではない。その異型の程度により、軽度(mild ; slight), 中等度(moderate), 高度(severe)に分けられる場合もある。異形成は子宮頸部扁平上皮病変に主に用いられていたが、今日では他の領域の扁平上皮病変、さらに腺上皮の異型病変にも用いられている。

注 1. dysplasia は、広義に用いられる場合には成熟細胞の大きさ、形状、構成内容の変化をさす。この場合は形成異常と訳されることが多い [例：頭蓋骨幹形成異常(craniodiaphyseal dysplasia), 線維性骨異形成(線維性骨形成異常 ; fibrous dysplasia of bone)など]。

2. dysplasia は上皮異形成(「膀胱癌取扱い規約」), 異形成上皮(「頭頸部癌取扱い規約」)と訳されることもある。

用例子宮頸部異形成(dysplasia of uterine cervix)

軽度異形成(mild dysplasia)

腺異形成(glandular dysplasia)

異型性(いけいせい) = 異型(p.7)

異型腺腫(いけいせんしゅ) ●腺腫(p.75)

移行上皮型乳頭腫(いこうじょうひがたにゅうとうしゅ) ●乳頭腫(p.98)

移行上皮癌(いこうじょうひがん)

transitional cell carcinoma

略語 : TCC

移行上皮に類似した細胞*からなる癌*で、乳頭状*のものが多く、非乳頭状、潰瘍状のものもある。

注 1. 移行上皮癌は細胞および構造異型*の程度により、軽度異型(G1)、中等度異型(G2)、高度異型(G3)に分類される。G1は乳頭状移行上皮癌(papillary transitional cell carcinoma)で異型が弱く、腫瘍細胞が通常7層以上に及ぶものをいう。

2. 異型のない移行上皮からなる乳頭状腫瘍は移行上皮乳頭腫(transitional cell papilloma)とされ、被覆上皮は6層をこえないとされている。

3. 移行上皮内癌(transitional cell carcinoma in situ)は、粘膜内に限局し乳頭状増殖を示さない癌*をいう。細胞異型は通常G3である。

移行上皮細胞(いこうじょうひさいぼう)

transitional [epithelial] cell

尿路粘膜をおおう上皮細胞。貯留または通過する尿の量によって、多稜型、立方型から扁平型までさまざまに移行する形態を示すので移行上皮細胞と呼ばれる。

注 1. 腎盂、尿管、膀胱、尿道に分布する。

2. 光顕的には重層化しているように見えるが、電顕による観察ではすべての細胞*が基底膜*に接している。

3. 移行上皮のうち最表層のものは雨傘様の独特の形態で、アンブレラ細胞*(umbrella cell)と呼ばれる。

用例移行上皮乳頭腫(transitional cell papilloma)

移行上皮癌*(transitional cell carcinoma)

石垣状(いしがきじょう) = 敷石状(p.57)

石畳状(いしだたみじょう) = 敷石状(p.57)

異質クロマチン(いしつ) ●クロマチン(p.39)

萎縮(いしゆく)

atrophy

いったん正常の大きさにまで成長した臓器や組織*あるいは細胞*の容積が減少した状態。機能は低下するが、發育不全とは区別される。萎縮は生理的または障害因子の作用により構成細胞の機能の低下や栄養の供給が減少して同化作用が低下したときに生じるが、形態学的には構成細胞の大きさの縮小(単純萎縮)または数の減少(数的萎縮)によるか、あるいはその両者による。

萎縮した細胞では核*や細胞質*はともに縮小し、細胞は全体として小型化し、リポフスチンの沈着をみることがある。

注 1. 發育不全, 低形成, 形成不全(hypoplasia)とは, はじめから臓器や組織が正常の大きさに達しないものをいう。

2. 退縮(involution)は, 子宮復古, 授乳乳腺の縮小, 年齢による胸腺の萎縮など生理的な萎縮に用いる。

3. 仮性肥大(pseudohypertrophy)は本質的には萎縮であるが, 萎縮が脂肪織など他の組織で置換され容積が増大している状態である。

用例 廃用性萎縮(disuse atrophy; 無為性萎縮)

圧迫萎縮(pressure atrophy)

神経性萎縮(neurogenic atrophy)

内分泌性萎縮(endocrine atrophy)

老人性萎縮(senile atrophy; 加齢により生じた生理的な萎縮)

褐色萎縮(brown atrophy)

子宮萎縮(atrophy of the uterus)

異所性(いしょせい)

[名詞] ectopia, heterotopia, [形容詞] ectopic, heterologous

同: ectopy

器官や身体の一部の存在部位が本来の位置とは違うもので細胞異型は伴わない。すなわち, 本来は存在しない器官や組織*が存在する場合をさす。

注 1. 異所性を示すものには心臓転位〔症〕(ectopia cordis), 腎転位〔症〕(ectopia renis), 子宮外妊娠(ectopic pregnancy)なども含まれる。

2. 反対語は同所性, 正所性(orthotopia, homologous)。

用例 異所性脱落膜(ectopic decidua: 子宮頸部など子宮内膜以外の組織に脱落膜変化が生じたもの)

異所性膵組織〔ectopic pancreas tissue: 胃腸管にみられる; 迷入膵(aberrant pancreas)〕

異所性癌肉腫(carcinosarcoma, heterologous)

異所性ホルモン産生腫瘍(ectopic hormone-producing tumor)

異所性脱落膜(いしょせいだつらくまく) ●異所性(前項)

I 度潰瘍(いちどかいよう) = びらん(p.110)

いわゆる癌肉腫(—がんにくしゅ) = 癌肉腫(p.31)

印環型(いんかんがた) ●空胞(p.36)

印環細胞癌(いんかんさいぼうがん) ●腺癌(p.73)

飲作用(いんさよう) ●エンドサイトーシス(p.15)

飲小胞(いんしょうほう) = 嚥飲空胞(p.13)

インディアンファイル状(—じょう)

indian file-like

同: 線状配列(linear arrangement), vertebral column

細胞*が一行に並んだ状態。 ●連珠状, 索状

注 1. 語源は, インディアンが襲撃するときに縦列に並ぶ様子からきている。

2. インディアンファイルでは細胞は一行に並ぶ。数列に並んだ状態は柵状配列*(palisading)と称される。

3. 肺の小細胞癌*, 乳腺の硬癌や浸潤性小葉癌にみられる。

4. 婦人科細胞診の異形成*や上皮内癌*の円形細胞が一行に並んでいる様をインディアンファイル状と呼ぶこともあるが, 一般的には連珠状*(数珠状, 念珠状)と表現されることが多い。

院内感染(いんないかんせん) ●日和見感染(p.109)

え

栄養膜(えいようまく) =トロホブラスト(p.93)

APUD 細胞(えーぴーゆーでいーさいぼう) =クルチツキー細胞(p.39)

エオジン好性指数(えこうせいしすう) ●細胞診指数(p.52)

エクソサイトーシス

exocytosis

同: 開口放出, Ω型分泌(Ω type secretion)

分泌顆粒の膜が細胞膜と融合することにより顆粒内の物質が細胞外に放出されること。比較的分子量の大きい物質の分泌様式の1つ。

注 1. 神経内分泌顆粒内には種々のペプチドやアミンなどが含まれており, これらの放出様式は開口分泌を示す。

2. 電頭的には, 放出に際し相互の膜がオメガ(Ω)型の融合を示すことからオメガ(Ω)型分泌(放出)と呼ばれることもある。

壊死(えし)

necrosis

全身死に対して生体内で局所性に起こる細胞*や組織*の死を壊死と呼ぶ。従来, 細胞の死は壊死という言葉で総括されていたが, 現在では細胞の死は壊死とアポトーシス*(apoptosis)に分けられている。壊死は虚血や物理的, 化学的要因あるいは細菌やウイルスの感染などの生物学的要因に起因する偶発的な細胞や組織の死であり, その性状により凝固壊死(coagulation necrosis), 乾酪壊死(caseous necrosis), 融解壊死(液化壊死; colliquative necrosis), 脂肪壊死(fat necrosis), 壊疽(gangrene)などに分けられる。壊死とアポトーシスは形態的にも異なる。壊死の形態は作用する原因により異なるが, 一般的には細胞表面の各所から小さな水疱状の細胞突出(blebbing)を生じ, 細胞質*, 核*ともに膨化する。次いで細胞内小器官の変性*と崩壊, 核の変化(核融解*, 核崩壊*, 核濃縮*)を示して細胞*は死に至る。

注 1. アポトーシスでは壊死とは異なる特徴的な形態的变化がみられる。 ●アポトーシス

2. 乾酪壊死は凝固壊死の一型で, チーズ様の壊死巣を形成する。結核結節に認められる。

用例壊死組織(necrotic tissue)

壊死巣(focus of necrosis)

腫瘍壊死(tumor necrosis)

炎症*性壊死(inflammatory necrosis)

壊死背景(えしはいけい) ●背景(p.102)

SIL(えすあいえる, しる) ●ベセスダシステム(p.115)

N/C 比(えぬしーひ) ●核・細胞質比(p.20)

嚥飲空胞(えんいんくうほう)

pinosome

同：飲小胞(pinocytotic vesicle)

細胞*が外部にある液体を取り込む際に形成される小胞。固形物や粒子状物質の取り込み(phagocytosis)の結果形成される貪食空胞(ファゴソーム; phagosome)と区別される。

注 1. 嚥飲空胞の中で血管内皮細胞や筋細胞には、直径 60nm で外周に被覆を持たない小胞が多数観察され、特に微細飲小胞(micropinocytotic vesicle)またはカベオーレ(caveolae; 小窩, たこ壺)と呼ばれる。

2. 嚥飲空胞は形成後、貪食空胞と同様に直接あるいは互いに融合した後、一次リソソームと融合してヘテロリソソームとなり、内容物は加水分解される。

炎症(えんしょう)

inflammation

さまざまな起炎刺激に対する生体の防御反応の1つ。サイトカインの働きによる局所における血漿成分の滲出と血球の遊走化に特徴づけられる反応。

注 1. 炎症はさまざまな起炎刺激で起こる。その違いにより発症のしかた、持続ならびに生体の示す組織反応は一様ではない。

2. 臓器・組織名の前に起炎物質(刺激)を冠することで炎症の原因を、臓器・組織名の後に「炎」を付けることで炎症の場を表す。

用例化膿性炎症(suppurative inflammation: 炎症の反応)

細菌性心内膜炎(bacterial endocarditis: 炎症の原因ならびに場を表現)

自己免疫性甲状腺炎(autoimmune thyroiditis: 炎症の原因ならびに場を表現)

炎症性背景(えんしょうせいはいけい) ●背景(p.102)

遠心塗抹法(えんしんとまつほう)

centrifugal preparation

液状検体で行われる細胞収集法。遠沈と塗抹操作を特殊な器械を用いて同時に行う検体処理方法である。

注 1. 検体を特殊な遠沈用セルに注ぎ、700~1,500rpm で5分間遠沈しながら、あらかじめセル底部に装置されたスライドガラス面に細胞を付着させる。

2. 細胞成分が多いと塗抹面が厚くなり、少ないと薄くなるので、希釈濃度をうまく調整して均一な薄層標本を作ることが大切である。

3. 遠沈速度と遠沈時間は、検体種類別にそれぞれ設定する必要がある。特に髄液は細胞の膨化、破壊がその条件により影響を受けやすい。

用例自動遠心塗抹法(automatic centrifugal preparation)

自動細胞収集装置法(オートスミア法 ; auto-smear method)

サイトスピン・オートスミア法(cytospin auto-smear method)

円柱上皮細胞(えんちゅうじょうひさいぼう)

columnar epithelial cell

円柱状の上皮細胞の総称で、消化管、気道をはじめ全身諸臓器に分布する。通常単層に配列するが、2層または多列状のこともある。

注 1. 円柱上皮細胞は、胃、腸、膵・胆管系、子宮内膜、頸管、卵管、前立腺、精管、上気道、気管・気管支、外分泌腺*に分布する。

2. すべての円柱上皮細胞は基底側で間質*に接し、他方自由表面では体外に面し、物質の吸収、分泌、輸送などの機能を果たす。自由表面においては、その機能に応じて微絨毛*、線毛*などの構造を有する。

3. 腺上皮細胞(glandular epithelial cell)は本来、分泌腺を構成する上皮細胞をさすが、実際には円柱上皮細胞とほぼ同義か、さらに立方上皮細胞(cuboidal epithelial cell)をも含めた広い意味に使われることが多い。ただ、明らかな被覆円柱上皮細胞をも腺上皮細胞と呼ぶのは無理があると思われる。

4. 円柱上皮細胞が特定の臓器または疾患で特徴的な形態を示すことがある。たとえば、腸管の杯細胞(goblet cell)、卵巣明細胞癌のホブネイル細胞(hobnail cell)などがその例である。胃癌の印環細胞癌(signet ring cell carcinoma)も胃の腺上皮細胞が変化したものである。

5. 細胞診では円柱上皮細胞は核*の偏在した極性のある細胞として出現する。

用例被覆円柱上皮細胞(surface columnar epithelial cell)

線毛円柱上皮細胞(ciliated columnar epithelial cell)

多列円柱上皮細胞(pseudostratified columnar epithelial cell)

エンドサイトーシス

endocytosis

細胞が細胞膜の流動と融合によって外部から物質を摂取する過程。固体を取り込む貪食(phagocytosis)と液体を取り込む飲作用(pin-ocytosis)が区別される。 ●エクソサイトーシス

燕麦細胞癌(えんばくさいぼうがん) ●小細胞癌(p.64)

お

オカルト癌(一がん)

occult carcinoma

諸臓器転移巣による臨床症状が先行するために原発巣*を検索したが発見されず、その後原発巣として発見された癌*。さまざまな臓器で見られる。

注 1. occult carcinoma の邦訳は一定せず、潜在癌、潜伏癌、原発不明臨床癌などが用いられている。そのため、混乱を防ぐためにあえて片仮名を用い「オカルト癌」と表記されている(「前立腺癌取扱い規約」、 「甲状腺癌取扱い規約」)。

2. 非臨床癌(subclinical cancer)の一種である。

Ω型分泌(おめががたぶんび [つ]) =エクソサイトーシス(p.12)

オルガネラ =細胞内小器官(p.53)

か

開口放出(かいこうほうしゅつ) =エクソサイトーシス(p.12)

外胚葉(がいはいよう)

ectoderm

初期胚の最外層をいう。表皮組織, 神経系, 外部感覚器などが発生する母地となる。 ●中胚葉, 内胚葉

注 1. 受精卵は有糸分裂による分割が終わると胞状胚となり胚胞腔を形成する。この胚胞腔の内細胞塊(胚結節)は発生第2週目に外胚葉と内胚葉*に分化*する。外界との連絡のある外胚葉からは, 発生第4~8週に, 主に体表に近い組織*および神経系が形成される。

2. 外胚葉成分としては以下のものが含まれる。①体表をおおう上皮組織(表皮, 口・肛門の粘膜, 毛髪, 脂腺・汗腺), ②神経組織(中枢神経: 脳・脊髄, 末梢神経), ③眼球, 外耳道, 鼻腔・副鼻腔の上皮, ④乳腺, ⑤下垂体前葉, ⑥副腎髄質, ⑦メラニン*形成細胞。

用例神経外胚葉 [neural ectoderm(neuroderm)]

原始外胚葉(primitive ectoderm)

外分泌腺(がいぶんび [つ] せん)

exocrine gland

導管を有する腺組織で, 分泌物は体表や管腔の内腔に排出される。

注外分泌腺には涙腺, 唾液腺, 乳腺, 汗腺, 皮脂腺などがある。

用例単純外分泌腺(simple exocrine gland)

複合外分泌腺(compound exocrine gland)

潰瘍(かいよう)

ulcer

粘膜面, 皮膚面における限局性の組織欠損をいう。

注潰瘍を狭義で用いる場合には, 粘膜では粘膜筋板をこえる深さに, 皮膚の場合は真皮以下に達するものをいう。これより浅い組織欠損はびらん*(erosion)と呼ぶ。広義に用いる場合には, びらんは潰瘍に含まれる。

用例消化性潰瘍(peptic ulcer)

外陰潰瘍(vulvar ulcer)

潰瘍性大腸炎(ulcerative colitis)

過角化 [症] (かかっかしょう) ●角化(p.25)

花冠状(かかんじょう) =ロゼット状(p.135)

架橋固定(かきょうこてい) ●固定(p.45)

核(かく)

nucleus

真核細胞を特徴づける構造で、細胞内にあつて多孔性膜構造〔核膜(nuclear membrane)〕により周囲の細胞質*から境され、内部にクロマチン*(chromatin; 染色質)と核小体*(nucleolus)を有し、遺伝情報の保持と伝達を担っている。核の大きさはさまざまで、同じ種類の細胞*でも活発な DNA 機能を有する核は不活発な細胞の核より大きい。癌細胞の核は大きく、形状も不整であることが多い。

注核・細胞質比*(N/C 比, nucleocytoplasmic ratio; N/C ratio)とは核の細胞質*に対する面積比ないし容積比である。この比は一般に細胞の分化度が低ければ大きく、細胞質の分化*が進んでいるほど小さい。腫瘍細胞、特に癌*では核*の容積が増大するので N/C 比は大きな値となる傾向がある。

核異常(かくいじょう)

dyskaryosis

パパニコロウ(Papanicolaou)により名づけられた用語で、細胞質*は正常な分化*を示すが、核*に異型*の認められる状態をいう。slight(early)dyskaryosis と advanced(late)dyskaryosis に分類される。

注 1. 核異常は細胞形態に関する用語であるが、概念的には組織学的な異形成*(dysplasia)に相当する変化と認識される。

2. そのため、核異常細胞(dyskaryotic cell)という語が異形成由来の細胞という意味で使用されてきた。しかし、近年欧米では異形成細胞(dysplastic cell)という語が使用され、dyskaryotic cell は用いられなくなっている。

用例核異常細胞(dyskaryotic cell: 注 2 参照)

核異常細胞(かくいじょうさいぼう) ●核異常(前項)

角化(かくか) ●角化(かっか)(p.25)

核凝縮(かくぎょうしゅく) = 核濃縮(p.22)

核形(かくけい)

nuclear shape

核*の形態。正常あるいは良性*の細胞核は類円形であるのが一般的である。

注 1. 細胞*の種類によって特有の形態を示し、組織球における腎形(kidney shaped)、杯細胞における三日月形、好中球の分葉状(lobulated)などがある。

2. 細胞内の構造によって変形(細胞質内封入体や空胞*などによる圧排)することがある。

3. 核形は細胞の角化*、細胞死〔核融解*(karyolysis)、核崩壊(karyorrhexis)、核濃縮*(picnosis)など〕、腫瘍化〔巨大化(huge, gigantic)、芽出(budding)、分葉化、奇怪形(bizarre)など〕によって変化する。

4. 核形の表現法として、円形(round)、卵円形(oval)、半月形(semilunar)、楕円形(elliptical)、紡錘形(spindle-shaped, fusiform)、脳回状(convoluted)などがある。

核溝(かくこう)

nuclear groove

核膜がひだ状に陥入したもので、核*の長軸方向に平行にみられることが多く、このため核はしばしばコーヒー豆(coffee bean)状となる。種々の腫瘍*でみられるが、特に甲状腺の乳頭癌、卵巣の顆粒膜細胞腫、ブレンナー腫瘍(Brenner tumor)などで著明である。

核・細胞質比(かくさいぼうしつひ)

nucleocytoplasmic ratio, nucleus/cytoplasm ratio

略語：N/C 比

核*と細胞質*との面積比を示すもので、細胞診断における良悪性鑑別の重要な指標である。一般に、悪性細胞では核腫大がみられることから、N/C 比は高い(大である、増大するとも表現される)。

注 細胞質が失われた状態で出現する細胞*を裸核(bare nucleus)細胞というが、この場合には N/C 比という表現は用いない。

核周囲明庭(かくしゅういめいてい)

perinuclear halo

同：核周明庭

核*の周囲が明るく抜けて見えること。正常扁平上皮、扁平上皮化生(squamous metaplasia)、変性*、炎症*、感染症〔ヒトパピローマウイルス(human papilloma virus; HPV)] でみられる。

注 HPV 感染でみられる場合はコイロサイトーシス*(koilocytosis)という。

核周明庭(かくしゅういめいてい) =核周囲明庭(前項)

核小体(かくしょうたい)

nucleolus

核*の内部に存在する構造物で、リボソーム RNA(rRNA)の合成にあずかっている。電子顕微鏡で観察すると核小体中には3つの領域が区別される。すなわち、①淡染する線維状中心(あまり盛んに転写されていない DNA を含む)、②電子密度の高い線維状成分(転写中の RNA 分子を含む)、③顆粒状成分(成熟途上のリボソーム前駆体粒子を含む)である。

注 1. 核小体は有糸分裂の中期に消失し終期に再び出現する。このとき必ず特定の染色体*の一定の部位に出現し活発な RNA 合成を示す。この特定の部位を核小体形成域(nucleolar organizer region; NOR)と呼ぶが、これは rRNA 遺伝子の位置に相当する。

2. ヒトの NOR は 5 種類の染色体の先端にあり、ここに合計 10 個の小さな核小体ができる。これらは成長して融合し、間期には 1 個の大きな核小体となる。腫瘍細胞では、NOR の好銀性(argyrophilia)を利用し、その数を数えて増殖性の指標にすることがある。

核染色(かくせんしょく) =フォイルゲン染色(p.112)

喀痰融解法(かくたんゆうかいほう)

sputum homogenizing technique

同：蓄痰粘液融解法

痰をたんばく分解酵素を含む保存液とよく混和し、粘液*を十分融解した後遠沈して沈渣を塗抹する方法である。

注 1. 本法は、特殊な器具を必要とせず操作は簡単であるが、細胞変性が強く、細胞*の微細な構造を観察するには不適である。また、サコマノ(Sacomanno)法*より長期保存に耐えない欠点がある。

2. 標本作製にあたっては、次の点に気をつける。

①喀出した痰に固定*むらがないように喀出後、よく振盪する。

②融解した痰を均質な粘液状ないし糊状液にするためにブレンダーを用いて攪拌する。

③他の保存液を用いた場合には、あらかじめ、スライドガラスにメッシュセメントやポリ L リジンなどにより脱落防止の処理をしておくことが必要である。

④2枚のスライドガラスに駒込、毛細管ピペットで1~2滴上記②液を滴下、すり合わせ塗抹を行う。

⑤95%エタノールに約10分間浸漬した後パパニコロウ染色*を行う。

3. 本法は、直接塗抹法と比較してサコマノ法*と同様の長所、短所があるが、特に長期保存に関してはサコマノ法に比べて劣っている。

核内空胞(かくないくうほう) ●空胞(p.36)

核濃縮(かくのうしゆく)

pyknosis

同：核凝縮

細胞核が縮小してヘマトキシリンなどの好塩基性色素に濃染する退行性の現象である。DNA は濃縮して好塩基性の塊となる。

注 1. 細胞*の壊死過程において、核*の変化として核濃縮、核崩壊、核融解*のいずれかが起こる。また、核濃縮に次いで核崩壊、核融解が起こることがある。

2. 壊死*とは異なる細胞死にアポトーシス*(apoptosis)があるが、核濃縮はその過程でも生じる。

核濃縮指数(かくのうしゆくしすう) ●細胞診指数(p.52)

核破壊(かくはかい) =核崩壊(次々項)

核反応(かくはんのう) =フォイルゲン染色(p.112)

核崩壊(かくほうかい)

karyorrhexis

同：核破壊

核膜が消失して染色質が大小不同の塊になり、細胞質内に散在していく現象をいう。

注核崩壊後、染色質塊は好塩基性の染色性*を失って核融解*(karyolysis)に至る。

核融解(かくゆうかい)

karyolysis

同：核溶解

核*の染色性*が不良になって核の消失に至る現象。細胞内の pH が下がり、DNA 分解酵素が活性化することによって生じる。

注染色質融解(chromatolysis)と同じ意味に用いられる。

核溶解(かくようかい) =核融解(前項)

過形成(かけいせい)

hyperplasia

組織*の正常構築を乱さずに正常細胞の数が異常に増えること。細胞増加を促す因子が除去されれば元の状態に戻りうる。

注 hyperplasia は増殖*〔症〕と訳されることがある。

用例副腎皮質過形成(adrenal cortical hyperplasia: 部位を明示)

炎症性過形成(inflammatory hyperplasia: 原因を明示)

巨大濾胞増殖(giant follicular hyperplasia: リンパ節の胚中心過形成)

子宮内膜増殖症(endometrial hyperplasia)

スイスチーズ様増殖症(Swiss-cheese hyperplasia)

過誤腫(かごしゅ)

hamartoma

器官や組織を構成する成分の一部が正常とは異なる比率で容積を増している状態をいう。存在部位は正常である。腫瘤を形成するが腫瘍ではなく、発生異常に起因すると考えられている。

注肺などに発生する。

用例軟骨腫性過誤腫(chondromatous hamartoma: 軟骨の結節からなり、線維脂肪組織を伴い気管支上皮が混在する)

平滑筋腫性過誤腫(leiomyomatous hamartoma: 大部分の成分が平滑筋と細気管支からなる)

化生(かせい)

metaplasia

ある組織*の成熟細胞が元来存在すべき部位以外に出現し、そのために本来の細胞が別種の細胞に置換されること。すなわち、ある組織の成熟細胞が、その組織では本来存在しないような形態を示すことをいう。可逆的変化である場合が多い。

注 1. metaplasia は異形成*と訳されることもあるが、この場合は dysplasia との混同を生じるので化生とするのが望ましい。

2. 化生は形態学的に正常な組織における所見に用いられるほか、癌組織の所見の形容にも使用されることがある。通常よくみられる組織型内にそれと異なる頻度のまれな組織型が混在している際には、後者が化生とされる。

用例

扁平上皮化生〔squamous metaplasia (=epidermization; 表皮化生)〕

腸上皮化生(intestinal metaplasia)

骨化生(osseous metaplasia: 不可逆的変化)

アポクリン化生(apocrine metaplasia)

腺癌*の扁平上皮化生(squamous metaplasia)

子宮頸部・体部の腺棘細胞癌*(adenoacanthoma)の定義: 腺癌細胞の一部に扁平上皮化生を認める(「子

宮頸癌・体癌取扱い規約」)。

化生癌(かせいがん) = 癌肉腫(p.31)

仮性肥大(かせいひだい) ●萎縮(p.9), 肥大(p.109)

画像解析(がぞうかいせき)

morphometry

細胞*や組織*などの形態情報を、画像入力装置を用いてコンピュータに取り込み、客観的に解析する方法。問題とする形態要素の、数、面積、周長、重心検出、分布密度、染色(蛍光)濃度などの測定を行うことができる。

用例染色体画像解析(chromosome morphometry)

蛍光画像解析(fluorescence morphometry)

カラー画像解析(color image analysis)

角化(かっか, かくか)

keratinization

重層扁平上皮の表層細胞に角質(高分子ケラチン)が生成されることで、細胞質*はオレンジ G 好性を示す。

注 生理的に角化が起こるのは表皮のみで、生理的には角化のない粘膜が角化することを類表皮化(表皮化生, 扁平上皮化生; epidermization)という。粘膜原発の扁平上皮癌*が類表皮癌(epidermoid carcinoma)と呼ばれることがあるのはこのことに由来する。

用例角化症(keratosis)

異[常]角化[症](dyskeratosis)

錯角化[症](parakeratosis)

過角化[症](hyperkeratosis: 角化の過剰状態)

角化真珠(かっかしんじゅ) = 癌真珠(p.30)

滑面小胞体(かつめんしょうほうたい) ●小胞体(p.66)

カテーテル尿(—にょう)

catheterized urine

尿管膀胱鏡を挿入し、これより尿管カテーテルを尿管口に入れ、尿管から滴下する尿や腎盂に溜っている尿を採取する。これは採取部位と左右いずれの腎または尿路かを明確にする目的で行われる。

注 排尿後カテーテルを挿入し、生食水あるいはたんぱく分解酵素を含んだ洗浄液(5mg の α -キモトリプシンを 100ml の均衡電解質溶液に溶かしたもの)50ml を注入し、4~5 回パンピング(pumping)して液を回収する洗浄法*がある。

用例尿管カテーテル法(ureteral catheterization)

腎盂カテーテル法(renal pelvic catheterization)

カニバリズム = 相互封入像(p.82)

カルチノイド

carcinoid

同：銀親和性細胞腫(argentaffinoma)

クロム親和性細胞(enterochromaffin cell), クルチツキー(Kultschitzky)細胞*などの神経内分泌細胞から生じる小円型細胞腫瘍で, 可溶性銀塩との親和性を示し, ささまざまなホルモン様物質を産生・分泌する。

注 1. カルチノイドはセロトニン, カリクレイン, ヒスタミンなどの活性物質を産生・分泌するために, 特有のカルチノイド症候群(皮膚紅潮, 下痢, 気管支喘息など)を呈することがある。好発部位は消化管, 気管支であるが, 全身のさまざまな部位に発生する。

2. カルチノイドは組織学的には細胞配列, 構成細胞に特徴がある。細胞配列は充実結節状胞巣をとるもの, 索状*, リボン状, ロゼット状*, 腺房状*, 腺様構造をとるものなどさまざまな型がある。構成細胞は小型の円形-立方形で, 核*は均一で小円形-卵円形, クロマチン*は豊富で核は細胞*の中心にある。多形性や分裂像をみることはほとんどなく, 腫瘍細胞は単調均一である。電顕的には細胞質*に電子密度の高い小型の円形-楕円形の分泌顆粒を認める。

3. 消化管では粘膜下腫瘍としてみられることが多い。

用例カルチノイド症候群(carcinoid syndrome)

異型カルチノイド(atypical carcinoid)

癌(がん)

cancer

同：悪性腫瘍(malignant tumor), 悪性新生物(malignant neoplasm)

浸潤性ないし転移性増殖を示しうる病変で, 悪性新生物(悪性腫瘍)の別称である。組織学的所見により癌腫*(carcinoma), 肉腫*(sarcoma)に二大別され, それぞれ上皮性, 非上皮性である。 ●癌腫, 肉腫

注 1. 臓器名, 組織名の語尾に用いられる場合は癌腫を意味する(「日本癌学会」)。

2. 平仮名の「がん」は白血病などを含めてすべての悪性腫瘍を意味し, 漢字の「癌」は上皮性悪性腫瘍を意味するものとして, 両者を区別して書く考えがあるが, 音声上両者を区別しがたい難点がある(「日本癌治療学会・癌規約総論」)。

用例癌化(癌発生) [canceration(cancerization) : この場合の癌は悪性腫瘍全体をさす]

胃癌(gastric cancer: 胃の癌腫)

三重癌(triple cancer: 異なる 3 か所に発生した癌腫)

間質(かんしつ)

stroma

同：基質, 支質(interstitium, interstitial tissue)

一連の機能を持つ細胞*・組織*群である実質*成分以外の支持組織をいう。

注 1. 間隙(interstice)は構造物間の小さなすきま, 空隙をいう。ただし, interstitium と同義に用いられる場合がある。

2. 腫瘍*でも, 一般の正常構造と同様に, 腫瘍細胞からなる実質と, 結合組織, 血管, リンパ管などからなる間質から構成されている。

用例間質細胞*(stromal cell)

間質細胞肉腫(stromal cell sarcoma)

間質細胞(かんしつさいぼう)

stromal cell

同：間葉系細胞(mesenchymal cell), 非上皮細胞(non-epithelial cell)

実質の間を埋める間質組織を構成する細胞*のこと。細胞相互の接着性が弱く極性に乏しく、各種の線維、基質など豊富な細胞外物質を伴う。

注 1. 間質組織は間葉組織(mesenchyme), 非上皮組織(non-epithelial tissue)とほぼ同義である。

2. 総論的には、軟部組織を構成する線維芽細胞(fibroblast), 細網細胞(reticulum cell), 脂肪細胞(fat cell), 未分化間葉細胞(undifferentiated mesenchymal cell), 硬組織を構成する骨細胞, 軟骨細胞が含まれる。筋組織, 神経組織はそれ自体独自の機能を有し, 本来の間質*の概念からははずれるが, 分類上, 非上皮組織なので筋細胞, 神経細胞も間質細胞に含められることが多い。

3. 各臓器組織に特徴的な間質細胞として, 血管周皮細胞(hemangiopericyte), 神経膠細胞(neuroglia cell), シュワン細胞(Schwann cell), 子宮内膜間質細胞(endometrial stromal cell), 精巣のライディッヒ細胞(Leydig cell), 糸球体のメサンギウム細胞(mesangial cell)などがある。

4. 間質細胞はほとんどが中胚葉*由来である。

癌腫(がんしゅ)

carcinoma

同：悪性上皮性腫瘍(新生物) [malignant epithelial tumor(neoplasm)]

上皮性悪性腫瘍をいう。

注 carcinoma を単に癌*(がん)と訳すこともある。

感受性(かんじゅせい)

sensitivity

□ 1 検査, 調査, 検定などで陽性と判定された者のうち真に陽性であった者の割合, すなわち正しく陽性と判定した比率をいう。以下の式で算定される。

感受性 = 真陽性者数 / (真陽性者数 + 誤陰性者数)

= 真陽性者数 / 患者総数

同：感度, true positive rate

注 1. 喀痰細胞診による肺癌検診の場合, 陽性と判定保留(パパニコロウ分類*で classIII)の 2 群の中から精査の結果肺癌が認められた者を真陽性(true positive), 認められなかった者を誤陽性(false positive)という。陰性と判定された者のうち肺癌が見逃されていた者(一定期間のフォローアップまたは次年度の検診で陽性と判定され, 当該年度の検診で見逃されていたと推定される者)を誤陰性(false negative), 認められない者を真陰性(true negative)という。

2. 真陽性, 誤陽性, 誤陰性, 真陰性の関係は以下の表のとおりである。

表 真陽性, 誤陽性, 誤陰性, 真陰性の関係

疾患の有無あり なし 判定 陽性陰性

真陽性誤陰性 誤陽性真陰性

3. 類義語および周辺の用語との関係は次のとおり。

疑陽性：判定保留例またはパパニコロウ分類 classIII

誤陽性率および誤陰性率*：本用語集の該当項目を参照

誤陽性率(疾患のない者を陽性と判定した比率)

$$= \text{誤陽性者数} / (\text{誤陽性者数} + \text{真陰性者数})$$

$$= \text{検査陽性者数} / \text{健常者総数}$$

誤陰性率(疾患を持つ者を陰性と判定した比率)

$$= \text{誤陰性者数} / (\text{真陽性者数} + \text{誤陰性者数})$$

$$= \text{検査陰性者数} / \text{患者総数}$$

陽性判定的中度(検査陽性者中実際に疾患を持つ者の比率)

$$= \text{真陽性者数} / (\text{真陽性者数} + \text{誤陽性者数})$$

陰性判定的中度(検査陰性者中実際に疾患のない者の比率)

$$= \text{真陰性者数} / (\text{真陰性者数} + \text{誤陰性者数})$$

□ 2 薬剤やさまざまな刺激に対する生体，組織，細胞の感じやすさや反応の程度をいう。

用例抗生物質感受性(antibiotic sensitivity)

光アレルギー感受性(photoallergic sensitivity)

癌真珠(がんしんじゅ)

cancer pearl

同：角化真珠(keratin pearl)

扁平上皮細胞*が角化物質塊を中心にタマネギ状に取り巻いて出現したもので，悪性基準を満たす細胞*によって形成された集団をいう。角化型扁平上皮癌にみられる。良性細胞によって形成される良性真珠との鑑別が必要である。

注 このような細胞集団の出現様式を良性*，悪性*を問わず真珠形式(pearl formation)という。

乾燥固定(かんそうこてい) ●固定(p.45)

含鉄小体(がんでつしょうたい)

ferruginous body

肺内に沈着した線維成分がマクロファージに貪食され，鉄たんぱく複合体で被覆されたもの。鉄亜鈴形，鎖状などを呈し，パパニコロウ染色*で黄緑色～黄褐色に染色される。

注線維成分が石綿を主体とする場合，アスベスト小体*と呼ばれる。線維成分が必ずしもアスベスト繊維とは限らないため，一般に含鉄小体と呼ばれる。

感度(かんど) =感受性(p.28)

癌肉腫(がんにくしゅ)

carcinosarcoma

同：いわゆる癌肉腫(so-called carcinosarcoma)，紡錘細胞化生を伴う癌(carcinoma with spindle cell

metaplasia), 化生癌(metaplastic carcinoma)癌腫成分と肉腫*成分とからなる混合腫瘍である。

注 1. 肉腫成分は平滑筋肉腫, 横紋筋肉腫, 骨肉腫, 脂肪肉腫などのいずれかであるか, または混合してみられる。

2. 肉腫成分が実際には癌腫細胞の紡錘形または多形性変化とみなされる場合は, 「いわゆる癌肉腫」(so-called carcinosarcoma)と呼ばれる。喉頭, 食道, 皮膚などの癌肉腫の大部分はこれである。

3. 子宮内膜の「癌肉腫」は, 肉腫成分が同所性(homologous)の場合(平滑筋肉腫や内膜の間質肉腫成分)に用いられ, 骨や軟骨など異所性*(heterologous)な成分の場合には悪性中胚葉性混合腫瘍(malignant mixed mesodermal tumor)と呼んで区別されたが, 今日では同所性腫瘍, 異所性腫瘍の総称として用いられる。

4. 乳腺の場合には化生癌(metaplastic carcinoma)と好んで呼ばれる。

用例食道癌肉腫(esophageal carcinosarcoma)

子宮癌肉腫(uterine carcinosarcoma)

間葉系細胞(かんようけいさいぼう) = 間質細胞(p.27)

乾酪壊死(かんらくえし) ●壊死(p.12)

き

偽陰性率(ぎいんせいりつ) = 誤陰性率(p.42)

奇怪細胞(きかいさいぼう)

bizarre cell

大型で著明な形状の異常を示す細胞*をいう。癌細胞の表現として用いられる。

注分化型扁平上皮癌や放射線照射後にも出現する。オタマジックシ型細胞(tadpole cell), 線維型細胞(fiber type cell), 蛇型細胞(snake cell), 鳥の目型細胞(bird eye cell; cannibalism), 異常に大型の有尾型細胞などはその一種である。

菊座(きくざ) = ロゼット状(p.135)

奇形腫(きけいしゅ)

teratoma

1つの腫瘍内に内胚葉*, 中胚葉*, 外胚葉*の3胚葉組織成分が混在しているものをいい, 卵巣, 精巣(睾丸), 脳, 縦隔などから発生する。分化の程度により良性*の成熟型(mature), 悪性*の未熟型(immature)に分ける。卵巣腫瘍では未熟型はさらに第1~3度に分類する。成熟型からときに悪性化することがある。その大部分は扁平上皮癌*で, ときに腺癌*も出現する。

注 1. 皮様嚢胞腫(dermoid cyst)は成熟嚢胞性奇形腫(mature cystic teratoma)とも呼ばれる(「卵巣腫瘍取扱い規約」)。

2. 充実性奇形腫(solid teratoma)は未熟奇形腫(immature teratoma)を, 嚢胞性奇形腫(cystic teratoma)は成熟奇形腫(mature teratoma)を意味することが多い。

3. 卵巣甲状腺腫(struma ovarii)は奇形腫の一型で, 卵巣に甲状腺と同様の組織*または濾胞腺腫ないし

腺腫様甲状腺腫類似の組織がほぼ腫瘍全体を占有する。

4. 神経膠播種(gliar implantation), 腹膜神経膠腫症(peritoneal gliomatosis)は, 奇形腫*に合併して神経膠組織が腹腔内に播種*したもの。すべてが神経膠組織であれば第0度とする。

5. カルチノイド*は多くの臓器から発生するが, 卵巣などでは奇形腫の一成分としてみられることがある。

用例胎児型成熟嚢胞性奇形腫(embryonic mature cystic teratoma: よく分化*した各種器官を模倣するもの)

基質(きしつ) = 間質(p.27)

基底細胞(きていさいぼう) ●予備細胞(p.130)

基底膜(きていまく)

basement membrane

上皮組織, 筋組織, 神経組織が間質組織と境を接するところに存在する膜様構造物で, 透明板, 基板, 細網板の3層からなる。主としてIV型コラーゲン, フィブロネクチン, ラミニンからなる。

注表皮の最下層である基底層(stratum basale)は細胞層であり, 基底膜はさらにその下に存在する。

機能性腺腫(きのうせいせんしゅ) ●腺腫(p.75)

ギムザ染色(—せんしょく)

Giemsa stain

塗抹後, 急速に乾燥してメタノールで固定*し, ギムザ希釈液で核*を濃紫—赤紫色に, 細胞質*を淡桃—桃—淡青—青色に染める染色法である。血液標本に広く用いられているほか, 一般の細胞診標本にも用いられる。

注1. この染色の要点は, 塗抹後の急速乾燥である。

2. 細胞診では, 塗抹時乾燥しやすい穿刺吸引材料, 塗抹細胞の剥離しやすい液状検体, 造血器腫瘍の検体などに用いる。

3. メイ・ギムザ染色(May-Giemsa stain)では, メタノールの代わりにメイ・グリュンヴァルト(May-Grunwald)液を用いて固定する。細胞質内顆粒の染色性*に優れている。

木目込み細工様配列(きめこみざいくようはいれつ)

細胞相互が密接に結合しあつて, お互いに圧排し合うように鑄型状に配列した状態。 ●相互圧排像, モールディング

注 肺小細胞癌などでみられる。

キャノンボール [状] (—じょう)

cannon ball [-like]

白血球が集まり塊状をなしたもの。

注 Frost がトリコモナス膣炎の際の特徴的所見として報告したが, 放射線治療時などにも認められることがある。

吸飲小胞(きゅういんしょうぼう) ●リソソーム(p.132)

球状硝子体(きゅうじょうしょうたい)

hyaline globule

卵黄囊腫瘍(ヨークサック腫瘍; **yolk sac tumor**)の細胞質内外に認められる好酸性, PAS 陽性, 消化試験抵抗性の小型球状無構造物質。AFP(α -フェトプロテイン)そのものといわれたが異説がある。ラミニン, IV型コラーゲンが含まれている。

境界病変(きょうかいびょうへん)

borderline lesion

組織学的に良性*と悪性*の中間の像を示す病変。子宮頸部, 食道などの異形成*(**dysplasia**), 子宮内膜異型増殖症(**atypical endometrial hyperplasia**)などがこれに相当する。これらの中には前癌病変*と位置づけられるものもある。細胞診では誤陽性ないしパパニコウ分類 **class III**とされることが多い。注境界病変の概念を実際の病態に適用する際には, 見解の不一致をみる場合がある。消化管の管状腺腫(**tubular adenoma**)を良性とみなすか境界病変とするか, あるいは卵巣腫瘍の低悪性(境界悪性)群を境界病変とするか, 悪性に含めるか, などはその例である。

凝固沈殿固定(ぎょうちんでんこてい) ●固定(p.45)

偽陽性率(ぎようせいりつ) = 誤陽性率(p.46)

鏡面像(きょうめんぞう)

mirror image

同じような形態の核*が2つ向き合って, あたかも鏡に写ったような対称像を呈する状態をいう。

注ホジキン病(**Hodgkin disease**)のリード・ステルンベルグ(**Reed-Sternberg**)細胞にみられる。

偽ロゼット(ぎー) ●ロゼット状(p.135)

菌交代現象(きんこうたいげんしょう) ●日和見感染(p.109)

筋上皮細胞(きんじょうひさいぼう)

myoepithelial cell

外分泌腺*の終末部の上皮細胞の基底膜側に配列している細胞*。収縮性細糸を有し, 分泌物の排出に関与する。

注 1. 外分泌腺腫瘍(乳腺, 唾液腺など)では, 筋上皮細胞の有無が良・悪性の鑑別に重要な指標となることがある(筋上皮細胞があれば良性*, なければ悪性*).

2. 筋上皮細胞は抗 S-100 たんぱく抗体や抗アクチン抗体を用いると, 上皮細胞との鑑別が可能な場合がある。

銀親和性細胞腫(ぎんしんわせいさいぼうしゅ) = カルチノイド(p.26)

く

偶発癌(ぐうはつがん)

incidental carcinoma

非悪性疾患として検査ないし治療のために切除・摘出された組織*に, 顕微鏡的検索によって発見された癌*をいう。

注 1. 偶発癌をはじめとしてラテント癌*(latent carcinoma), オカルト癌*(occult carcinoma)の概念には, 従来から種々の混乱がみられる。わが国では WHO の International Histologic Classification of Tumors, No. 22 に準拠した「前立腺癌取扱い規約」, 「甲状腺癌取扱い規約」の記述が標準的な用法である。

2. 多くは微小癌であるが, 大きさにはこだわらない。前立腺, 甲状腺にその頻度が高い。
空胞(くうほう)

vacuole

細胞内に形成された空隙または小空洞をいう。成因により, ①退行変性の結果として生じるものと, ②機能亢進による物質貯留の結果として生じるものがあり, 生じる部位によって核内空胞(intranuclear vacuole)と細胞質内空胞(cytoplasmic vacuole)とに分けられる。また, その形態により, ①蜂巢型(多数の空胞が平面的に出現), ②多空胞型(大きささまざまな空胞が立体的に出現), ③印環型(核*を圧排して細胞質内を占拠), ④不整型(癌細胞に現れる)などに分けられる。

注核周囲明庭*(perinuclear halo), 空洞化なども空胞と同義語とみなされる。

用例変性空胞(degenerated vacuole: 細胞内小器官や構成成分が変性融解して液状となり貯留したもの。核内および細胞質内に生じる)

粘液空胞(mucous vacuole: 粘液分泌の過剰な腺細胞, 腺癌細胞の細胞質内に生じる。PAS 反応などの粘液多糖類染色に陽性を示す)

クララ細胞(—さいぼう)

Clara cell

細気管支における無線毛(無粘液)立方上皮細胞 [non-ciliated(non-mucous)cuboidal epithelial cell] をいう。末梢肺腺癌の発生母細胞の1つと考えられている。

注 1. 1937年, ライプチヒ大学の Max Clara がラットの細気管支上皮の構造を記述した際に命名した。

2. 電顕的には自由縁に微絨毛*を持ち, 細胞質*に分泌顆粒, 粗面小胞体, ミトコンドリア*の発達を認める。

3. Clara cell specific 10kDa protein(Singh G, 1988), surfactant apoprotein A(Auten RL, 1990), protein 1(Barnard A, 1992)の発現を認める。

グリメリウス染色(—せんしょく)

Grimelius stain

硝酸銀液を使い, 銀メッキ反応(鍍銀反応; silver impregnation)を応用して, 細胞質内の銀親和性顆粒(argyrophil granule)を証明する染色法。

注 1. 銀親和性または好銀性(argylophilic)とは, 還元剤の助けがなければそれ自体では銀塩を還元する能力がない場合をいう。

2. 嗜銀性または銀還元性(argentaffin)とは, 還元剤の助けがなくても銀塩を還元する能力がある場合をいう。銀還元性染色法としてフォンタナ・マッソン(Fontana-Masson)染色がある。

3. 銀還元性顆粒は銀親和性反応も陽性になるが, 銀親和性顆粒は銀還元性反応陽性とは限らない。

4. はじめに銀親和性反応を行い, 陽性の場合, 銀還元性反応を行う。

5. 消化管好銀細胞(ガストリン, ヒスタミン), 膵ランゲルハンス島 A 細胞(グルカゴン), 下垂体好銀細胞, 甲状腺 C 細胞(カルシトニン), 銀還元細胞(セロトニン)など, およびそれらに由来する内分泌腫瘍細胞は銀親和性顆粒を持つ。

クルー細胞(—さいぼう)

clue cell

腔内に存在するガードネレラ菌 (*Gardnerella vaginalis*: *Hemophilus vaginalis* あるいは *Corynebacterium vaginalis* と呼ばれる)という小型のグラム陰性桿菌が扁平上皮細胞*に密に付着した状態をいう。

クルケンベルグ腫瘍(—しゅよう)

Krukenberg tumor

卵巣の二次性(転移性)腫瘍で, 消化管, 特に胃の低分化粘液性腺癌の転移*である。通常, 両側性で印環細胞を主とする大小の腫瘍胞巣が増生*した間質結合織内に存在する。まれに原発性で, クルケンベルグ腫瘍に類似した組織像を示すものがある(「卵巣腫瘍取扱い規約」)。

注 Krukenberg は卵巣の原発性の腫瘍*と考え, “fibrosarcoma ovarii mucocellulare carcinomatoides”として記載した(1896)。しかし, その後, 胃癌ことに幽門癌, まれに胆嚢癌, 膵癌, 乳癌などの卵巣への転移による腫瘍であることが明らかになった。

クルシュマンらせん体(—たい)

Curschmann spiral

終末細気管支を閉塞した気管支粘液が, 変性*, 喀出され, 喀痰中にらせん状に出現するものをいう。気管支喘息, 慢性気管支炎などの閉塞性肺炎患や肺癌などにみられることが多い。

クルチツキー細胞(—さいぼう)

Kultschitzky cell

略語: K-cell

同: 神経内分泌細胞(neuroendocrine cell), APUD 細胞(amine precursor uptake and decarboxylation cell)

気管支上皮や腸管上皮の細胞間の基底膜側に散在し, 神経内分泌機能を持つ。好銀性顆粒を有し, グリメリウス染色*で陽性となる。セロトニン, カルシトニン, GRP(gastrin releasing peptide)などを分泌する。

注 1. “Kulchitzky cell”と記載する成書もあり, 神経内分泌機能から APUD 細胞ともされるが, 最近では神経内分泌細胞と呼ばれることが多い。

2. 発生や機能には議論が多く, 外胚葉*の神経稜(神経堤; neural crest)起源とする説や, 最近では内胚葉*の上皮細胞由来とする説もある。

3. ツモレット(tumoret:「肺癌取扱い規約」)はクルチツキー細胞の腫瘍類似病変であると考えられている。

4. カルチノイド*(carcinoid)や肺の小細胞癌*(small cell carcinoma)の発生について, クルチツキー細胞との関係が議論されている。

クロマチン

chromatin

同：染色質

核内にある DNA と DNA 結合たんぱく(ヒストンおよび非ヒストン)からなる複合体。二本鎖 DNA がヒストンコアの回りに巻き付き、それがさらに折り畳まれ高次構造をなして核内に収納されている。電子顕微鏡により細い線維からなる網状構造が観察される。クロマチンには塩基性色素によく染まる電子密度の高い異質クロマチン(**heterochromatin**)と、淡染する真正クロマチン(**euchromatin**)の2種類がある。異質クロマチンは主に核膜付近と核小体*の周囲にあり、真正クロマチンはその間に分布する。真正クロマチンのほうが代謝は活発で、DNA 合成も盛んである。

クロマチンパターン

chromatin pattern

クロマチン*の所見を、①クロマチン量 [**chromatin content**: 過染(**hyperchromasia**), 淡染(**hypochromasia**)], ②クロマチン構造 [**chromatin structure**: 細顆粒状(**fine granular**), 細網状(**fine reticular**), 粗顆粒状(**coarse granular**), 粗網状(**coarse reticular**)], ③クロマチン分布(**chromatin distribution**)について検討し、細胞*または疾患に特有な所見をパターン化したもの。

注すりガラス状(**ground glass appearance**)は、ヘルペスウイルスの感染などにより細胞核が淡く無構造化した状態をいう。墨汁状(**India ink appearance**)は濃縮核が黒染した状態をいう。また、不均等分布(**irregular distribution of chromatin**)とは、クロマチンが核内の一部分に偏って分布することをいう。

クロモソーム =染色体(p.78)

け

血管周囲偽ロゼット(けっかんしゅういぎー) ●ロゼット状(p.135)

血性背景(けっせいはいけい) ●背景(p.102)

血鉄素(けってつそ) =ヘモジデリン(p.116)

ケラチン

keratin

細胞骨格*たんぱくの1つで中間径フィラメントに属し、上皮細胞に分布する。上皮性であることを示すマーカーとして用いられる。

用例サイトケラチン(**cytokeratin**)

ケロイド ●癍痕(p.106)

原発巣(げんぱつそう)

primary lesion

病変の発生した部位に形成される病巣をいう。主に悪性腫瘍に用いられる。原発巣から離れた部位へ波及した同種の病巣は、転移巣(**metastatic lesion**)と呼ばれる。

こ

コイロサイト ●コイロサイトーシス(次項)

コイロサイトーシス

koilocytosis

同：koilocytotic atypia

扁平上皮細胞*が核周囲に幅の広い淡明な部分(核周囲明庭* ; peri-nuclear halo)を持つように変化することをいい、この細胞*をコイロサイト(koilocyte)という。核周囲の空洞は境界鮮明で、核*は種々の程度の変性*を示すが、ぼやけて見えたり(smudged nuclei),2核を認めたりする。細胞質*はしばしば両染性(amphophilia)を示す。ヒトパピローマウイルス(HPV)感染に特徴的な所見と考えられている。

注 1. 最初にコイロサイトーシスの細胞像と組織像を報告したのは Ayre(1949)とされる。彼は風船細胞(balloon cell)と称したが、1956年 Koss が“koilocytotic atypia”と名づけて以来この名称が用いられるようになった。

2. koilos とはギリシア語で空洞(cavity)をさす。コイロサイトーシスとは、空洞化あるいは空洞細胞化を意味する。

3. koilocytotic atypia は異型を伴うコイロサイトーシスという意味ではなく、コイロサイトーシスと同義に用いられる。コイロサイトーシスを異型度などによって細分類することは一般に行われていない。誤陰性率(ごいんせいりつ)

false negative rate

同：偽陰性率

臨床病理学あるいはスクリーニング検査において、疾患を有する者(陽性)を誤って陰性としてしまう割合。誤って陰性とした者の数/患者総数(正しく陽性とした者の数+誤って陰性とした者の数)×100 で計算される。 ●誤陽性率, 感受性, 特異性, 正診率

注 1. 疾患の有無と判定との関係は次のとおり。

表 疾患の有無と判定との関係

疾患あり	なし	判定	陽性	陰性	真陽性	誤陰性
性	誤陽性	真陰性				

2. 診断精度の評価には、このほか、①陽性反応的中度(predictive value of a positive test, positive predictive value), ②陰性反応的中度(predictive value of a negative test, negative predictive value)などがある。

3. スクリーニング検査において、誤陰性率を下げるために判定基準を過度に甘く設定すると、誤陽性率を上昇させることになる。

酵素原顆粒(こうそげんかりゅう) =チモーゲン顆粒(p.88)

酵素抗体法(こうそこうたいほう)

enzyme-labeled antibody method

組織細胞中の抗原と酵素標識した特異抗体を作用させて複合体を形成させ、酵素を酵素組織化学的に染色して、光顕または電顕で抗原の局在を検出する免疫組織化学技法の一法。

注 1. 酵素を抗体に標識する代わりに酵素抗体を中間に用いる非標識酵素抗体法(horseradish peroxidase-anti-horseradish peroxidase 法; PAP 法)や、酵素を直接抗体に標識しないで、間接的に標

識する方法(avidin biotinylated peroxidase complex method ; ABC 法)なども酵素抗体法と呼ばれている。

2. 標識酵素には、西洋わさびペルオキシダーゼ(horseradish peroxidase; HRP), アルカリホスファターゼ, 酸ホスファターゼ, グルコースオキシダーゼ, β -D-ガラクトシターゼなどを使用する。

3. 複合体を可視化するため、酵素組織化学染色により、光顕の場合、例えば HRP とジアミノベンチジン(DAB)とを作用させ、酸化した褐色の DAB を観察する。電顕の場合、これにオスミウム酸を作用させ、高電子密度のオスミウムブラックを観察する。

4. 本法には直接法と間接法がある。直接法(direct method)では抗原と酵素で標識した抗体とを作用させ、標識された酵素を酵素組織化学的に染色し観察する。この方法は手間、時間の節約ができ非特異的反応が少ないが、抗体それぞれに酵素を標識しなくてはならない。一方、間接法(indirect method)では抗原と第 1 抗体を作用させ、そこに酵素で標識した第 2 抗体を反応させ、酵素組織化学的に染色し観察する。特異的、非特異的反応とも直接法より増強される。第 1, 2 抗体とも多数の製品が利用できる。

高分化〔型〕(こうぶんかがた) ●分化(p.114)

合胞状(ごうほうじょう)

syncytial

本来別々の多数の細胞*が融合することによって、細胞質内に多数の核*が集合した状態である。良性*のものとして体腔被覆上皮(中皮細胞), 合胞性トロホブラスト(syncytiotrophoblast), 上皮性巨細胞, ウイルス感染細胞, 組織球性巨細胞などがある。悪性*のものでは絨毛癌, 骨肉腫の多核巨細胞(multinucleated giant cell)などが典型的で、その他放射線照射後の細胞にも認められる。

ゴースト細胞(一さいぼう)

ghost cell

細胞*としての輪郭が辛うじてわかる壊死*に陥った細胞。

注 1. 変性*が進むと核*に特有の変化〔核濃縮*(pyknosis), 核融解*(karyolysis), 核崩壊*(karyorrhexis)〕が生じ、次第に核と細胞質*が同様の色調を示すようになる。核の境界がきわめて不明瞭で、核の存在がわからなくなった段階の細胞である。腫瘍性病変および非腫瘍性病変の両方で認められる。

2. 壊死背景とともに出現することが多い。

コーティング法(一ほう)

coating method

同：スプレー固定(spray fixation)

湿固定操作の一法。塗抹標本に固定液を噴霧または滴下して固定*する方法。これに対して、固定液を満たした容器の中に塗抹標本を浸して固定する方法を、ディッピング法(浸漬法 ; dipping fixation)という。

注 1. 細胞*, 組織*の乾燥, 収縮を防止するため、コーティング固定液に添加されているポリエチレングリコールなどの水溶性ポリマーは、染色前にアルコールで除去する必要がある。

2. 浸漬法と比較して、固定操作中に他標本からの細胞のコンタミネーションはほとんどない。しかし、

固定効果の持続は短いので1週間以内に染色すること。

3. 噴霧，滴下は塗抹後すばやく，均等に行う。

用例コーティング法固定(coating fixation)

コーティング固定液(coating fixative solution)

固定(こてい)

fixation

顕微鏡観察のために，薬品溶液(固定液)を用いて，細胞*・組織*が

生体から離れたために生じる変化あるいは死後変化を停止し，形態，物質を不動にし，保持し，かつ染色性*を保つために行う操作。

注 1. 操作上最も重要なことは，生体から離れた細胞，組織を速やかに固定液と接触させることである。

2. 目的の検出物に応じて，固定液の種類，濃度，pH，時間，温度，操作法を考慮する必要がある。

3. 細胞塗抹標本固定操作法には，乾燥固定と湿固定の2つの方法がある。乾燥固定は，ギムザ染色*などに用いられ，塗抹後急速に乾燥して固定液と接触させる方法である。一方，湿固定はパパニコロウ染色*などに用いられ，細胞を塗抹後直ちに(できるだけ乾燥をさせないで)固定液と接触させる方法である。

用例凝固沈殿固定(coagulative fixation: アルコール，アセトン，酸などの脱水，脱脂作用により物質を凝固沈殿させる固定法。パパニコロウ染色などの固定に用いている)

架橋固定(crosslinking fixation: ホルムアルデヒド，グルタルアルデヒドなどのアルデヒドがたんぱく質の遊離アミノ基と共有結合をして架橋を形成することを利用する固定法。ヘマトキシリン・エオジン染色などの固定に用いている)

乾燥固定(air-dried smear preparation)

湿固定(wet-fixed smear preparation)

誤陽性率(ごようせいりつ)

false positive rate

同：偽陽性率

臨床病理学あるいはスクリーニング検査において，健常者(陰性)を誤って陽性としてしまう割合。誤って陽性とした者の数/健常者総数(正しく陰性とした者の数+誤って陽性とした者の数)×100 で計算される。 ●誤陰性率，感受性，特異度，正診率

注 1. 疾患の有無と判定との関係は次のとおり。

表 疾患の有無と判定との関係

	疾患あり	なし	判定	陽性	陰性	真陽性	誤陰性
性							
性							

2. 診断精度の評価には，このほか，①陽性反応的中度(predictive value of a positive test, positive predictive value)，②陰性反応的中度(predictive value of a negative test, negative predictive value)などがある。

3. 肺細胞診において，パパニコロウ(Papanicolaou)分類 classIIIまたは判定保留例が「誤陽性」として報告されることがあるが，良性*，悪性*の判定においては「疑陽性」が正しい。本項で定義される誤

陽性＝偽陽性とは意味が異なる。

4. スクリーニング検査において、誤陽性率を下げるために判定基準を過度に厳しく設定すると、誤陰性率*を上昇させることになる。

孤立散在性(こりつさんざいせい)

isolated (solitary), scattered

細胞間の結合性の低下または欠如によってほつれが生じ、個々の細胞*がばらばらに出現する状態を孤立性(isolated, solitary)と表現し、少数の細胞が分布する細胞所見を散在性(scattered)という。一般に低分化型の腺癌*や肉腫*の細胞に特徴的な所見である。

孤立性(こりつせい) ● 孤立散在性(前項)

ゴルジ装置(—そうち)

Golgi apparatus

同：ゴルジ複合体 (Golgi complex), ゴルジ体(Golgi body)

主に核*の周囲にある種々の大きさの平滑な膜でおおわれた小胞の集合。粗面小胞体で作られた物質からの分泌物の合成、糖の付加や脂肪の吸収、リソソーム*の形成に関与している。ゴルジ層板、ゴルジ空胞(Golgi vacuole)およびゴルジ小胞(Golgi vesicle)からなり、立体的に入り組んだ構造をしている。

ゴルジ複合体(—ふくごうたい) = ゴルジ装置(前項)

さ

細絨毛(さいじゅうもう) = 微絨毛(p.108)

再生(さいせい)

regeneration

再生とは欠損組織が残存する同種の細胞*によって補充される現象であり、生理的にも病的にもみられる。正常な生体では生理的に欠損する組織*、細胞を補充するために細胞の新生が絶えず起こっており、これにより組織の構築と機能が常に一定に保たれている(生理的再生)。一方、病的要因により欠損した組織の再生が病的再生であり、不完全なことが多い。再生力は、幼弱な個体ほど、未分化な組織ほど強く、また組織の種類によっても異なる。結合織、血液細胞、末梢神経、表皮細胞、粘膜上皮は再生力が強く、骨格筋や平滑筋などは再生はするが弱い。神経細胞、心筋細胞は再生しない。

細胞診では上皮細胞の再生が対象となり、修復*とほぼ同義に用いられることもある。再生細胞(regenerative cell)の核*は大きく、核小体*は腫大し明瞭であるが、クロマチン*は微細で、細胞質*は広い。再生過程で感染などの要因が加わると異型*的な再生が起こり悪性細胞との鑑別が必要となるが、出現細胞には多様性がなく細胞所見がそろっていることが重要である。

注再生には完全再生(complete regeneration)と不完全再生(incomplete regeneration)があり、元の組織構築の再現が完全か不完全かにより区別される。

用例再生上皮細胞(regenerative epithelial cell: 消化管の潰瘍*, びらん*の再生は円柱上皮, 皮膚, 口腔, 食道の再生は扁平上皮細胞*による)

再生性ポリープ(regenerative polyp)

再生子宮内膜(regenerative endometrium)

再生過程(process of regeneration)

再生肝(regenerating liver)

再生結節(regenerating nodule: 再生により形成された結節)

再生結節(さいせいけっせつ) ●再生(前項)

再生細胞(さいせいさいぼう) ●再生(前々項)

細胞(さいぼう)

cell

生物体の生物活動を営む最小の形態的、機能的単位である。また、自己複製のできる最小単位である。細胞は一般に核*とその周囲にある細胞質*に分けられる。核*は細胞の遺伝情報系とも考えられる。核内には、遺伝子の本体である DNA がたんぱく質との複合体を作ってクロマチン*(染色質; chromatin)を形成し存在している。細胞質には種々の機能を持つ小器官が存在している。

用例原核細胞(prokaryotic cell: バクテリアなど、細胞核構造を持たない細胞)

真核細胞(eukaryotic cell: DNA を膜で包んだ核*を持つ細胞)

単細胞生物(monad)

多細胞生物(multicellular organism)

扁平上皮細胞* [squamous(epithelial)cell]

腺細胞(glandular cell)

細胞診(cytologic diagnosis, cytological diagnosis)

細胞回転(さいぼうかいてん) ●有糸分裂(p.129)

細胞間橋(さいぼうかんきょう)

intercellular bridge

隣り合う細胞*が指状突起を出しデスモソーム*(desmosome)を介して結合しているもので、しばしば重層扁平上皮にみられる。またこの存在は、特に肺癌で扁平上皮癌*の診断基準として用いられている。注本来「細胞間橋を介して結合している」と表現される場合、隣り合う細胞間に細胞質連続性があるものをさしていた。扁平上皮にみられる細胞間橋について議論されたが、細胞質連続性は存在しないことがわかっている。しかし、慣習的にこの用語が生きている。

細胞環境(さいぼうかんきょう) =背景(p.102)

細胞偽貪食像(さいぼうぎどんしょくぞう) ●相互圧排像(p.81)

細胞形(さいぼうけい)

cell shape

細胞*の形態。多くの場合、その細胞の分化程度、機能、性質、おかれた状態を反映しており、染色性*や内部構造とともに、細胞の種類や組織由来を認識するために重要である。細胞形に影響を与えるものとして、細胞増生、化生*、角化*、自己融解*、変性*、放射線、ウイルス、薬物のほか腫瘍化などが挙げられる。

注細胞形の表現には以下のようなものがある。

多稜形の(polygonal), 多面体の(polyhedral), 延長形の(elongated), 紡錘形の(spindle), 線維状(fiber-like), 円柱状(columnar), クモ状(spider-shaped), 蛇状(snake-like), オタマジャクシ状(tadpole-shaped)。

細胞骨格(さいぼうこっかく)

cytoskeleton

細胞*に形態保持と運動能を与えるたんぱく線維の網目構造。これには微小管(microtubule: 直径25nm), ミクロフィラメント(microfilament: 直径5~8nm)および中間径フィラメント(intermediate filament: 直径7~10nm)が含まれる。

注 1. 微小管はチューブリン(tubulin)という球状たんぱくからなり, ふだんから形成と破壊が行われる動的状態にあり, 細胞の形態保持のみならず細胞内輸送や細胞分裂時の移動にも関与する。

2. ミクロフィラメントは種々の細胞に広く分布して運動能に関与し, 特に筋肉細胞ではミオシンと六角形の立体構造を作り筋肉収縮系を構成している。

3. 中間径フィラメントには現在, ケラチン*(keratin), ビメンチン(vimentin), デスミン(desmin), GFAP(glial fibrillary acidic protein), NF(neurofilament)および核ラミン(lamin)の6種類の系があり, 細胞分化に大きな役割を果たしている。

細胞質(さいぼうしつ)

cytoplasm

同: 胞体

細胞*のうち核*と区別される液状またはコロイド状の部分。その70%が水分であるが, 多くのたんぱく, 塩類を溶解している。光学顕微鏡による観察では均一無構造に見えるが, 電子顕微鏡によりここには細胞内小器官*など多種多様な有形成分も含まれていることが明らかになっている。

細胞質内小腺腔(さいぼうしつないしょうせんくう)

intracytoplasmic lumina

細胞内に形成された空胞状構造で, この構造の内腔側には微絨毛*が発達している。この構造は腺癌細胞に多く存在し, 特に乳腺の小葉癌や硬癌に由来する細胞などに認められることがある。小腺腔が大型化すると印環細胞形態を示す。

細胞集塊(さいぼうしゅうかい)

cell cluster

結合性を持った細胞*の集まり。

用例乳頭状〔細胞〕集塊(papillary [cell] cluster)

球状細胞集塊(ball-like cell cluster)

まりも状*細胞集塊(形態を表す用語)

重積性*細胞集塊(overlapping cell cluster)

細胞診クラス分類(日母)(さいぼうしん—ぶんるい, にちぼ)

cytological classification (“Nichibo”)略語: 日母分類

1978 年日本母性保護医協会(現：日本母性保護産婦人科医会；日母)が、パパニコロウ分類* (Papanicolaou classification)を発展させ、子宮頸部および膣の扁平上皮病変の評価のために作成した診断基準。

注パパニコロウの class 分類と区別するために、本分類ではカナ文字の「クラス」を用いることになっている。 ●ベセスダシステム

表 細胞診クラス分類(日母)クラス I：正常クラス II：異常細胞を認めるが良性クラス III：悪性を疑うが断定できない IIIa：悪性を少し疑う。軽度・中等度異形成を想定。このクラスから 5%程度に癌が検出される IIIb：悪性をかなり疑う。高度異形成を想定。このクラスからは 50%程度に癌が検出されるクラス IV：きわめて強く悪性を疑う。上皮内癌を想定するクラス V：悪性。浸潤癌(微小浸潤癌を含む)を想定する

細胞診指数(さいぼうしんしすう)

cytologic indices

同：indices of hormonal cytology

膣扁平上皮の成熟*が性ホルモン依存性であるため、膣スメアを数量的に解析してホルモン状態を表現することができる。次のような指数(index)が用いられることが多いが、ほかにもいくつかの試みがなされている。

1. エオジン好性指数 [eosinophilic index; 好酸指数(acidophilic index), 角化*指数(cornification index)ともいう]：扁平上皮細胞*中に占めるエオジン好性細胞の百分率。核*の状態は考慮しない。
2. 核濃縮*指数(karyopyknotic index; KI)：扁平上皮細胞の中で濃縮核を有する細胞*の百分率。染色性*を考慮しない。
3. 成熟指数(maturation index; MI)：扁平上皮細胞の深層，中層，表層の細胞数を百分率で表し，そのまま左から並べて，例えば 0/10/90 などと記す。エストロゲンレベルが高ければ右方移動し，低ければ左方移動するのでわかりやすいが，集計上に困難がある。

細胞内小器官(さいぼうないしょうきかん)

organella

同：オルガネラ

細胞質*内にあつてさまざまな代謝反応を担う構造で，ミトコンドリア*(mitochondria)，小胞体*(endoplasmic reticulum)，ゴルジ装置*(Golgi apparatus)，リボソーム(ribosome)などがある。

杯細胞増生(さかずきさいぼうぞうせい，はいさいぼうぞうせい) ●増生(p.83)

索状(さくじょう)

trabecular [cord-like]

細胞配列の表現法の 1 つで，数個の細胞*が一行に並び，数珠(連珠)状，縄状，枝豆状に配列するものをさす。乳腺浸潤性小葉癌，肺小細胞癌，神経芽腫，子宮頸部上皮内癌などの細胞像にみられることが

ある。

注索状は細胞径の長軸方向の配列に用いられる。短軸方向の配列にはインディアンファイル(indian file)状、柵状(palisade)が用いられる。

柵状配列(さくじょうはいれつ)

palisading, palisade, palisade arrangement

核*あるいは細胞*が列をなし一定の間隔をおいて並ぶ様式。

注 1. 核の柵状配列は神経鞘腫に特徴的である。まれに、平滑筋腫にみられることがある。

2. 大腸や子宮頸部の高分化腺癌では、高円柱状の腫瘍細胞が柵状に配列する。

3. 膠芽腫では壊死巣の周囲に腫瘍細胞が柵状に配列し、偽〔性〕柵状配列と呼ばれる。

用例核の柵状配列(nuclear palisading)

高円柱状細胞の柵状配列(palisading of tall columnar cell)

偽〔性〕柵状配列(pseudopalisading, pseudopalisade)

サコマノ法(一ほう)

Saccomanno preparation

サコマノ(Saccomanno)液に痰を2~3日間分咯出させ検査機関に郵送し、細胞診断を行う。

注 1. サコマノ液(50%エタノール 98ml に湯煎して液状にしたカーボワックス 1540 を 2ml 混合)を約半分量満たした蓋付き広口びんに喀痰を2~3日間分咯出させ、痰喀出後固定むらのないようによく振盪させる。蓄痰後、以下の操作で標本作製する。

①高速ブレンダー(21,000回転/分)で5~25秒間攪拌する。

②遠沈管に移し1,000~2,000rpm10分間遠心する。

③上清を捨て、沈渣を濃厚な粘状、糊状液となるように振盪器で10秒間攪拌する。

④4枚のスライドガラスに毛細管ピペットで1~2滴③液を滴下、2枚ずつすり合わせ塗抹する。

⑤塗抹標本を完全に乾燥(自然)させる。

⑥塗抹標本は95%エタノールに10分間浸漬し、カーボワックスを除去した後パパニコロウ染色*を行う。

2. この方法は喀痰および塗抹標本を長期間保存できる。肺癌検診などの大量検体を処理する場合、便利である。また陽性率の上昇が期待できる。短所としては、処理操作が煩雑であること、および細胞変性が著しい(生痰と比較して)ため鏡検に費やす時間が長いこと、細胞判定に苦慮すること、などが挙げられる。

擦過法(さつかほう)

scraping preparation

各種の擦過器具〔綿棒(swab)、ヘラ(spatula)、エンドサイト(endocyte)、ブラシ(brush)]を用いて検索部位の表層を広く擦過し細胞*を採取する方法である。

注 1. この方法で採取される細胞は、剥離細胞と比べて変性*が少なく新鮮である。

2. 婦人科検診では子宮腔部、頸部擦過スミアは盲目的に細胞採取される場合があるが、通常はコルポス

コピー下で行われる。

3. 擦過法による細胞診では通常、内視鏡(気管支鏡, 食道鏡, 胃・大腸ファイバースコープ)下で病変部(病巣)ないし疑わしき部位を直接肉眼で確認して, その部位から細胞を採取する。擦過法は人為的に細胞を剥脱させたものであり, 広義の剥離細胞診*の範疇に入る。

用例擦過スメア(scraping smear)

腔壁擦過スメア(vaginal scraping smear)

子宮頸管内擦過スメア(endocervical scraping smear)

気管支擦過細胞診(bronchial scraping cytology)

食道擦過細胞診(esophageal scraping cytology)

刷子縁(さっしえん)

brush border

同: ブラシボーダー

細胞表面膜に形成される微絨毛*の密な集合体。光学顕微鏡で観察するとき, 刷子のように見えるためこの名称がある。 ●微絨毛, 線毛

注腸上皮や腎尿細管上皮などに典型例がみられ, 細胞表面積を増加させ, 物質の吸収に好都合と考えられている。

砂粒小体(さりゅうしょうたい)

psammoma body

同: 砂粒体

ヘマトキシリンないしエオジン好性の, 同心円の層状構造ないし無構造の物質で, カルシウム沈着によってできた石灰化物質である。

注卵巣や甲状腺などの乳頭状を特徴とする腺癌のときに組織標本にも細胞診標本にもしばしばみられ, その出現は乳頭状腺癌を診断するうえでの助けとなる。

砂粒体(さりゅうたい) = 砂粒小体(前項)

散在性(さんざいせい) ●孤立散在性(p.47)

し

ジアミノベンチジン反応(—はんのう)

diaminobenzidine reaction

略語: DAB 反応

酵素抗体法*で, 抗原—西洋わさびペルオキシダーゼ(horseradish peroxidase; HRP)標識抗体複合物にジアミノベンチジン(di-aminobenzidine ; DAB)液を作用させ, 褐色反応産物を生成して可視化させる反応。

注 1. 抗原抗体複合体を可視化する発色剤には, HRP 標識の場合, DAB またはアミノエチルカルバゾール(3-amino-9-ethylcarbazole ; AEC)を, アルカリホスファターゼ(alkaline phosphatase; AP)標識の場合にはファストレッド(fast red), ニューフクシン(new fuchsin)などを用いる。

2. DAB は発癌性の可能性がある。また AEC に比べて溶液中で不安定である。
3. AEC は DAB より感度が低く、退色しやすく、標本の永久保存はできない。

CCP 細胞(シーシーピーさいぼう)

ciliocytophtholia

線毛円柱上皮がウイルス感染により変性*した結果、線毛*を有する細胞質*が核*と分離して存在することをいう。

注 1. Papanicolaou によって記載された所見であり、わが国では CCP 細胞と慣例的に呼ばれている。

2. ウイルス感染では、ほかにも喀痰中に特徴的所見がみられることがある。核クロマチンが増量し核小体*が目立つ細胞集団がみられたり、ヘルペスやサイトメガロウイルスによる核内封入体がみられたりする。

シート状(一じょう)

sheet-like, cell sheet-like, flat sheet-like

同：平面的

結合性を示す細胞群が一層の平面的配列*をした状態をいう。 ●蜂巣状

注 1. 正常の腺上皮が塗抹された場合はシート状に配列し、細胞境界が明瞭な場合は蜂巣状*(蜂窩状)構造を示す。

2. 乳頭状*に増殖*する腺癌細胞が塗抹された場合もシート状を呈する。

脂褐素(しかつそ) = 消耗色素(p.66)

自家融解(じかゆうかい) = 自己融解(p.59)

敷石状(しきいしじょう)

pavement-like

同：石畳(いしだたみ)状、石垣状

石を敷き詰めたように細胞*が配列する状態で、細胞間には間隙がみられ、細胞の配列はやや不規則である。 ●シート状、平面的配列

注 化生細胞、異形成*、上皮内癌*にみられる。

用例敷石状配列(**pavement-like arrangement**)

色素細胞(しきそさいぼう) ●メラニン(p.127)

子宮頸部上皮内新生物(しきゅうけいぶじょうひないしんせいぶつ)

cervical intraepithelial neoplasia

略語：CIN

Richart が提唱した(1966)子宮頸部上皮内病変に関する疾患概念および分類で、異形成*と上皮内癌*を包括したものである。CIN I から CIN III までの 3 つに分類する。CIN I は軽度異形成、CIN II は中等度異形成、CIN III は高度異形成ないし上皮内癌に相当する。

注 1. 子宮頸部上皮に発生した新生物は放置すれば最終的には浸潤癌になる連続病変(spectrum

disease)であるから、上皮内に限局する状態を異形成と上皮内癌という別の用語で表現することは意味がなく、一括した病変(上皮内新生物)として取り扱うべきだという考え方によっている。

2. ベセスダシステムの軽度 SIL と CINI および軽度異形成とは概念に違いがあるので、運用上注意を要する。

子宮腔部びらん(しきゅうちつぶびらん) ●びらん(p.110)

子宮内膜増殖症(しきゅうないまくぞうしょくしょう) ●増殖
(p.83)

自己採取法(じこさいしゅほう)

self-correcting method

専門医の手を煩わせず、受診者自身で細胞*を採取する方法。それを検査機関に持参または郵送させて診断を行う。

注 1. この方法は、地理的に検診を受けにくい無医地域や離島などの女性を対象として婦人科癌検診用に開発された器具を用いるものであり、Davis 式、横山式、天神式などの方法がある。

2. この方法で得られる細胞は腔壁や子宮腔部からの剥離細胞が主体であり、頸管内からの細胞が少ないこと、出現する異型細胞は変性*が強くバラバラになりやすいことなど、その細胞診断には、かなりの経験と熟練が要求される。

用例自己採取スメア(self-irrigation smear)

自己消化(じこしょうか) = 自己融解(次項)

自己融解(じこゆうかい)

autolysis

同：自家融解，自己消化(autodigestion)

組織細胞が変性*・壊死*に陥る過程で、その組織細胞内のリソソーム(lysosome)からの酵素(カテプシン; cathepsin)により、細胞成分の消化分解が起こる現象。

注白血球のリソソームからの酵素による消化を異種融解(heterolysis)と呼ぶ。

支質(ししつ) = 間質(p.27)

篩状(しじょう) ●篩状(ふるいじょう)(p.113)

湿固定(しつこてい) ●固定(p.45)

実質(じっしつ)

parenchyma

器官の基本的要素を構成する組織*で、支持組織(間質*)以外の部分をいう。癌腫では癌細胞が、肉腫では肉腫細胞がこれに当たる。

用例腫瘍実質(tumor parenchyma)

肝実質(liver parenchyma)

実質細胞(parenchymal cell)

シャウマン小体(—しょうたい)

Schaumann body

サルコイドーシス(sarcoidosis)の多核巨細胞にみられる細胞質内封入体(intracytoplasmic inclusion)。好塩基性の層板状グロブリン凝縮塊で、ヘマトキシリンに好染する。

注 1. サルコイドーシスに特徴的なものではなく、結核のラングハンス〔型〕巨細胞*(Langhans giant cell)などにも認められることがある。

2. 多核巨細胞内の封入体には星状で好酸性の星状小体 (asteroid body)もみられることがあるが、これもサルコイドーシスに特異的なものではない。

シャルコー・ライデン結晶(一けっしょう)

Charcot-Leyden crystal

喀痰中にみれる赤色～橙色の菱形結晶で、好酸球破壊により細胞質*から放出された赤色顆粒の再結晶化と考えられる。好酸球増多と関連する気管支喘息、好酸球性間質性肺炎、気管支中心性肉芽腫症などで出現することが多い。

充実性(じゅうじつせい)

solid

同：髄様(medullary)

腫瘍*の肉眼的形態として内容が腫瘍細胞で充満した状態をいう。顕微鏡下では、腫瘍細胞である実質*とこれを支持栄養している結合血管からなる間質*とからなる。

用例充実性腫瘍(solid tumor)

充実性集塊(solid mass)

舟状細胞(しゅうじょうさいぼう) ●扁平上皮細胞(p.119)

重積性(じゅうせきせい)

overlapping

細胞集塊*が立体的で、細胞*が三次元的に重なり合うように並び、個々の細胞の全体を観察することが難しいものをいう。

注 1. 腺型細胞が重積性を示すときは腺癌*を推測させる所見となる。

2. 重積状態を形容する用語としては、ボール状、ミラーボール状(mirror ball pattern)、まりも状*、乳頭状*(papillary formation)、腺房状(acinar formation)、合胞状*(syncytial arrangement [form])などがある。

重層(じゅうそう) =層構造(p.82)

修復(しゅうふく)

repair

種々の原因で破壊された細胞*や組織*の再建が修復である。修復と再生*は類似するが、修復はその過程の一部として再生を含む障害された細胞や組織の再建である。すなわち、再生では欠損した細胞や組織が元の細胞や組織で再建されるのに対して、修復では再建する細胞や組織が元の細胞や組織と異なる場合もある。一般に間質結合織による修復は肉芽組織の形成、器質化、瘢痕*形成などにより、上皮

細胞による修復は再生や化生細胞により行われる。上皮細胞による修復に際して基底細胞増殖，過形成*，化生*などの異常修復がみられることがある。

細胞診における修復細胞という用語は主として婦人科細胞診で用いられ，炎症*，組織切除，放射線治療，レーザー治療後，避妊器具挿入時などに出現する。修復細胞は特徴的な細胞出現パターンを示し，細胞は平面的シート状*の集団として出現し，同一方向に細胞質*の流れがみられる。核*は中央に位置し，類円形で，大小不同は乏しく，クロマチン*は均一微細顆粒状で，核小体*が目立つ。細胞質*は豊富，扁平な多角形をし，辺縁は明瞭である。

修復細胞(tissue repair cell)は扁平上皮，扁平化生上皮，腺上皮，間質細胞*などに由来する。由来細胞をはっきりと鑑別することは困難であるが，重要なことは腫瘍細胞と誤診しないことである。

注「修復細胞」は細胞診用語であって組織診断名ではない。

用例子宮頸部修復細胞(cervical repair cell)

子宮内膜修復細胞(endometrial repair cell)

組織修復(tissue repair)

重複鋳型核(じゅうふくいがたかく) ●相互圧排像(p.81)

修復細胞(じゅうふくさいぼう) ●修復(前々項)

絨毛癌(じゅうもうがん) ●絨毛性疾患(次々項)

絨毛上皮腫(じゅうもうじょうひしゅ) =絨毛性疾患(次項)

絨毛性疾患(じゅうもうせいしっかん)

trophoblastic disease

同：絨毛性腫瘍(trophoblastic neoplasm)，絨毛上皮腫(chorioepithelioma)

トロホブラスト*(栄養膜細胞；trophoblastic cell)から構成される疾患で，①胞状奇胎(hydatidiform mole: 全・部分，非侵入・侵入に細分類される)，②絨毛癌(choriocarcinoma)，③着床部絨毛性腫瘍(placental site trophoblastic tumor)に分類される。胞状奇胎は，肉眼的に(2mm以上)絨毛が嚢胞化して認められるものをさし，組織学的には絨毛の水腫化，絨毛内の血管の欠如，トロホブラストの増殖*を特徴とする。絨毛癌はトロホブラストからなる悪性腫瘍で，絨毛形態を欠くものをさす。妊娠性と非妊娠性とに分けられるが，大部分は妊娠性である。着床部絨毛性腫瘍は中間型トロホブラストから構成される腫瘍で，比較的新しい概念である。

注 1. 胞状奇胎は，流産における絨毛の水腫化様変化と厳密に区別する必要がある。

2. 絨毛癌と着床部絨毛性腫瘍との区別は困難であることが多いが，免疫組織化学や臨床的所見を参考にして鑑別すべきである。また，後者は過大着床部(exaggerated placental site)との区別が重要である。

3. 存続絨毛症(persistent trophoblastic disease)は，臨床的に絨毛性疾患が疑われるが病巣に組織所見が得られないものをさし，①奇胎後 hCG 存続症，②臨床的絨毛癌，③臨床的侵入奇胎に細分類される(「絨毛性疾患取扱い規約」)。

絨毛性腫瘍(じゅうもうせいしゅよう) =絨毛性疾患(前項)

数珠状(じゅうじょう) =連珠状(p.134)

腫瘍(しゅよう)

tumor(tumour)

同：新生物(neoplasm)

新形成*(neoplasia)により形成された病変。細胞*の異常増殖の一型で、宿主の成長、生存に不利益をもたらす。

注腫瘍は新生物(neoplasm)と同義であるが、tumorには腫瘍のほかに腫瘤、腫脹の意味も含んでいる
〔例：ゴム腫 gummy tumor(=gumma)など〕。

用例肺腫瘍(pulmonary tumor: 部位を明示)

良性腫瘍(benign tumor)

腫瘍集塊(tumor clustur)

受容器(じゅようき) =受容体(p.63)

腫瘍性増殖(しゅようせいぞうしょく) =自律性増殖(p.67)

腫瘍性背景(しゅようせいはいけい) ●背景(p.102)

受容体(じゅようたい)

receptor

同：レセプター，受容器

細胞*の機能発現に関わる情報伝達物質(サイトカイン，ホルモンなど)と特異的に結合することにより細胞外情報を細胞内に伝えるたんぱく質。

注 1. 受容体(レセプター)は多くの場合細胞膜上に存在するが，ステロイドホルモンなどのレセプターは細胞質*内に存在する。

2. 受容体に特異的に結合する物質をリガンド(ligand)と呼ぶ。ただし，細胞接着分子(ICAM; intercellular adhesion molecule)などのように同一の物質がレセプターにもリガンドにもなりうる場合，一方をレセプターと呼べば，もう一方をカウンターレセプター(counter receptor)と呼ぶ。

用例ホルモン受容体(hormone receptor: 受容体のリガンド)

膜受容体(membrane receptor: 受容体の部位)

受容体病(receptor disease: 受容体異常が病態の本質と考えられる疾患)

小細胞癌(しょうさいぼうがん)

small cell carcinoma

小型で細胞質*のきわめて少ない裸核*状の腫瘍細胞がびまん性*，胞巣状～索状*の配列で増殖*する癌腫*をいう。 ●カルチノイド

注 1. ホルモン，ポリペプチドの産生がみられることのある癌腫で，一般に予後不良である。頻度は多くはないが，さまざまな臓器に発生する。

2. 肺癌では細胞形態により燕麦細胞型，中間細胞型に分ける(日本肺癌学会)。電子顕微鏡で細胞質に神経分泌顆粒*を認めることから，発生はクルチツキー細胞*(Kultschitzky cell)由来とされてきた。しかし，最近では扁平上皮癌*，腺癌*と同様に気管支・肺胞系に存在する内胚葉*性の未分化な上皮細胞(幹細胞)由来で，癌化後気管支・肺胞系の各種の上皮細胞に分化*するといった考えが支配的である。

代表的な異所性ホルモン産生腫瘍である。リンパ球様、および燕麦の形をした肺小細胞癌は燕麦細胞癌(oat cell carcinoma)ともいう。なお、現在肺癌では小細胞性未分化癌という用語は使用されない。

3. 子宮頸部の小細胞癌は、従来用いられてきた非角化小細胞型扁平上皮癌とは異なる疾患である。

用例肺小細胞癌(small cell carcinoma of the lung)

硝子化(しょうしか)

hyalinization

同：ヒアリン化(hyalinization), 硝子変性(hyaline degeneration)

たんぱく質の退行変性の1つで、硝子質と呼ばれる無構造なたんぱく基質が組織*ないし細胞*内に沈着した状態をいう。組織では、陳旧化した線維化癒痕巣内にみられる。

注硝子質という名称は光沢のある白色ないし灰白色、半透明の無構造物質の肉眼所見に由来する。「硝子…」という言葉は病理学の領域ではしばしば用いられるが、これは光顕的な染色性*の類似性に由来し、必ずしも同一の物質を示しているわけではない。

用例硝子変性(hyaline degeneration: 硝子物質の沈着による退行性変性)

アルコール硝子体 [alcoholic hyaline(Mallory hyaline): アルコール性肝障害にみられる線維性リン脂質たんぱく]

肺硝子膜症(hyaline membrane disease: 肺胸腔内面をおおうフィブリン膜)

硝子変性(しょうしへんせい) = 硝子化(前項)

上皮内癌(じょうひないがん)

carcinoma in situ

略語：CIS

同：intraepithelial carcinoma, 非浸潤癌(non-invasive carcinoma)

癌腫としての形態学的特徴を持つ細胞*が上皮内を置換するように増殖*し、間質浸潤を欠いている状態をいう。非浸潤性扁平上皮癌、移行上皮癌に用いられることが一般的である。腺癌の場合は上皮内腺癌(adenocarcinoma in situ)と呼ばれる。

注1. 子宮頸部の定型的上皮内癌では、上皮全層が粗大顆粒状のクロマチン*分布を示す濃染核を有し、核・細胞質比*の大きい小型癌細胞で置換され、層形成と極性を欠いている。核分裂像が高頻度に出現する。側方浸潤(lateral invasion)とは、上皮内の癌が隣接する扁平上皮や円柱上皮を破壊して側方へ広がることをいう。腺侵襲(glandular involvement)は、上皮内癌の円柱上皮方向への側方浸潤の結果、腺腔内へ侵入している状態をいう。元の円柱上皮基底膜を破壊して間質へ浸潤していないことが必要である。

2. 皮膚癌ではボウエン病(Bowen disease)がこれに相当する。子宮頸癌とは異なり、癌巣を構成する腫瘍細胞の形状は不均一である。

3. 膀胱の上皮内癌は細胞異型が強く、一般に Grade3 を示す。

上皮内腺癌(じょうひないせんがん) ●上皮内癌(前項)

小胞体(しょうほうたい)

endoplasmic reticulum

略語：ER

細胞質*にみられる管状，胞状，嚢状構造を持つ膜小器官。リボソームのある粗面小胞体と，リボソームのない滑面小胞体に分類される。 ●細胞内小器官

注粗面小胞体はたんぱく合成に，滑面小胞体はステロイド合成に重要な小器官である。

用例粗面小胞体(rough [granular] endoplasmic reticulum)

滑面小胞体(smooth [agranular] endoplasmic reticulum)

消耗色素(しょうもうしきそ)

lipofuscin pigment

同：リポフスチン，脂褐素(lipofuscin)

消耗性疾患に際し，生体のさまざまな部位に出現する色素で，その成分はリポフスチンである。リポフスチンは単一な物質ではなく，リソソーム*に貪食されたたんぱく質，脂質，その他の細胞含有物や，外来の代謝されない物質の凝塊物である。肝臓，腎臓，神経細胞，心筋などにみられる。色素は通常，顆粒状で直径 $1\mu\text{m}$ である。

注肝臓では中心静脈周囲の小葉中心部に多くみられ，細胞内では核*の近くにみられる。高齢者，消耗性疾患患者では，中心静脈周囲のみならず，門脈域周囲の細胞*にもみられる。電顕的には電子密度の高い無定形物質としてみられる。

食菌作用(しょくきんさよう) = 貪食作用(p.94)

食作用(しょくさよう) = 貪食作用(p.94)

自律性増殖(じりつせいぞうしょく)

autonomous growth

同：腫瘍性増殖(tumorous growth)

腫瘍*の基本的性質の1つであり，宿主の制御機構から逸脱した増殖*をいう。培養系においては細胞*の自律性増殖が細胞系の樹立の指標とされる。

注腫瘍の自律性増殖に関する説明の1つとして，腫瘍細胞自身から分泌される増殖因子によるオートクリン(autocrine)機構が明らかにされている。腫瘍細胞はさまざまな増殖因子を含むサイトカインを分泌するとともに，それらに対する受容体*を細胞表面に発現する。

糸粒体(しりゅうたい) = ミトコンドリア(p.125)

塵埃細胞(じんあいさいぼう)

dust cell

塵埃や炭粉を貪食した肺胞マクロファージ(macrophage)や組織球*(histiocyte)をさす。大型円形～類円形の細胞*($10\sim 30\mu\text{m}$)で，核*は偏在し，クロマチン*分布は均等，ライトグリーン好性の細胞質*に塵埃などがみられる。

注喀痰細胞診標本にこれが認められれば，出現細胞は下気道由来であることを意味し，判定に適した喀痰検体と考えられる。

新形成(しんけいせい)

neoplasia

宿主の成長，生存とは無関係な細胞*の異常増殖で，条件さえ許せば進行性に限りなく営まれる。宿主にとっては不要，有害な増殖*であり，その増殖態度は自律性の(autonomous)と形容される。新形成によって形成される病変は新生物(neoplasm)で，腫瘍*(tumor)とも呼ばれる。

神経内分泌顆粒(しんけいないぶんぴ [つ] かりゅう) ●内分泌顆粒(p.95)

神経内分泌細胞(しんけいないぶんぴ [つ] さいぼう) =クルチツキー細胞(p.39)

侵襲(しんしゅう) =浸潤(次々項)

滲出液(しんしゅつえき)

exudate

炎症*などの刺激により血管壁の透過性が亢進し，血管外へ漏れ出た血液成分。混濁状を呈することが多く，たんぱく含量は高く，細胞成分に富む。

用例炎症性滲出液(inflammatory exudate)

浸潤(しんじゅん)

invasion, infiltration

同：侵襲(permeation, infiltration, invasion)

病変が隣接する臓器，組織内に広がっていくこと。主として癌*の進展に用いられる。癌細胞が原発巣*から周囲の間質*へ基底膜*を破壊することにより浸潤が始まる。やがて周囲のリンパ管，血管へ入り込むことによって遠隔部位への転移*を形成する。特に浸潤の初期段階を微小浸潤(microinvasion)，初期浸潤(early invasion)という。ただし，これらを具体的な組織・細胞所見として用いる場合には，臓器によってそれぞれ独自の定義が定められている。

注侵襲は脈管への進展に主として用いられる(「甲状腺癌取扱い規約」)。

用例微小浸潤癌(microinvasive carcinoma)

被膜浸潤(capsular invasion: 癌*が腫瘍被膜へ波及)

局所浸潤(local invasion)

真正クロマチン(しんせいー) ●クロマチン(p.39)

新生物(しんせいぶつ) =腫瘍(p.62)

真正ロゼット(しんせいー) ●ロゼット状(p.135)

深達度(しんたつど)

depth of invasion

腫瘍進展の程度を表す指標の1つで，癌*の原発巣*からの直接浸潤の範囲(深さ)を表す。

注臓器によって深達度分類の内容は異なる。胃癌では m(粘膜内)，sm(粘膜下層内)，pm(固有筋層内)，ss(漿膜下層内)，s(漿膜)に分けられる。子宮内膜癌では a(子宮内膜内)，b(子宮筋層の壁の1/2以内)，c(同1/2以上)に分けられる。

心不全細胞(しんふぜんさいぼう)

heart failure cell

同：ヘモジデリン含有マクロファージ(hemosiderin-laden macrophage)

肺胞内出血により生じたヘモジデリンを貪食したマクロファージをいう。

注 慢性的な肺うっ血により肺胞内毛細管出血は繰り返されることが多く、また、肺うっ血は心臓障害によって生じる場合が多いのでこのように呼ばれる。ヘモジデリン*を有する細胞*を喀痰中に認めることは、心疾患の臨床診断において有力な指針となりうる。

す

水解小体(すいかいしょうたい) = リソソーム(p.132)

水性背景(すいせいはいけい) ●背景(p.102)

髄様(ずいよう) = 充実性(p.60)

スタンプ法(—ほう) = 捺印法(p.96)

ストレプトアビジンビオチンペルオキシダーゼコンプレックス法

(—ほう) = 免疫細胞化学染色(p.128)

ストレプトアビジンビオチンペルオキシダーゼ法(—ほう) = 免疫細胞化学染色(p.128)

スプレー固定(—こてい) = コーティング法(p.44)

すり合わせ法(すりあわせほう)

喀痰や吸引物、ときに液状検体の沈渣の塗抹に用いられる標本作製法である。

注 1. 痰、胆汁、腺液、尿、粘稠度の高い液状検体、穿刺液、吸引物などに有用な方法である。

2. 喀痰の場合は、スライドガラスの上に喀痰から選択採取した小豆大の検体を置き、別の1枚のスライドガラスを重ねて軽く圧しながら前後左右に動かして、均一になったらそれぞれのスライドガラスを反対方向に引くと均等な厚さの標本が得られる。

3. 吸引物ではスライドガラス上に針の内容物を噴出させ、同様にすり合わせ法で塗抹標本を作製し固定*する。穿刺吸引材料では、塗抹時の乾燥が起りやすいので、迅速に処理することが重要である(パパニコロウ染色*)。1枚はギムザ染色*用として作製するとよい。この際には、塗抹後直ちに風乾して乾燥固定を行うことが要求される。

すりガラス状(—じょう) ●クロマチンパターン(p.40)

すりガラス状核(—じょうかく)

ground-glass nucleus

核*の変性*によって出現するが、特に甲状腺の乳頭癌や、ヘルペスなどのウイルス感染細胞では診断的価値がある。核膜が肥厚し、クロマチン*が微細顆粒状～細顆粒状を呈すると、核はあたかもすりガラス状に見える。

注 「すりガラス」は表面をすって不透明にしたガラス。

せ

成熟(せいじゆく)

[名詞] maturation, maturity, [形容詞] mature

組織*ごとに特殊化した細胞*は、その組織の種類によりそれぞれのライフスタイルがある。成熟とはその組織において細胞が十分成育していることをいい、逆は未熟(immaturity), 未熟な(immature)である。

注成熟と分化*とは同時進行性のことがあるため厳密には区別しがたい部分もあり、同義に用いられることもある。

用例成熟指数(maturation index)

成熟奇形腫(mature teratoma)

成熟指数(せいじゅくしすう) ●細胞診指数(p.52)

星状小体(せいじょうしょうたい) ●シャウマン小体(p.59)

正診率(せいしんりつ)

accuracy

検査総数のうち真陽性と真陰性であった者の和の割合、すなわち疾患を持つ者と健康な者をどれだけ正しく判定したかを表す指標をいう。 ●感受性

以下の式で算定される。

正診率=(真陽性者数+真陰性者数)/検査総数

接着斑(せっちゃくはん) =デスモソーム(p.91)

セルブロック法(一ほう)

cell block technique

細胞診検体を、組織検体と同様に、固定*, 脱水, 脱脂, パラフィン包埋, 薄切, 染色, 封入して顕微鏡標本にする技術。

注 1. 喀痰, 液状検体沈渣, 穿刺吸引物などの観察に優れている。

2. 固定液はブアン(Bouin)液が優れている。

用例寒天セルブロック(3%bacterial agar cell block)

血漿トロンビンセルブロック(plasma-thrombin clot cell block)

線維化(せんいか)

fibrosis

同: 線維症(fibrosis)

創傷治癒に際し、肉芽組織形成に続く主として線維芽細胞および膠原線維の増生*からなる修復*過程の時相。 ●肉芽組織

注創傷治癒や組織傷害の修復過程において線維化は必然的に生じるが、その程度は組織*, 年齢, 性, 個体の違いにより一様ではない。

用例肺胞中隔の線維化(fibrosis of alveolar septum: 線維化の局在部位)

放射線線維症(radiation induced pulmonary fibrosis: 肺線維症の原因)

肝線維症(liver fibrosis: 前肝硬変症としての病態)

線維症(せんいしょう) =線維化(前項)

腺癌(せんがん)

adenocarcinoma

腺組織に類似した癌*で、腫瘍細胞による腺腔形成が特徴的である。組織学的分化度により高分化〔型〕、中分化〔型〕、低分化〔型〕に分類される。

注 1. 高分化〔型〕腺癌では乳頭状*(papillary)、管状(tubular)、腺房状*(acinar)、濾胞状(follicular)構造を示し、低分化〔型〕では腺腔形成傾向が乏しく、充実性*(solid)、髄様(medullary)、索状*(trabecular)、硬性(scirrhous)と形容される細胞配列がみられる。

2. 多くの腺癌には粘液*が証明される。しばしば粘液産生の顕著な癌があり、細胞外に粘液を分泌し、貯留した粘液内に癌細胞が浮遊した状態でみられるものを粘液癌(mucinous carcinoma)という。また、細胞内に粘液を貯留し印環状を呈するものを印環細胞癌(signet ring cell carcinoma)と呼ぶ。

3. 濾胞癌(follicular carcinoma)、肝細胞癌(hepatocellular carcinoma; liver cell carcinoma)、腎細胞癌(renal cell carcinoma; Grawitz tumor)、粘液癌、印環細胞癌など、腺癌に属するにもかかわらず、命名上「腺癌」という語が用いられていない癌もある。

用例高分化〔型〕腺癌(well differentiated adenocarcinoma)

乳頭状腺癌(papillary adenocarcinoma)

粘液性嚢胞腺癌(mucinous cystadenocarcinoma)

類内膜腺癌(endometrioid adenocarcinoma)

上皮内腺癌(adenocarcinoma in situ)

明細胞腺癌(clear cell adenocarcinoma)

前癌病変(ぜんがんびょうへん)

precancerous lesion

腫瘍*ではないが、そこから高頻度に癌化を示す病変をいう。

注 1. 子宮頸部の高度異形成*(severe dysplasia)、肺の高度異型扁平上皮化生(atypical squamous metaplasia, severe)などは狭義の前癌病変と考えられているが、異形成、化生を前癌病変とみなすこともある。

2. 子宮や肺以外にも、癌*の続発がきわめて高頻度である色素性乾皮症や日光性角化症、さらに肝細胞癌に対する肝硬変、胃高分化型腺癌に対する腸上皮化生がそれぞれの前癌病変*として位置づけられることもある。

腺棘癌(せんきょくがん) = 腺棘細胞癌(次項)

腺棘細胞癌(せんきょくさいぼうがん)

adenoacanthoma

同：腺棘癌

腺癌組織の一部に扁平上皮化生(squamous metaplasia)を認めるものをいい、扁平上皮成分の分化度は高く、一見良性にみえる。 ●化生、腺扁平上皮癌

注腺癌細胞により化生*した扁平上皮は主として腺管内に存在する。

潜在癌(せんざいがん) ●ラテント癌(p.130)

穿刺吸引細胞診(せんしきゅういんさいぼうしん)

fine needle aspiration, aspiration biopsy cytology

略語: FNA, ABC

病巣(腫瘤)を直接針穿刺し、採取して得た検体の細胞診断を行う方法である。本法では剥離細胞診と比べて変性*の少ない新鮮な細胞*が採取される。穿刺吸引細胞診施行の前提条件は腫瘤などの異常所見の存在である。したがって、病変の有無をスクリーニングするために用いられる剥離細胞診とは適応が異なる。

注 1. 穿刺吸引細胞診が適用される臓器は、乳腺、甲状腺、前立腺、唾液腺、リンパ節、軟部組織などの体表臓器が主体となっているが、肺、肝臓、脾臓、腎臓、骨髄などの体腔内臓器もその対象となる。臨床的には穿刺吸引細胞診の判定が確定診断として用いられることがある。

2. CT や超音波ガイド下で穿刺吸引が行われることもある。

3. 胸水、腹水、髄液の検体採取は針穿刺で行われるが、細胞診断法としては剥離細胞診*の範疇である。

用例経気管支穿刺吸引細胞診(transbronchial aspiration biopsy cytology)

穿刺吸引法(せんしきゅういんほう)

aspiration cytology

穿刺吸引器具を用いて病変(病巣)部から細胞*を採取する方法。

注 1. 穿刺器具で用いられる針は 18~25G の径のもので、通常 22~23G の針が好んで用いられている。

2. 種々の吸引器具は、基本的には注射筒を装着し、片手で陰圧をかけながら針を抜き差しできるように工夫された装置である。原型はスウェーデンの Hollende A と Persson R が 1971 年に作ったものを工夫改良したものである。ディスポーザブルの注射筒および針、トルーカット(Tru-cut)針、フランゼン(Franzen)型前立腺陰圧吸引器などである。

3. X 線透視下、超音波診断装置の探触子(probe)の誘導下に穿刺吸引し、細胞を採取することがある。

用例経皮的肺穿刺吸引法(percutaneous pulmonary aspiration cytology)

腺腫(せんしゅ)

adenoma

種々の程度の異型*を示す腺上皮からなる良性上皮性腫瘍。異型が軽度の場合は非腫瘍性病変と混同しやすく、また高度の異型性上皮からなる腺腫は癌*との鑑別が困難なことがある。 ●良性腫瘍, 異型

注 1. 腺腫の中には前癌病変とみなされるものがある。

2. 大腸で広く慣用されてきた腺腫性ポリープあるいは腺腫様ポリープ(adenomatous polyp)は同義語であるが、今日では腺腫という用語に統一されている。

3. 腺腫症(adenomatosis)は単一臓器または複数の臓器に多数の腺腫が同時性あるいは異時性に発生する場合に用いられる用語で、大腸腺腫症(adenomatosis coli)は、大腸に多数の腺腫が存在する場合をいう。家族性に発生する家族性大腸腺腫症(familial adenomatosis coli)は遺伝性の疾患で、他の器官の腫瘍を合併することがあり、また高率に腸癌の発生を認める。

4. 多発性内分泌腺腫症(multiple endocrine adenoma-

tosis; MEA)は複数の内分泌臓器に腺腫が発生する疾患で、タイプ 1〔ウェルマー症候群(Wermer syndrome)〕とタイプ 2〔シップル症候群(Sipple syndrome)〕とがある。

用例腺管腺腫(tubular adenoma)

絨毛腺腫(villous adenoma)

粘液性嚢胞腺腫(mucinous cystadenoma)

下垂体腺腫(pituitary adenoma)

多形性腺腫(pleomorphic adenoma)

腺腫様甲状腺腫(adenomatous goiter)

腺腫内癌(carcinoma in adenoma: 腺腫と癌が共存する病変で、癌成分が腺腫成分に囲まれているものをいう)

腺腫-癌腫相関(adenoma-carcinoma sequence)

悪性腺腫(adenoma malignum: 子宮頸癌, 甲状腺癌の一型で、細胞異型は軽く、きわめて分化度の高い腺癌*とみなされる)

機能性腺腫(functioning adenoma: ホルモン分泌機能を有する内分泌腺腫)

異型腺腫(atypical adenoma: 甲状腺濾胞腺腫の特殊型で、組織学的に強い構造異型, 細胞異型の両者, あるいはそのいずれかを示すが、被膜浸潤および脈管侵襲のみられないものをいう)

腺腫症(せんしゅしょう) ●腺腫(前項)

腺腫性(様)ポリープ(せんしゅせい—) ●腺腫(前々項)

腺腫内癌(せんしゅないがん) ●腺腫(p.75)

線状配列(せんじょうはいれつ) =インディアンファイル状(p.11)

腺上皮細胞(せんじょうひさいぼう) =円柱上皮細胞(p.15)

洗浄法(せんじょうほう)

washing cytology

管腔臓器にチューブないしカテーテルを挿入し、内腔に洗浄液(生食水, たんぱく融解酵素入緩衝液)を入れてパンピング(pumping)などの操作をし、その液を回収して遠沈処理し標本を作製する方法である。

注 1. 洗浄法は、機械的にパンピングなどの物理的操作により新鮮な細胞*の剥離が促されるので、細胞診には適した方法である。

2. 通常、胃、膵管、気管支、細気管支肺胞、膀胱、子宮内膜腔内の洗浄のほか、肺癌、食道癌、胃癌、大腸癌、卵巣癌などの手術に際し、開胸(閉胸)時ないし開腹(閉腹)時に体腔内を生食水で洗浄し、その回収液を遠沈処理して行う洗浄迅速細胞診が行われている。

用例胃洗浄細胞診(gastric washing cytology)

気管支洗浄細胞診(bronchial washing cytology)

気管支肺胞洗浄(bronchoalveolar lavage; BAL)

膀胱洗浄細胞診〔bladder washing cytology(bladder irrigation smear)〕

染色質(せんしよくしつ) =クロマチン(p.39)

染色性(せんしょくせい)

staining reaction

各種色素に対しての反応，標本構成成分の染まり方をいい，成分それぞれの染色性が異なるためにその存在と形態とが認識できる。染色性は細胞*の成熟*，角化*，変性*，乾燥，放射線照射などの影響を受けて変化する。

注染色性の表現としては以下の用語が用いられる。

ライトグリーン好〔染〕性(light greenphilic)，好塩基性(basophilic)，エオジン好〔染〕性(eosinophilic)，オレンジ G 好〔染〕性(orangeophilic)，好酸性(acidophilic)，両染性(amphophilic)，多染性(polychromatic)，淡染性(hypochromatic)，濃染性(過染性)(hyperchromatic)，染色不同性(anisochromatic)など。

染色体(せんしょくたい)

chromosome

同：クロモソーム

細胞分裂時にクロマチン*(chromatin)が凝集して，光学顕微鏡で容易に観察できる大きさの竿状構造となったもの。体細胞の核*には動物種に固有の染色体があり，ヒトは 23 対合計 46 本の染色体を有する。

注 1. 染色体分析(chromosomal analysis)は染色体を相対的長さや腕比をもとにして分類する形態学的研究方法で，染色体異常の発見に有用である。

2. 染色体は 2 本が中心節で結ばれた X 型をしており，短い部分を短腕(p)また長い部分を長腕(q)と呼ぶ。22 対の常染色体について大きい順に 1 から 22 までの番号を付け，性染色体(sex chromosome)を最後に加えることになっている。

3. 欠損，重複，逆位，転座などさまざまな異常がみられる。

用例染色体異常(chromosome abnormality)

腺侵襲(せんしんしゅう) ●上皮内癌(p.65)

腺表皮癌(せんひょうひがん) = 腺扁平上皮癌(次々項)

潜伏癌(せんぷくがん) ●ラテント癌(p.130)

腺扁平上皮癌(せんへんぺいじょうひがん)

adenosquamous carcinoma

同：腺表皮癌

腺癌*と扁平上皮癌*の両要素がきわめて密接に混在した癌で，両要素の中間型あるいは移行型の癌細胞がみられる。また，両要素の連続性移行像が観察されることがある。 ●腺棘細胞癌

注 1. 「肺癌取扱い規約」では粘表皮癌(mucoepidermoid carcinoma)を独立した組織型とし，気管支腺由来であることが明らかな例にのみ粘表皮癌の組織診断をつけ，そうでないものは腺扁平上皮癌とする。

2. 扁平上皮癌成分が一部に認められる場合は，扁平上皮

癌を伴った腺癌(adenocarcinoma with foci of squamous cell carcinoma)の形で付記し、腺扁平上皮癌に含めない。扁平上皮癌の像が、少なくとも腫瘍全体の20%以上(「肺癌取扱い規約」)、1/4以上(「胃癌取扱い規約」)および30%以上(「膵癌取扱い規約」)を占めているものを腺扁平上皮癌とする。WHO分類にはこのような規定はない。

3. 子宮頸癌および体癌では両癌成分の比率は問われない(「子宮頸癌取扱い規約」,「子宮体癌取扱い規約」)。

腺房状(せんぼうじょう)

acinar formation

細胞診所見上、細胞集塊*の中や辺縁に腺腔を思わせる部分のみられる細胞*の配列様式をいう。

注細胞診標本での出現は、腺癌*を推定する有力な手がかりとなる。

線毛(せんもう)

cilia

細胞表面膜にある可動性の突起。例えば気管支や卵管上皮では、線毛が協調的に運動し、喀痰や卵を運ぶ機能を持つ。 ●鞭毛, 微絨毛, 線毛上皮細胞

注突起内に微小管を持ち、基部は中心小体と同じ基底小体(basal body)構造を持つ。

用例線毛円柱上皮(ciliated columnar epithelium)

線毛運動(motility of cilia)

線毛上皮細胞(せんもうじょうひさいぼう)

ciliated epithelial cell

自由表面に線毛*を有する上皮細胞で、多くは単層または多列の円柱状細胞である。

注 1. 異物を排出する気道, 卵, 精子を輸送する卵管, 輸精管などの粘膜では被覆上皮細胞の大部分を線毛上皮細胞が占め, 物質の輸送にあたる。

2. 喀痰中に出現する線毛上皮細胞が核異型を示すことがあるが, 線毛の存在で悪性*を否定できることがある。

用例線毛円柱上皮細胞(ciliated columnar epithelial cell)

そ

層化(そうか) =層構造(p.82)

双極裸核(そうきょくらかく)

naked bipole nucleus

乳腺の導管上皮細胞集塊内やその周辺にみられる双極性の裸核細胞である。筋上皮細胞*に由来するものと、間質*の線維細胞や線維芽細胞に由来するものがあり、両者の鑑別は困難である。一般的に双極裸核の存在は、線維腺腫のような良性病変を示唆する。

層形成(そうけいせい) =層構造(p.82)

相互圧排像(そうごあっぱいぞう)

molding

同：モールディング

1 個の細胞*がもう 1 個の細胞を抱合する像で、貪食像ではなく、限られた容積内での密な細胞増殖により生じる圧排像である。鑄型核(nuclear molding), 対細胞(pair cell), 封入細胞(inclusion cell)ともいう。 ●相互封入像

注 1. 充実性胞巣内または乳頭状組織内での密な細胞増殖によって生じる。ピントを少しずらすと、一方の細胞*の細胞質のくぼみに他方の細胞が層状に密接している像が観察される。良性病変でもみられるが、悪性病変で認められることが多く、悪性腫瘍のうち肉腫*ではまれで癌*に多い。

2. 肺小細胞癌(特に燕麦細胞癌)ではこの所見は特徴的に認められる。乳癌(特に小葉癌, 硬癌)では、線状(索状*)にモールディング(molding)が連なる〔インディアンファイル(indian file)状*〕所見がみられることがある。

3. 癌では非癌より圧排所見が強く、核*が細胞質*より突出して見えるものもあり、さらに、1つの鑄型核をもう1つの細胞が抱合している像〔重複鑄型核(double nuclear molding)〕が見られることもある。

4. ウイルス, 特に単純ヘルペス感染細胞で認められる多核の隣接する核同士が密に圧排し合う(押し合いへしあい)像を「核相互圧排像(nuclear molding)」と呼ぶことがある。しかし、この現象は、ウイルス感染により細胞膜に何らかの変化が生じ、隣接する細胞間で細胞融合が起こったための多核化現象としてとらえられるものと考えられ、上記の鑄型核とは別の現象である。

層構造(そうこうぞう)

stratification

同：層形成, 重層, 層化

互いに重なり合うことを意味するが、組織学では、重層扁平上皮における構成細胞の違いが層をなして見えることをさす。 ●異形成, 扁平上皮細胞

注 1. 子宮頸部異型病変の診断では、層構造の有無が上皮内癌*か異形成*かの鑑別に重要である。

2. 統計学では、集団を重なり合うことなく分割することを層化と呼ぶ。

相互封入像(そうごふうにゅうぞう)

cell mutual inclusion

同：カニバリズム(cannibalism)

1つの細胞*があたかももう1つの細胞を貪食しているように包み込んだ状態で結合している様子。

注 1. 癌真珠*(cancer pearl)形成過程のうちで、2個の腫瘍細胞で形成されたものは、真珠とは呼ばずにカニバリズム(cannibalism)という。

2. 相互封入像の同義語として用いられるカニバリズムは「共食い」という意味である。本来、腫瘍細胞は貪食能力を持たないことから適切な比喩表現とは言いがたい。

3. 対細胞(pair cell)とは、細胞分離の異常により2個の細胞が細胞膜の一部で相接するものをいう。 ●

相互圧排像

4. 相互封入像は、良性細胞でも悪性細胞でもみられる。

5. 腫瘍細胞の細胞質内に遊走細胞(主に好中球)が封入されているように見えるときは、エンペリポレーシス(emperipolesis), あるいは細胞貪食(cytophagocytosis)という。

6. 細胞質*の陥凹部に小さい細胞が入り込む現象を偽カニバリズム(pseudocannibalism)と呼ぶこともあるが、広い意味では相互封入像に含まれる。

桑実状(そうじつじょう) =ミラーボール状(p.126)

増殖(ぞうしょく)

proliferation

同: 増生, 発育, 繁殖(growth)

組織*の構成成分の増加をいう。増殖には腫瘍性と非腫瘍性がある。●増生

注 過形成*(hyperplasia)に, 子宮内膜増殖症のように増殖症の訳を当てることがある。

用例膨張性増殖(expansive growth)

子宮内膜増殖症 [endometrial hyperplasia: 細胞異型を伴わない子宮内膜腺の過剰増殖をいう。このなかに, ①単純型子宮内膜増殖症(endometrial hyperplasia, simple)と, ②複雑型子宮内膜増殖症(endometrial hyperplasia, complex)がある]

増生(ぞうせい)

proliferation, hyperplasia

組織*の構成成分が増加することを一般的に示すほか, 過形成の意味で用いられることもある。

注一種類の細胞*のみが増加する場合を増生といい, 線維の増加が加わる場合を増殖*という立場もある。しかし, 両語は日本語でも英語でも混用される傾向にある。●増殖

用例杯細胞増生(goblet cell hyperplasia: 慢性気管支炎, 気管支拡張症, 喘息などのような慢性疾患や, 重度喫煙者の気管支上皮に高頻度に認められる。細胞診では粘液*とともに杯細胞集団として出現する)

予備細胞増生 [reserve cell hyperplasia: 子宮頸部の円柱上皮の下層に1層の未熟な上皮細胞(予備細胞*)が出現し, これらの細胞が増加して多層化する状態]

側方浸潤(そくほうしんじゅん) ●上皮内癌(p.65)

組織(そしき)

tissue

同種類の細胞*の集まりをいう。組織の多くは特有の細胞のみでなく, 組織液など細胞間物質がこれに加わっている。組織は大きく上皮組織(epithelial tissue), 筋組織(muscular tissue), 支持組織(suporting tissue), 神経組織(neural tissue)の4種類に分類される。

用例脂肪組織(fatty tissue)

組織型(histological type)

組織欠損(tissue defect)

組織球(そしききゅう)

histiocyte

同：マクロファージ(**macrophage**)，大食細胞(**macrophage**)

血液中から血管外に遊走して，または組織*に定住して異物，細菌の貪食，サイトカインの産生，抗原提示などの作用を営む細胞*で，血液幹細胞由来と考えられている。細胞膜に偽足〔**pseudopod**(複：**pseudopodia**)，**pseudopodium**]を有し，組織内を移動する。

注 1. マクロファージ(大食細胞)は，組織球とほぼ同義語として使われている。貪食能に主眼をおいた命名である。貪食細胞とも呼ばれる。

2. 血液中の単球(**monocyte**)は，組織球と類似の形態機能を示し，同じく血液幹細胞由来と考えられている。

3. 組織球は，しばしば融合して多核巨細胞(**multinucleate giant cell**)となる。異物反応，結核，黄色肉芽腫において，それぞれ特徴的な異物巨細胞，ラングハンス型巨細胞(**Langhans type giant cell**)，トゥートン型巨細胞(**Touton type giant cell**)を形成する。

4. 組織球の特殊な型に，抗原提示を主機能とするランゲルハンス細胞(**Langerhans cell**)がある。皮膚，気道などに多く分布する。

5. 組織球は喀痰，腔スミア，体腔液*など剥離細胞診*の多くの検体に出現する。また，嚢胞性病変では脂肪を貪食した泡沫状マクロファージ(**foamy macrophage**)として，出血性病変ではヘモジデリン含有マクロファージ(**hemosiderin-laden macrophage**)として出現する。

用例悪性線維性組織球腫(**malignant fibrous histiocytoma**)

粗面小胞体(そめんしょうほうたい) ●小胞体(p.66)

存続絨毛症(そんぞくじゅうもうしょう) ●絨毛性疾患(p.62)

た

体腔液(たいくうえき)

body (cavity) fluid

同：**effusion**

胸腔，腹腔，心膜腔などの体腔内に貯留する組織液の総称である。正常状態ではごく少量だが，炎症*または漏出により増加することがある。性状により滲出液*，濾出液*に大別される。

注 体腔液は貯留部位により胸水(**pleural effusion**)，腹水(**ascites**)などと呼ばれる。

退形成(たいけいせい)

anaplasia

異常増殖細胞において細胞分化を喪失した状態をいう。腫瘍組織にみられる特徴の1つである。未分化な(**undifferentiated**)つまり分化傾向のない増殖*とも呼ばれる。

注癌*の名称に用いられる際には **anaplastic** は未分化(の)と訳される。

用例未分化癌〔**anaplastic carcinoma**(=**undifferentiated carcinoma**)〕

大細胞癌(だいさいぼうがん)

large cell carcinoma

大型で多形性の腫瘍細胞が特定の配列を示さず増殖*する未分化の癌腫*。

注肺癌では，腫瘍細胞の30%以上が単核または多核の巨細胞で占められているものを巨細胞癌という。

また、腫瘍細胞内に粘液陽性所見を認める粘液形成型と、陰性の粘液非形成型に分ける。肺癌組織型分類では、大細胞癌は他の細胞型を除外した残りのすべてを含むので、低分化腺癌、低分化扁平上皮癌、分類不能癌が含まれることになる(日本肺癌学会)。WHO 組織分類では粘液形成型は低分化腺癌に分類され、大細胞癌は粘液*陰性のものに限っている。

退縮(たいしゆく) = 萎縮(p.9)

大食細胞(たいしょくさいぼう) = 組織球(p.84)

多核巨細胞(たかくきょさいぼう) ●合胞状(p.44), 組織球(p.84)

脱分化(だつぶんか) ●分化(p.114)

脱落膜細胞(だつらくまくさいぼう)

decidual cell

妊娠時に認められる子宮内膜の間質細胞*が変化したもので、明るい細胞質*を有し、細胞境界は明瞭で、核*は中心性に位置する。妊娠維持のための母体側の反応と考えられる。

注偽脱落膜様変化(pseudodecidual change)は、非妊時において、月経周期の分泌後期に脱落膜様の細胞*が子宮内膜表層に認められるものをいう。

用例床脱落膜(decidua basalis)

被包脱落膜(decidua capsularis)

月経性脱落膜(decidua menstrualis)

脱落膜腫(deciduoma)

多胞体(たほうたい) ●リソソーム(p.132)

単球(たんきゅう) ●組織球(p.84)

担空胞細胞(たんくうほうさいぼう) = フィサリフォラス細胞(p.111)

胆汁色素(たんじゅうしきそ)

bile pigment

胆汁中に含まれる色素の総称で、その主成分はビリルビン(bilirubin)である。

注 1. 胆汁色素には、ビリルビンのほかビリベルジン(biliverdin), ビリフスチン, ビリプラシンなどが含まれる。

2. 胆汁色素は黄疸の際、顆粒状に肝細胞や毛細胆管内に出現し、時にはより大きい胆管に胆汁円柱としてみられる。また、胆汁色素は肝細胞質内に小滴状としてみられたり、クッパー(Kupfer)星細胞内、組織球*内にもみられることがある。胆汁色素は、電顕的には肝実質細胞内では膜に囲まれたタマネギ状の層状構造物として認められる。

3. 胆汁色素はセロイドとの鑑別が困難なことがあるが、PAS 反応, ファンギーソン(Van Gieson)染色などが鑑別に有用である。

ち

蓄痰粘液融解法(ちくたんねんえきゆうかいほう) = 喀痰融解法(p.21)

チモーゲン顆粒(一かりゅう)

zymogen granule

同：酵素原顆粒

酵素前駆体を豊富に含有する細胞内の分泌顆粒の1つである。大きさ0.4~1.5 μm の電子密度の高い球状または楕円形の顆粒で、数と大きさが機能形態を反映する。腺外分泌細胞、耳下腺細胞、胃主細胞にみられる。

注 チモーゲン顆粒は細胞*を離れた後で活性化する。

着床部絨毛性腫瘍(ちゃくしょうぶじゅうもうせいしゅよう) ●絨毛性疾患(p.62)

中胚葉(ちゅうはいよう)

mesoderm

初期胚における外胚葉*と内胚葉*の間に位置する胚芽層をいう。結合組織、筋組織などに分化*する(注2参照)。 ●外胚葉, 内胚葉

注1. 外胚葉と内胚葉の間に胚内中胚葉が形成され、この胚内中胚葉はトロホブラスト(栄養膜)由来の胚外中胚葉と接合して、発生第3週には中胚葉が形成される。中胚葉からは発生第4~8週に、主に身体の支持組織が形成される。

2. 中胚葉成分としては以下のものが含まれる。①結合組織、②筋組織(平滑筋、骨格筋、心筋)、③軟骨、骨、④脂肪組織、⑤脈管(血管、リンパ管)の内皮、⑥血球、リンパ球、⑦腹膜腔・胸膜腔・心膜腔の漿膜(中皮*)、⑧滑膜、⑨泌尿生殖器(腎臓、尿管、子宮、卵巣、精巣)の上皮、⑩脾臓、⑪副腎皮質、⑫脊索。

用例悪性中胚葉性混合腫瘍(malignant mixed mesodermal tumor)

中皮(ちゅうひ)

mesothelium

中胚葉*に由来する単層扁平上皮で、体腔(心膜腔、胸膜腔、腹膜腔、精巣鞘)の内面をおおう組織*をいう。

注内皮(endothelium)とは、中皮と同様に中胚葉由来の単層扁平上皮で、心臓、血管、リンパ管、関節腔などの内面をおおい外界との交通を持たない組織をいう。

用例中皮細胞(mesothelial cell)

中皮腫*(mesothelioma)

中皮腫(ちゅうひしゅ)

mesothelioma

中皮細胞で被覆された漿膜表面に原発する腫瘍*である。良性*と悪性*があり、発育形態から限局性とびまん性*に、また組織学的に線維型(または肉腫*型)、上皮型、混合型(または二相型)に分けられる。

注1. ヒアルロン酸は中皮腫に特異的(50~80%陽性)とされており、腺癌*との鑑別に使用される。

2. 一般に限局性のは線維型であり、びまん性のは上皮型か混合型である。びまん型は限局型に比較して、通常は予後不良である。

3. 混合型とは上皮型と線維型の両者の組織成分が混在するものをいう。

4. 組織発生については、中皮細胞下結合組織内の未分化間葉細胞に由来するとの説が有力である。悪性中皮腫(malignant mesothelioma)については石綿(asbestos)曝露との因果関係が示唆されている。石綿曝露と関連がある疾患として胸膜肥厚斑(pleural plaque)がある。壁側胸膜に形成される白色斑状の肥厚であり、胸膜悪性中皮腫にしばしば合併して認められる。

5. 性器に発生するアデノマトイド腫瘍(adenomatoid tumor)は中皮細胞由来と考えられている。

用例胸膜中皮腫(pleural mesothelioma)

二相型中皮腫(biphasic type mesothelioma)

中分化〔型〕(ちゅうぶんか)がた ●分化(p.114)

つ

ツァンク細胞(一さいぼう)

Tzanck cell

同：棘融解細胞(acantholytic cell)

天疱瘡に特徴的な細胞*で、皮膚水疱内に孤立性または集団で出現する。細胞質周縁部は濃染し、核周囲明庭*(perinuclear halo)のある濃染核を有する大型細胞である。棘融解に陥ったケラチノサイトで、棘融解細胞とも呼ばれる。自己免疫性疾患で、抗上皮細胞間物質抗体により細胞間橋*が破壊されて出現する。

対細胞(ついさいぼう) =相互圧排像(p.81)

て

TNM 分類(ていーえぬえむぶんるい)

TNM-classification of malignant tumors

病変の解剖学的広がりに基づいて癌*の進行程度を具体的に示す分類法。T(tumor)は原発腫瘍の進展度を、N(node)は所属リンパ節の状態を、M(metastasis)は遠隔転移の有無を表し、これらを組み合わせて用いる。

注 1. TNM 分類は基本的に治療法が決まるまでの情報に基づいて分類される。他方、術後に行う分類法として p・TNM 分類がある。病理所見を加味したもので、T, N, M のそれぞれに p・を付けて記す。

2. 国際対がん連合(UICC)の臓器別分類規約がある。

表 TNM 分類の基本 T : Tis 上皮内癌* T0 原発腫瘍を認めない T1~4 原発腫瘍の大きさ, 広がりを示す TX 原発腫瘍を判定するための最低必要な検索が行われなかったとき N : N0 所属リンパ節に転移*を認めない N1~3 所属リンパ節転移の程度を示す N4 遠位リンパ節に転移を認める NX リンパ節転移を判定するための最低必要な検索が行われなかったとき M : M0 遠隔転移を認めない M1 遠隔転移を認める(転移部位を併記する) MX 遠隔転移の有無を判定するための最低必要な検索が行われなかったとき

低分化〔型〕(ていぶんか)がた ●分化(p.114)

デコイ細胞(一さいぼう)

decoy cell

尿中に出現する異型細胞で、ウイルス感染に起因すると考えられている。深層から中層の移行上皮細胞*の大きさで、濃染核は無構造化し、核・細胞質比*が高いので悪性細胞との鑑別が問題となる。出現細胞は少なく、出現が一過性なので検査を繰り返すことで悪性*を否定できる。

注デコイ(decoy)はカモの模型で、カモ猟の際「おとり」として用いる。

デスモソーム

desmosome

同：接着斑(macula adherens)

上皮細胞間、心筋細胞間などにみられる細胞間接着装置の一種。細胞間を斑点状に結合するので接着斑とも呼ばれる。

注 1. デスモソーム結合は上皮細胞にみられるが、非上皮細胞にも出現する。

2. デスモソームはタイト結合(tight junction)、接着小帯(zona adherence)とともに接着複合体(junctional complex)を形成する。

用例デスモソーム結合(desmosome junction)

セミデスモソーム(semidesmosome)

転移(てんい)

metastasis

病変がリンパ管、血管を介して他の部位に広がり、原発巣と同一の変化を起こすこと。主に悪性腫瘍で用いられる。リンパ行性、血行性転移などに分けられるが、ここに播種*を含める立場もある。

注腫瘍以外に用いられる場合もある〔例：転移性石灰化(metastatic calcification)〕。

用例リンパ行性転移(lymphogenous metastasis)

転移性肺癌(metastatic cancer in the lung: 肺に他の癌が転移)

転移巣(てんいそう) ●原発巣(p.41)

でんぷん様小体(一ようしょうたい) =類でんぷん小体(p.134)

と

特異性(とくいせい)

specificity

他のものと著しく異なっているということから、次の2つの意味で用いられる。①炎症*において特異性炎(specific inflammation)という術語で用いられ、病理形態像からその原因を推定できるものをいう。

②推計学において、特定の母集団中の陰性のものを正しく陰性と判定した比率をさし、特異度ともいう。陰性と判定された者のうち真に陰性であった者の割合、すなわち健康な者を正しく陰性と判定した比率をいう。 ●感受性

以下の式で算定される。

$$\begin{aligned} \text{特異性} &= \text{真陰性者数} / (\text{誤陽性者数} + \text{真陰性者数}) \\ &= \text{真陰性者数} / \text{健常者数} \end{aligned}$$

注 1. 結核症、梅毒などが特異性炎の範疇に入り、肉芽腫性炎(granulomatous inflammation)とほぼ同

義に用いられることも多い。

2. 「特異性の高い抗体」というように使用される場合は、抗原との対応がきわめて密なことを意味する。

用例特異性炎(specific inflammation)

非特異性炎(non-specific inflammation)

特異性炎(とくいせいえん) ●特異性(前項)

塗抹法(とまつほう)

preparation technique

細胞診標本を作製するための塗抹技術の総称である。

注 1. 塗抹方法は検体の種類、量、性状、施行する染色法などに応じて適当なものを選ぶ。

2. 細胞分布ができるだけ均等になるよう塗抹する。特に塗抹量が多からず少なからず、という適当量を把握しておく。

3. 塗抹操作は迅速に行い、直ちに固定操作に入る。

用例末梢血液式塗抹法(引きガラス法*)

遠心塗抹法*(centrifugal preparation)

トロホブラスト

trophoblast

同：栄養膜

受精した妊卵が子宮内膜に着床する際に認められる胚体外の外胚葉組織を形成する細胞*をいう。妊娠性絨毛の基本的構成成分で、内層の細胞性トロホブラスト(cytotrophoblast)、ラングハンス細胞(Langhans cell)と外層の合胞性トロホブラスト(syncytiotrophoblast)とに分けられる。

注トロホブラストには絨毛外の間中型トロホブラスト(intermediate trophoblast)が存在する。

貪食(どんしょく) ●エンドサイトーシス(p.15), 貪食作用(次々項)

貪食細胞(どんしょくさいぼう) ●組織球(p.84)

貪食作用(どんしょくさよう)

phagocytosis

同：食作用, 食菌作用, 貪食

大食細胞(マクロファージ)や好中球などの食細胞による大分子の細胞内への取り込みをいう。

注貪食作用は異物や生体にとって有害な物質の除去だけでなく、免疫応答における抗原提示として重要な役割を担う。

な

内胚葉(ないはいょう)

endoderm (etoderm)

3層構造からなる原始胚葉層の最内層をいう。気道、消化管、膀胱などに分化*する。 ●外胚葉, 中胚葉

注 1. 内胚葉からは発生第4~8週に、主に以下の組織*, 器官の上皮成分が形成される。

2. 内胚葉成分としては以下のものが含まれる。①口腔，②喉頭・気管・気管支・細気管支・肺胞の上皮，③消化管(食道，胃，小腸，大腸)，④肝臓，胆嚢，膵臓，⑤膀胱，⑥膀胱，尿膜管，尿道，⑦前立腺，⑧甲状腺，⑨副甲状腺(上皮小体)，⑩胸腺，⑪扁桃，⑫鼓室，乳突洞，耳管。

用例原始内胚葉(primitive endoderm)

内胚葉洞腫瘍(endodermal sinus tumor)

内皮(ないひ) ●中皮(p.88)

内分泌顆粒(ないぶんぴ [つ] かりゅう)

endocrine granule

ホルモンを含む分泌顆粒。限界膜を有する顆粒で，ホルモンの種類によって大きさ，形，電子密度が異なる。

注 1. 内分泌機構を司るホルモンとして細胞*から分泌される物質には，ペプチド，糖たんぱく，ステロイド，アミノ酸などがある。これらホルモンを産生する内分泌細胞では，核膜周囲腔や粗面小胞体で大分子のホルモン前駆体が合成され，ゴルジ装置*でさらに代謝・合成されたり切断されたりして分泌顆粒となり，細胞外に放出され血管内に入る。

2. 内分泌顆粒は視床下部，下垂体前葉，下垂体後葉，胎盤，甲状腺，上皮小体，肺・気管支，消化管，副腎皮質，副腎髄質，膵ランゲルハンス島，卵巣，精巣などにみられ，それぞれ特異的なホルモンが産生される。

用例神経内分泌顆粒(neuroendocrine granule)

内分泌腺(ないぶんぴ [つ] せん)

endocrine gland

導管を有しない腺組織で，分泌物は直接血中やリンパ液中に排出される。分泌物はホルモン(hormone)と呼ばれ，標的臓器・組織・細胞に特異的な作用を及ぼす。

注 1. 内分泌腺には下垂体，甲状腺，副甲状腺(上皮小体)，副腎，膵臓のランゲルハンス島，性腺などがある。これらはホルモン臓器とも呼ばれる。

2. ホルモンを分泌する腫瘍*をホルモン産生腫瘍(hormone producing tumor)という〔例：下垂体のプロラクチン産生腫瘍(prolactinoma)，膵臓のインスリン産生腫瘍(insulinoma)など〕。

捺印法(なついんほう)

stamp preparation

同：スタンプ法

生検および摘出材料をスライドガラスに押しつけて塗抹する標本作製方法である。

注 1. 生検材料はピンセットでつまみ，スライドガラスに軽いタッチ(柔らかい材料)で捺印するように塗抹する。しかし，線維成分の多い固い材料では少し強めに捺印する必要がある。それでも細胞が得られない場合は圧挫法*で標本作製する。

2. 大きな組織材料やリンパ節の場合は，まずメスやカミソリを用いて新しい断面を作り，断面の全面がスライドガラスに密着するように組織*を垂直に接触させ，組織面をずらさないように静かに剥して捺印する。

3. 新しい断面でも細胞が得られないときは、スライドガラスの端やメスなどを用いて腫瘍*の表面を擦過し、引きガラス法*で塗抹する。

軟骨腫性過誤腫(なんこつしゅせいかがしゅ) ●過誤腫(p.23)

軟部肉腫(なんぶにくしゅ) ●肉腫(p.97)

に

肉芽(にくげ)

granulation

同：肉芽組織(**granulation tissue**)

増殖*の盛んな若い結合組織。その基本的成分は、線維芽細胞、毛細血管、組織球*、好中球などの炎症性細胞である。

注 1. 肉芽腫(**granuloma**)とは区別する必要がある。

2. 肉芽は組織*の再生*(**regeneration**)、数々の器質化(**organization**)、特異な肉芽腫性炎症(**specific gran-**

ulomatous inflammation)などに際して重要な役割を果たす。

肉芽組織(にくげそしき) =肉芽(前項)

肉腫(にくしゅ)

sarcoma

同：悪性非上皮性腫瘍(**malignant non-epithelial tumor**)

間葉組織に発生する悪性腫瘍である。非上皮性組織の悪性腫瘍といわれる場合もある。

注 1. 悪性中皮腫や滑膜肉腫にみるように、間葉由来でも上皮形態を示すことがある。

2. 間葉組織由来のみとは限らず、末梢神経由来〔例えばシュワン細胞(**Schwann cell**)、神経周膜細胞(**perineural cell**)など〕の悪性腫瘍も軟部肉腫として扱われる。

用例横紋筋肉腫(**rhabdomyosarcoma**)

軟部肉腫(**soft part sarcoma**)

食道肉腫(**esophageal sarcoma**)

二相性(にそうせい)

two cell pattern

2種類の細胞*からなる構造あるいは細胞出現形態をさす。乳管を形成する上皮は類円型の腺上皮細胞(**glandular epithelial cell**)と基底膜側の筋上皮細胞*(**myoepithelial cell**)からなる。細胞診標本でも、これら2種類の細胞からなる集塊が認められる。

二層性(にそうせい)

double layer

内腔に1層の細胞*、さらにその外側に1層の細胞が取り囲む組織構造をさす。前立腺における腺腔の2層構造は良性病変の根拠とされる。乳管を形成する上皮は内腔の上皮細胞と壁側の筋上皮細胞*(**myoepithelial cell**)からなる。

用例二層性の喪失

二倍体(にばいたい)

diploid

配偶子の持っている半数染色体の2倍を示す通常の染色体*の状態をいう。

注 1. 時に異種ゲノム1組ずつを持ち合わせた雑種個体のこともある。

2. 多倍体(または倍数体; polyploid)の一種。

乳頭腫(にゅうとうしゅ)

papilloma

樹枝状に増殖*する結合織と、その表面を被覆して増殖する上皮細胞からなる良性腫瘍である。

注 1. WHO 肺腫瘍組織分類では扁平上皮型乳頭腫(squa-

mous cell papilloma)と“移行上皮”型乳頭腫(“transitional” papilloma)に分けられている。

2. 乳腺に発生する乳頭腫には、乳管壁から管腔内に乳頭状*に増殖し、異常乳頭分泌を主症状とする乳管内乳頭腫(intraductal papilloma)と、拡張した乳管または嚢胞内に発生する嚢胞内乳頭腫(intracystic papilloma)がみられる。

3. 乳腺にみられる乳頭腫症(papillomatosis)は、乳腺症の部分像で、末梢の乳管上皮が管腔に向かって多発性に増殖し、乳頭状を呈するものをいう。

4. 膀胱に発生する乳頭腫には移行上皮型乳頭腫、内反性乳頭腫(inverted papilloma)、扁平上皮型乳頭腫がある。このうち移行上皮型乳頭腫は、上皮が6層以下で細胞異型のないものをいう(「膀胱癌取扱い規約」)。

乳頭腫症(にゅうとうしゅしょう) ●乳頭腫(前項)

乳頭状(にゅうとうじょう)

papillary

乳頭(papilla)を思わせるような配列様式をいう。乳頭状腺癌(papillary adenocarcinoma)などでその組織型を反映している。代表的な例としては卵巣の漿液性乳頭状腺癌、乳腺の乳頭腺管癌、甲状腺の乳頭癌などがある。

用例乳頭状構造(papillary structure)

乳頭状集塊(papillary cluster)

妊娠性褐色症(にんしんせいかっしょくしょう) ●メラニン(p.127)

ね

粘液(ねんえき)

mucus

細胞*により産生、分泌された粘稠な液の総称。主成分はムチン(mucin)と呼ばれる糖たんぱく質だが、組成は一様ではない。上皮性粘液と結合織性粘液とがある。

用例粘液細胞(mucous cell)

粘液腺(mucous gland)

粘液変性(mucous degeneration)

粘液性腺癌(mucinous adenocarcinoma)

粘液癌(ねんえきがん) ●腺癌(p.73)

粘液空胞(ねんえきくうほう) ●空胞(p.36)

粘液染色(ねんえきせんしょく)

mucin stain

外分泌腺*由来の粘性物質(上皮性粘液)や結合織性粘液を証明する染色法をいう。組織化学的には、酸性粘液(シアロ粘液), 中性粘液たんぱく, 糖たんぱくなどを染色する。

注 1. ムチン(mucin)は元来, 管腔臓器内表面をおおう粘稠な物質に与えられた名称であるが, 粘液腫(myxoma)など組織内物質にも拡大適用されている。上皮性, 非上皮性を問わず酸性基を有する粘液*をいう。狭義には, 前者の上皮性粘液をさす。

2. ベストのカルミン法(carmin Best method), ムチカルミン法(mucicarmine Mayer method), アルシアンブルー・パス法(alcianblue-periodic acid Schiff), メタクロマジー法(metachromasia method)などを用いる。

3. ムチンはスルフォムチン(sulfomucin), シアロムチン(sialomucin), ヒアルロン酸(hyaluronic acid), その他の4種類に分けることがある。

粘液背景(ねんえきはいけい) ●背景(p.102)

念珠状(ねんじゅじょう) = 連珠状(p.134)

粘表皮癌(ねんひょうひがん) ●腺扁平上皮癌(p.79)

の

嚢胞性(のうほうせい)

cystic

腫瘍*の肉眼的形態として大きく内腔を形成し, 液状または半流動性の内容物で充満されているもの。顕微鏡下では, 内腔が上皮でおおわれており, 内容物により満たされている。

用例多嚢胞性(多房性)腫瘍(polycystic tumor, multilocular cystic tumor)

漿液性嚢胞性腫瘍(serous cystic tumor)

粘液性嚢胞性腫瘍(mucinous cystic tumor)

は

バーベック顆粒(一かりゅう)

Birbeck granule

電子顕微鏡下で細胞質*内にみられる管状の超微細構造物(テニスラケット様形態)。棍棒状で特徴的な周期性と, ときどき末端が拡張し球型を呈する。この顆粒を有する細胞*は組織球*の特殊型で, ランゲルハンス細胞(Langerhans cell)と呼ばれている。

注バーベック顆粒を有するランゲルハンス細胞は正常でも表皮内に存在するが, 組織球症X(histiocytosis X)に属するレットレル・ジーベ(Letterer-Siwe)病, ハンド・シュルラー・クリスチャン(Hand-Schüller-Christian)病, 好酸球性肉芽腫の3疾患に特異的に認められる。

肺癌検診細胞診分類(はいがんけんしんさいぼうしんぶんるい)

classification of sputum cytology in mass surveys

肺癌検診では、被検者への指示および集計の簡易化を目的とした喀痰細胞診の判定基準が用いられる。検診の喀痰細胞診は早期扁平上皮癌の発見を目標としているが、良性病変に出現する異型扁平上皮細胞との鑑別が困難なことがある。早期癌を見逃さないように、異型*を有する扁平上皮細胞*を異型扁平上皮細胞とし、その異型度によって分類する(次頁表)。

注 本基準による肺癌細胞診報告ではパパニコロウ分類*は用いず、陰性(negative)、疑陽性(suspicious)、陽性(positive)の3分類を用いる。

表 集団検診における喀痰細胞診の判定基準と指導区分判定区分細胞所見指導区分 A 喀痰中に組織球を認めない 材料不適、再検査 B 正常上皮細胞のみ基底細胞増生軽度異型扁平上皮細胞線毛円柱上皮細胞 現在異常を認めない次回定期検査 C 中等度異型扁平上皮細胞核の増大や濃染を伴う円柱上皮細胞 程度に応じて6か月以内の追加検査と追跡 D 高度(境界)異型扁平上皮細胞または悪性腫瘍の疑いのある細胞を認めるただちに精密検査 E 悪性腫瘍細胞を認める

背景(はいけい)

background

同：標本背景(細胞環境；cellular environment)

細胞診標本を構成する成分のうち細胞以外のものの総称で、細胞採取部位での生態環境を表す。

用例粘液背景(mucous background: 多量の粘液*が採取されるが無構造で染色性*も一定しない)

血性背景(bloody background: 出血により塗抹される目的細胞の数が減ずることが診断上の問題となる。出血状況で採取したか、採取操作によって出血を生じたのかを考える)

炎症性背景(inflammatory background: 炎症細胞の出現だけでなく、炎症変化としての細胞形態や染色性の変化を伴うことが必要である)

腫瘍性背景 [tumor diathesis: 浸潤癌に対する生体反応の結果生じたもので、①破壊された赤血球、②細胞破片、

③たんぱく小滴(滲出液のたんぱく質が凝集したもの)、④ライトグリーン好性の背景(水性背景)などを伴う]

水性背景(watery background: たんぱく質に富む滲出液が均等に分布した状態で、全体が淡い青色に染まる)

壊死背景(necrotizing background: 組織壊死を反映した変性状態)

杯細胞増生 [はい(さかずき)さいぼうぞうせい] ●増生(p.83)

バイベル・パレード顆粒(一かりゅう)

Weibel-Palade body

同：バイベル・パレード小体

電顕的に小動脈の内皮細胞内にみられる直径3 μ m、短径0.1~0.2 μ m程度の管状構造物で、内部には

長軸に平行に走るきわめて微細な細管が密にみられる。

注 血管肉腫(悪性血管内皮腫)の診断にはバイベル・パレード顆粒を発見することが重要であるが、必ずしも発見できるとは限らない。

バイベル・パレード小体(一しょうたい) =バイベル・パレード顆粒(前項)

剥離細胞診(はくりさいぼうしん)

exfoliative cytology

身体の管腔臓器から自然に、あるいは人為的に癌細胞を剥脱させて採取し、細胞診断を行う方法。剥離細胞診の最大の効用は、初期・早期癌の発見にある。

注 1. 癌*を構成する単位である癌細胞が自然に剥離、脱落してくる。これを見だし、さらに他の種類の良性細胞を完全に除外することができれば癌の診断がつけられる。これが、剥離細胞診の原理である。

2. 細胞診検体としては、子宮癌診断のための膣分泌液(vaginal smear, pool smear), 肺癌診断のための喀痰, 尿路癌診断のための自然尿などがこれに相当する。したがって、この細胞診用語はそれぞれの検体名で表すことが多い。例えば、膣分泌液細胞診(vaginal smear cytology), 喀痰細胞診(sputum cytology), 尿細胞診(urinary cytology)などである。

パジェット細胞(一さいぼう)

Paget cell

パジェット病(癌: Paget disease)の表皮内にみられる特徴的な細胞*である。形態学的に大型円形で明るい豊富な細胞質*を持ち、異型*性のある大型核と明瞭な核小体*がみられる。細胞質*は粘液多糖類染色(PAS, アルシアン青, ムチカルミン)で陽性となり、PAS 反応はアミラーゼ消化抵抗性である。

注パジェット病は主として乳房(乳頭部)に発生するが、外陰などにもみられることがある(乳房外パジェット病; extramammary Paget disease)。

パジェット病(一びょう) ●パジェット細胞(前項)

播種(はしゅ)

dissemination

体腔内に癌細胞が種をばらまかれたように広がること。胸腔内、腹腔内に主に生じる。その際には、それぞれ癌性胸膜炎(pleuritis carcinomatosa), 癌性腹膜炎(peritonitis carcinomatosa)を引き起こす。

注腫瘍以外で、同種の微小病変がいつせいに形成されるときにも播種と呼ばれることがある [例: 播種性血管内凝固症候群(disseminated intravascular coagulation; DIC)]。

用例腹腔内播種(peritoneal dissemination: 部位を明示)

播種性転移(dissemination: 播種も転移*の一型とみる場合に用いられる表現)

発育(はついく) =増殖(p.83)

パパニコロウ染色(一せんしよく)

Papanicolaou stain

略語: パップ(Pap)染色

細胞診で最も広く用いられている染色法。95%エタノールなどで湿固定した細胞*の核*をヘマトキシリン液で青紫－赤紫－茶褐色に染め、細胞質*を OG-6 液で橙色に、または EA-50 液で桃、青緑色に染め分ける。

注 1. 核，細胞質*の染色性*は厳密な湿固定によって得られる。

2. 初期には，固定液に 95%エタノール無水エーテル等量混合液を用いたが，危険防止のため，現在は 95%エタノール単独で用いる。

3. 扁平上皮細胞の細胞質は，OG-6，EA-50 中の色素粒子の大小，親和性，拡散度などの差を利用して，分化成熟度の低い順に，濃緑－青緑－淡緑－桃－橙色に染別される。

4. 染色の透明性は，完全な脱水と透徹で得られる。

5. “PAP test” は，米国では細胞診子宮癌検診をさす。

6. Papanicolaou はギリシアの医師，解剖学者(1883-1962)。後年は米国で細胞診断学者として活躍。

用例パパニコロウ原法(Papanicolaou stain 1942)

退行的パパニコロウ染色(regressive Papanicolaou stain 1954: 核*を氷酢酸を加えないヘマトキシリン液で過剰に染色後，塩酸で分別し流水で色出しをする方法)

進行的パパニコロウ染色(progressive Papanicolaou stain 1960: 核を氷酢酸を加えたヘマトキシリン液で適度に染色する方法。分別，色出しは不要)

パパニコロウ分類(一ふんるい)

Papanicolaou classification, Pap classification

細胞診の診断基準。5 型に分類され，悪性に関して，次頁表のように class I，II が陰性，III が疑陽性，IV，V が陽性である。

表 パパニコロウ分類 class I : 異型または異常な細胞を認めない class II : 異型細胞を認めるが悪性所見はない class III : 悪性の疑いのある異型細胞を認めるが，決定的に悪性とは断定できない class IV : 悪性が強く疑われる異型細胞を認める class V : 決定的に悪性といえる異型細胞を認める

注現在の細胞診では，悪性の可能性の程度を求めるのみならず，組織型や進行の程度までを推定するためパパニコロウ分類では不十分であるとの認識がなされるようになり，用いられなくなる傾向にある。

用例パパニコロウ染色*(Papanicolaou stain; Pap stain)

パパニコロウ検査(Papanicolaou test; PAP test)

バフィーコート

buffy coat

血性液状検体を遠心したとき，赤血球層の上に沈殿する白血球，腫瘍細胞などの有核細胞を含む白色層沈渣のこと。

注 1. 血性液状検体から多量の有核細胞を収集するには，遠心後，直接デカンテーション(decantation : 上清を静かに注ぎ移す操作)しないで，上清(supernatant)を毛細管ピペットでバフィーコートの直上まで吸い取って捨て，次いで赤血球層を吸い上げないように静かに，できるだけバフィーコートのみを吸い上げる。

2. バフィーコートの不明瞭な場合は，溶血後再度遠心すると，有核細胞層が最下層に沈殿する。

癒痕(はんこん)

scar

同 : cicatrix

線維化*に引き続く組織修復の一段階である。細胞成分は減少し、主として膠原線維からなる緻密な結合織性組織から構成される。

注創傷治癒に際し、再生*による修復*が起こりにくい状況では、癒痕治癒として組織*の修復が起こる。癒痕組織が過剰に形成され肉眼的に隆起した局面を形成した状態をケロイド(keloid)と呼ぶ。

用例癒痕〔性〕狭窄(scar stenosis: 狭窄の原因)

癒痕〔性〕拘縮(scar contracture: 拘縮の原因)

繁殖(はんしょく) = 増殖(p.83)

ひ

ヒアリン化(一か) = 硝子化(p.64)

被蓋細胞(ひがいさいぼう) = アンブレラ細胞(p.6)

引きガラス法(ひきがらすほう)

同 : wedge method

体腔液*, 洗浄液, 穿刺吸引液などの液状検体は遠沈し, その沈渣を末梢血液塗抹式(引きガラス法)に標本作製する。

注 1. 引き伸ばす速さ, 引きガラスの角度は, 1枚の標本作製するのに必要な沈渣の量, 粘稠度, 細胞数に影響されるので, 標本作製技術は相当な経験と練習を積まなくてはならない。

2. 液状検体の沈渣の1滴をスライドガラスの塗抹開始位置に滴下する。引きガラスまたはカバーガラス(18×18mm No. 2)の一辺で検体を広げる。乾燥しない程度の速さで, 引き終わりがスライドガラスからはみ出さないよう(スライドガラスの一辺から3~5mm程度残す)心掛けて引き伸ばす。

3. 検体の粘稠度の高い場合や細胞成分の多い場合は, 引きガラスとスライドガラスの角度を低く(20~30度)してゆっくり引き伸ばす。

4. 粘稠度の低い検体, 細胞成分の少ない場合は, 引きガラスとスライドガラスの角度を高く(45~70度)し, 速度を速めにして引き伸ばす。

5. たんぱく量の少ない検体や髄液などは, 仔牛血清を少量加えて遠心後塗抹するか, 沈渣にごく少量の仔牛血清を加えてその混合液を塗抹する。

6. リンパ節穿刺材料は塗抹時に裸核*になりやすいので, 乾燥しない程度にゆっくり引き伸ばすことが大切である。

微細線維(びさいせんい) = ミクロフィラメント(p.125)

微絨毛(びじゅうもう)

microvillus (複 : microvilli)

同 : 微小絨毛, 細絨毛

細胞表面膜に存在する膜小器官で, 細胞質*の突起様構造物。物質の吸収に関与する。 ●線毛, 刷子縁, 細胞質内小腺腔

注 1. 各種の細胞*に存在するが、小腸、腎上皮には密に存在し、刷子縁*(brush border)と呼ばれる。
2. 細胞の微絨毛は、顕微鏡的にも肉眼的にもみることができない。一方、小腸のひだは腸絨毛(villi)と呼ばれるが、これは肉眼的レベルでの粘膜の高まりをさす。

微小絨毛(びしょうじゅうもう) = 微絨毛(前項)

非上皮細胞(ひじょうひさいぼう) = 間質細胞(p.27)

非浸潤癌(ひしんじゅんがん) = 上皮内癌(p.65)

肥大(ひだい)

hypertrophy

種々の病因に対する反応として、細胞*や組織*の機能が亢進して臓器や組織の容積が増大すること。容積の増大は、構成細胞個々の容積が増大(単純肥大)するか、または細胞数が増加(●過形成, 増生)するか、あるいはその両者による。肥大した細胞の核*や細胞質*はともに増大し、細胞は全体として大型化する。

注萎縮*と肥大は反対の病態で、単純萎縮と単純肥大、数的萎縮と増生*(数的肥大, 過形成*)が相対する。 ●萎縮

用例仮性肥大(pseudohypertrophy: 本質的には元来の構成成分が萎縮を示すにもかかわらず、脂肪組織などが二次的に増えると、結果として全体の容積が増大する)

作業性肥大(work hypertrophy; 仕事肥大)

代償性肥大(compensatory hypertrophy)

内分泌性肥大(hormonal hypertrophy)

びまん性(一せい)

diffuse

周囲組織との境界が不明瞭に細胞*が広がっている状態を示す。

用例びまん性浸潤(diffuse infiltration)

表皮化生(ひょうひかせい) ●角化(p.25)

標本背景(ひょうほんはいけい) = 背景(p.102)

日和見感染(ひよりみかんせん)

opportunistic infection

癌*や白血病または免疫不全を引き起こす疾患、あるいはそれらに対する治療(抗癌剤, 大量のステロイドや免疫抑制剤の投与, 放射線療法, 手術, 抗生物質など)により宿主の感染に対する抵抗力が低下し、本来ならば発症しない弱毒または非病原性の微生物による感染が生じることをいう。

注 1. 起炎菌としては緑膿菌, セラチア, アシネトバクター, シトロバクターといったグラム陰性桿菌のほか、表皮ブドウ球菌, リステニア, 非定型抗酸菌といったグラム陽性菌など常在菌・弱毒菌といわれた細菌や、カンジダ, アスペルギルスなどの真菌, ニューモシスチス・カリニ, サイトメガロウイルスなどがある。

2. 菌交代現象(microbial substitution)とは、感染症に対して抗生物質を繰り返し投与するうちに、緑膿

菌，MRSA，カンジダなどの耐性菌感染に変化していくことをいう。

3. 院内感染(hospital acquired infection; nosocomial infection)とは，病院内での診療に関連して発症した感染症をさす。

びらん

erosion

同：I度潰瘍(UI-I)

浅い組織欠損を意味する。皮膚では表皮までに，粘膜では固有層にとどまる組織欠損。

注 1. 消化性潰瘍に関しては，びらんはI度潰瘍(UI-I：粘膜筋板に達しない組織欠損)と表現される。

2. 子宮腔部びらん(cervical erosion)は，真の組織欠損以外に臨床的には内頸部粘膜の外方への逸脱〔頸部外反(cervical ectropion)〕に対しても用いられる。後者は本来のびらんではないので偽びらん(pseudoerosion)とも呼ばれる。

用例角膜びらん(corneal erosion: 角膜上皮層の剥離欠損)

びらん性胃炎(erosive gastritis: 粘膜固有層の剥離性胃炎)

ふ

ファゴソーム ●嚥飲空胞(p.13)，リソソーム(p.132)

フィサリフォラス細胞(一さいぼう)

physaliphorous cell, physaliferous cell

同：泡沫細胞，担空胞細胞

脊索腫(chordoma)にみられる細胞質*が好酸性で小空胞が目立つ細胞で，グリコゲンが豊富である。背景*には酸性ムコ多糖類からなる物質を認める。免疫染色*で細胞質*にサイトケラチン*が陽性となる。

注語源の Physalis はホオズキのこと。

フィルター法(一ほう)

membrane-filter method

遠沈塗抹法*同様，液状検体で特に細胞成分の少ないと思われるときに行われる細胞収集方法である。膜濾過法ともいう。

注 1. フィルター法は $5\mu\text{m}$ くらいの孔径を持ったミリポアフィルターを用いて細胞*を収集する。フィルターを容器の所定位置に挟み，検体を容器に入れ，水流または吸引ポンプの陰圧で液を吸引してフィルターの上に細胞成分を集め，フィルター面が完全に乾く前にフィルターを取り出して固定*する。

2. フィルターは細胞の収集性に優れているが，フィルター上の細胞を染色，鏡検するため遠沈塗抹法に比べて検鏡しにくい。

用例ミリポアフィルター法(millipore-filter method)

ヌクレポアフィルター法(nucleopore-filter method)

メンブランフィルター法(membrane-filter method)

封入細胞(ふうにゅうさいぼう) ●相互圧排像(p.81)

封入体(ふうにゅうたい)

inclusion body

光学顕微鏡で認めることのできる円形ないし類円形の細胞内構造物で、1個ないし複数個認められる。大きさや色調はさまざまで、ウイルス感染におけるウイルス集塊や、細胞内の沈着物、変性物などにより形成される。

注 1. 封入体の特徴により形成の原因を推定できるものがあり、診断上重要である。

2. 封入体は核内、細胞質内のいずれにも認められる。狂犬病のネグリ(Negri)小体、ヘルペスウイルスのコウドリ(Cowdry)A型封入体、アデノウイルスのコウドリ封入体は核内封入体(intranuclear inclusion)である。

用例ウイルス封入体(viral inclusion body)

封入体性結膜炎(inclusion body conjunctivitis)

フォイルゲン染色(一せんしょく)

Feulgen reaction nuclear staining

同：フォイルゲン反応(Feulgen reaction), 核反応(nuclear reaction), 核染色(nuclear staining)。

シッフ(Schiff)反応によりデオキシリボ核酸(DNA)を特異的に検出する組織化学染色法。

注 1. 遊離亜硫酸が過剰に存在する酸性溶媒中で、無色～淡黄色のシッフ試薬は、アルデヒド基と結合して、赤～赤紫色の物質を生ずる。この反応がシッフ反応である。ただし、シッフ試薬はアルデヒド基のみでなく、ケトン、不飽和化合物過酸化物などとも反応する。

2. フォイルゲン染色では、DNAからプリン塩基を加水分解で除去後、残ったデオキシリボース残基の遊離アルデヒド基とシッフ試薬を反応させ、DNAを検出する。

3. PAS反応では、多糖類を過ヨウ素酸で酸化して生じさせたアルデヒド基とシッフ試薬を反応させ、多糖類を検出する。

4. 固定*は、無水アルコール、カルノア液などで約1時間行う。

フォイルゲン反応(一はんのう) = フォイルゲン染色(前項)

不均等分布(ふきんとうぶんぷ) ●クロマチンパターン(p.40)

不顕性癌(ふけんせいがん) ●ラテント癌(p.130)

ブラシ法(一ほう)

brush cytology

ナイロン製ブラシを用いて病変部(病巣)ないし部位の表面を広く擦過し細胞*を採取する方法である。

この方法で採取される細胞は穿刺吸引細胞診*同様、変性*の少ない新鮮な細胞である。

注ブラシ法を行う場合は通常、内視鏡下(コルポスコープ、気管支鏡、食道鏡、胃・大腸ファイバースコープなど)で直接病変部(病巣)を観察しその部位を擦過する方法がとられている。

用例気管支ブラシ擦過法(bronchial brush cytology)

食道ブラシ擦過法(esophageal brush cytology)

子宮内膜ブラシ擦過法(endometrial brush cytology)

ブラシボーダー = 刷子縁(p.55)

篩状(ふるいじょう, しじょう)

cribriform

同 : sievelike, cribrous

組織*や細胞*の標本において、間質細胞*を含まない単一の上皮性細胞で構成される細胞集塊*の概観が篩(ふるい)のように見えること。篩の枠、網に相当して細胞がみられ、篩の目は丸く抜けて見える。篩の目を取り囲むように並ぶ核*は規則正しい極性を示す。

注 1. 乳腺の非浸潤性乳管癌および浸潤性乳頭腺管癌, 前立腺中分化腺癌, 高分化型子宮内膜型腺癌(G1)などにみられる。

2. 核異型に乏しい細胞からなることが多く, 構造異型を示す所見として重要である。

3. 単一な上皮性細胞からなる細胞集塊に, 極性の規則正しい核で取り囲まれた多数の小腺腔構造が存在することを示す所見である。

4. 篩の目を取り囲む細胞の配列が不規則な場合は偽篩状(pseudocribriform)といわれ, 良性病変でもみられる。

用例篩状構造(cribriform pattern)

フローサイトメトリー

flow cytometry

略語 : FCM

蛍光染色を行った単離細胞の懸濁液を細管に流し, 側面からレーザー光を当てて得られる蛍光を検出し, 細胞集団の生物学的特性を分析する方法。

注種々の蛍光染色により, 細胞*の DNA/RNA 量や DNA/BrdU 量による細胞増殖解析, リンパ球サブセットの解析, 白血病/リンパ腫細胞のマーカー解析などに応用される。

分化(ぶんか)

differentiation

発生過程で細胞*が組織*ごとに特殊化していくことをいう。腫瘍*においては, 特殊化した正常組織との類似性の程度を示すために用いられる。

注腫瘍の名称に用いられる際には, 「分化 [型] (differentiated)」という形容詞形で用いられる。

用例高分化 [型] (well differentiated: 正常形態に近似した異型度をさす)

中分化 [型] (moderately differentiated: 高・低分化 [型] の中間的な異型度)

低分化 [型] (poorly differentiated: 正常形態から著しくかけ離れた異型度をさす)

未分化 [型] (undifferentiated : 正常形態のいかなるものとの類縁も推定できない状態をさす)

未分化癌(undifferentiated carcinoma; anaplastic carcinoma: 由来細胞・組織を類推できないほど分化度の低い癌)

脱分化 [dedifferentiation : 腫瘍のプロGRESSION(Progression)の過程で, 腫瘍の分化度がより低いものへと変化すること]

へ

平滑筋腫性過誤腫(へいかつきんしゅせいかごしゅ) ●過誤腫(p.23)

平面的(へいめんてき) =シート状(p.57)

平面的配列(へいめんてきはいれつ)

sheet-like arrangement

細胞*が二次元的に配列し、個々の細胞が重なり合わない状態をいう。検鏡中、同一平面上に全細胞の焦点が合えば細胞は同じ平面にあり、この状態を平面的配列という。

ベセスダシステム

The Bethesda System

略語：TBS

細胞診の精度向上を目的として、米国 National Cancer Institute(Bethesda)で考案された子宮頸部・膣細胞診の報告様式。①標本の適否(診断するのに適切な標本かどうか)、②総合診断(正常範囲内か否か)、③記述的診断(良性細胞変化、上皮細胞異常、他の悪性腫瘍について)の3段階の手順で記載する。 ●

パパニコロウ分類、クラス分類(日母)

注1. パパニコロウ分類*(Papanicolaou classification)のような番号、記号による分類は廃止し、より具体的な記述を重視している。

2. ヒトパピローマウイルス(human papilloma virus; HPV)を子宮頸癌の重要な要因と考えている。

3. SIL(squamous intraepithelial lesion; 扁平上皮内病変*)の概念を提起し、さらにこれを low grade SIL(HPV 感染および軽度異形成*)と high grade SIL(中等度異形成から上皮内癌*まで)の2段階に分類している。

4. 日本臨床細胞学会では、「TBS は本邦の実情に合わないので、これをそのままの形で直ちに公式に採用することはしない」との見解を出している。

ヘモジデリン

hemosiderin

同：血鉄素

マクロファージに貪食された赤血球やヘモグロビンが、リソソームで分解処理され形成された鉄反応陽性の内生色素(endogenous pigment)。黄金色～褐色を呈する。

注ヘモジデリンが臓器、組織*の中に多量に蓄積した病態にはヘモジデローシス(hemosiderosis)、ヘモクロマトーシス(hemochromatosis)がある。

用例肺ヘモジデリン症(pulmonary hemosiderosis)

ヘモジデリン含有マクロファージ(—がんゆう—) =心不全細胞(p.69)

ペルオキシダーゼ抗ペルオキシダーゼ法(—こう—ほう) =免疫細胞化学染色(p.128)

変性(へんせい)

degeneration

種々の病因の作用により動的平衡を保っていた細胞*の新陳代謝が障害されるために細胞や組織*に起きる形態や機能の変化。一般的には、①生理的に存在しない物質の出現、②生理的に存在する物質の量の異常な増加、③生理的に存在する物質の生理的には存在しない異常な場所への出現、である。変性

は形態学的に確認できる物質名や形態学的特徴により分類される。

細胞診でしばしば遭遇する変性には、アミロイド(類でんぷん)変性(甲状腺髄様癌)、粘液変性(印環細胞)、水腫変性(腫瘍細胞)、砂粒小体*形成(乳癌、甲状腺乳頭癌、髄膜腫)、コロイド変性(甲状腺癌)、色素変性(黒色腫)、腫瘍細胞の種々な変性(治療)、細胞の死後変性(固定*に関連)、脂肪変性(脂肪腫、脂肪肉腫、肝細胞癌)などがある。

注 1. 変性, 萎縮*, 壊死*は総括して退行性病変と呼ばれ, 代謝障害が軽いと変性や萎縮を, 重いと壊死を起こす。

2. 基本的には変性であるが, 異常物質の発現を浸潤*(infiltration), 沈着(deposition), 出現症(phanerosis)と表現されることもある。

用例混濁腫脹 [cloudy swelling(=実質変性 parenchymatous degeneration)]

水腫変性(hydropic degeneration)

空胞変性(vacuolar degeneration)

硝子滴変性(hyaline droplet degeneration)

硝子変性(hyaline degeneration)

粘液変性(mucous degeneration)

コロイド変性(colloid degeneration)

線維素変性(fibrinoid degeneration)

アミロイド(類でんぷん)変性(amyloid degeneration)

脂肪変性(fatty degeneration)

糖原変性(glycogen degeneration)

色素変性(pigment degeneration, pigmentation)

変性細胞(degenerative cell)

扁平円柱上皮境界(へんぺいえんちゅうじょうひきょうかい)

=扁平円柱上皮接合部(次項)

扁平円柱上皮接合部(へんぺいえんちゅうじょうひせつごうぶ)

squamo-columnar junction

略語: SCJ

同: 扁平円柱上皮境界

扁平上皮と円柱上皮の接する境界部。食道・胃境界部(esophago-cardiac junction; ECJ)などに存在する。子宮頸部では外子宮口付近にあり, 癌*の好発部位であるので特に重要視されている。

用例第1次扁平円柱上皮接合部(the first squamo-columnar junction; 1st SCJ: 子宮頸部における生来の両上皮の接合部)

第2次扁平円柱上皮接合部(the second squamo-columnar junction; 2nd SCJ: 円柱上皮部に生じた扁平上皮化生によって新しく生じた扁平上皮と円柱上皮との接合部)

扁平上皮型乳頭腫(へんぺいじょうひがたにゅうとうしゅ) ●乳頭腫(p.98)

扁平上皮癌(へんぺいじょうひがん)

squamous cell carcinoma

略語：SCC

同：類表皮癌(epidermoid carcinoma)

重層扁平上皮に類似した細胞*からなる癌*で、胞巣状ないし索状*の充実性癌巢からなる。分化*の程度により高分化，中分化，低分化に分類される。

注 1. 高分化型では重層扁平上皮に類似した層形成(stratification)，角化*(keratinization)傾向が認められ，癌真珠*[cancer pearl, または角化真珠(keratin pearl)]を形成する。細胞間橋*(intercellular bridge)を認める。低分化型では細胞質*が狭く，角化傾向はほとんどみられない。

2. 「子宮癌取扱い規約」では角化の有無により角化型(keratinizing type)，非角化型(non-keratinizing type)に分類されている。

3. 疣状癌(verrucous carcinoma)は角化型に属するまれな変異型で，組織学的に異型性は少なく，乳頭状外向性に発育する。

4. 類表皮癌(epidermoid carcinoma)は同義語であるが，用いられなくなる傾向にある。

5. 略語 SCC は，肺癌では小細胞癌*(small cell carcinoma)と混同されるおそれがあるため用いないほうがよい。

用例高分化型扁平上皮癌(well differentiated squamous cell carcinoma)

角化型扁平上皮癌(keratinizing squamous cell carcinoma)

非角化型扁平上皮癌(non-keratinizing squamous cell carcinoma)

扁平上皮細胞(へんぺいじょうひさいぼう)

squamous epithelial cell

皮膚，食道粘膜などの重層扁平上皮組織を構成する細胞*で敷石状*に配列し，基底層から表層に向かって扁平化と角質の増加を示す。なお，単層の中皮*や内皮細胞も扁平上皮細胞の一種である。

注 1. 重層扁平上皮細胞(stratified squamous epithelium)は，皮膚，口腔，咽頭，食道，肛門，中耳，鼻腔，喉頭，子宮頸部，膣，外陰部，尿道の一部，結膜，角膜，外分泌腺*の導管の一部に分布する。

2. 単層扁平上皮細胞(mono-layered squamous epithelium)は，肺胞上皮，腎糸球体上皮，中皮*，血管内皮に分布する。

3. 婦人科細胞診では，粘膜の重層扁平上皮を表層から基底側に向かって，①表層細胞(superficial cell)，②中層細胞(intermediate cell)，③傍基底細胞(parabasal cell)，④基底細胞(basal cell)に分ける。妊娠時の中層細胞は細胞質縁が肥厚した独特の形をとり，舟状細胞(navicular cell)と呼ばれる。

4. 皮膚では最表層の扁平上皮細胞が生理的に角化を起し角質層をなす。その直下の細胞は細胞質*にケラトヒアリン顆粒(keratohyaline granule)を有する。

用例扁平上皮化生(squamous metaplasia)

扁平上皮乳頭腫(squamous cell papilloma)

扁平上皮癌*(squamous cell carcinoma)

扁平上皮内病変(へんぺいじょうひないびょうへん)

squamous intraepithelial lesion

略語：SIL

ベセスダシステム*(The Bethesda System)の中で子宮頸部の非浸潤性上皮異常に対して提唱された病変名で、軽度と高度に分類される。

注 1. 従来の dysplasia/CIS 分類(軽度異形成*, 中等度異形成, 高度異形成, 上皮内癌*), CIN 分類(CIN I, II, III)はともに再現性に問題があるとして, 1988 年, National Cancer Institute のワーキンググループがベセスダシステムを提唱した。その中で扁平上皮に関する新しい概念として用いられた用語である。

2. 子宮頸部の low grade squamous intraepithelial lesion(LSIL)は, 軽度異形成(CIN I)に相当する病変と, ヒトパピローマウイルス(human papilloma virus; HPV)感染による細胞変化に対応し, high grade squamous intraepithelial lesion(HSIL)は中等度異形成(CIN II), 高度異形成, 上皮内癌(CIN III)に対応する。

3. WHO の “Histological Typing of Female Genital Tract Tumors” (second edition, 1994)では, SIL 分類は欄外に説明されているにとどまっている。「子宮頸癌取扱い規約」も同様の立場に立っている。

4. わが国では, クラス分類(日母)*が臨床の場で広く受けいられているので, ベセスダシステムは公式に採用されるには至っていない。

用例軽度扁平上皮内病変(low grade squamous intraepithelial lesion; LSIL)

高度扁平上皮内病変(high grade squamous intraepithelial lesion; HSIL)

鞭毛(べんもう)

flagella

細胞表面にある鞭(むち)のような細胞突起。線維構造物である。微小管を持ち運動能を持つ長い線毛*のこと。 ●線毛, 微絨毛

注 1. 1 本の長い線毛を鞭毛と呼び, 細胞*の運動を司る。

2. 鞭毛を持つ単細胞動物の代表としてトリコモナス原虫がある。

用例鞭毛虫(flagellata : 鞭毛を持つ原虫)

鞭毛運動(motility of flagella)

ほ

蜂窩状(ほうかじょう) = 蜂巢状(p.121)

胞状奇胎(ほうじょうきたい) ●絨毛性疾患(p.62)

紡錘細胞化生を伴う癌(ぼうすいさいぼうかせいをともなうがん) = 癌肉腫(p.31)

蜂巢型(ほうそうがた) ●空胞(p.36)

蜂巢状(ほうそうじょう)

honeycomb pattern

同：蜂窩状

立体的な細胞集団で, 腺上皮の場合, 核*が左右対称で細胞の中心にあり, 細胞*の形は多稜形であったかも蜂の巣様に見える状態を示す。

用例蜂巢状配列(honeycomb arrangement)

胞体(ほうたい) =細胞質(p.51)

膨張性増殖(ぼうちょうせいぞうしょく) ●増殖(p.83)

泡沫細胞(ほうまつさいぼう) =フィサリフォラス細胞(p.111)

泡沫状(ほうまつじょう)

foamy

細胞質*内に小さな空胞*が多数存在することにより、細胞質*が泡のように、または細胞質があぶくで充満しているように見えることをいう。このような細胞質を持つ細胞*を泡沫細胞(foam cell, foamy cell)と呼ぶ。

注 1. 子宮内膜間質細胞の細胞質が丸く膨大し細胞質が泡沫状になるのは、高エストロゲン状態、子宮内膜ポリープ、子宮内膜増殖症、子宮内膜腺癌などである。

2. 乳腺では、泡沫細胞は乳管拡張症や嚢胞性病変に伴って多数出現し、マクロファージ由来である。乳頭分泌物では、分泌乳管細胞が妊娠、授乳中、嚢胞性乳腺炎の際この形をとる。

3. 前立腺マッサージにより得られた標本の多数型塗抹にみられる泡沫細胞は前立腺細胞で、小さい核*と同形、エオジン好性で豊富な細胞質*を有する。

4. 脊索腫のフィサリフォラス細胞(physaliphorous cell)も泡沫細胞の一種である。

ホームー・ライト型偽ロゼット(一がたぎ一) ●ロゼット状

(p.135)

墨汁状(ぼくじゅうじょう) ●クロマチンパターン(p.40)

ホジキン細胞(一さいぼう)

Hodgkin cell

ホジキン病(Hodgkin disease)に出現する単核の大型異型細胞で、細胞径は 25~45 μ m。細胞質*は広く淡染性で、大型の核小体*(しばしば好酸性)が特徴的である。Ki-1 抗原が細胞質に陽性となる。2 核以上の細胞*をリード・ステルンベルグ(Reed-Sternberg)細胞と呼び、特に 2 核のものは owl eye(フクロウの目)、または鏡面像(mirror image)と表現される。

ポストチューブ法(一ほう)

post-tube preparation

0.5%ホルマリン・リンゲル液を少量入れたビニール袋に 3 日間連続痰を喀出させ、これを検査機関に郵送する方法である。

注 1. 痰の性状の違う数か所から材料を多めに採り、10 数回すり合わせて粘液*を良く引きちぎったうえで塗抹する(直接塗抹法の喀痰処理ではせいぜい 2~3 回が限度)。

2. ポストチューブ法では細胞*がある程度固定*されているため、塗抹が容易で剥離しにくく、細胞ないし細胞集塊*の破壊がほとんどみられないという利点がある。

ホブネイル [状] (一じょう)

hobnail

同：peg-shaped

独特の細胞*形態を、靴底に打ちつける頭の大きな鋌釘に見立てて表現する言葉である。靴底を基底膜*とし、管状構造や嚢胞の内腔へ突出したように並ぶ細胞の形を示す。

注 1. ホブネイル状の細胞(hobnail cells)には次の2つの定義があるが、②が主である。

①管状構造や嚢胞の内腔へ突出する明るい丸みを帯びた細胞質*と、核*を含む狭い基底部からなる細胞

②内腔へ突出する大きな濃染核と淡明な細胞質を有する細胞

2. ホブネイル状の細胞は腔、子宮頸部、子宮体部の明細胞腺癌(clear cell adenocarcinoma)、卵巣の明細胞腫瘍、子宮内膜の化生*としてのホブネイル変化、アリア・ステラ(Arias-Stella)現象などにみられる。

3. ホブネイルは、登山靴や軍靴など過酷な状況で使用される靴の底皮を保護するため、靴底に打った釘。大きな頭部と、靴底に打ち込まれる短く細い中子(なかご)からなる。

用例ホブネイル型(hobnail pattern)

ホブネイル細胞(hobnail cell)

ホブネイル変化(hobnail change)

ホブネイル配列(hobnail arrangement)

ま

マイクロバイオプシー [状] (一じょう)

microbiopsy [-like]

病理組織型を反映するような形で細胞診標本上に細胞集塊*として出現することをいう。穿刺細胞診などにおいてみられることが多い。閉経後の子宮腔部、腔壁などの萎縮扁平上皮では、綿棒による採取でも細胞*が組織集塊として採取される。

マクロファーヂ =組織球(p.84)

まりも状(一じょう)

同：球状細胞集塊(cell ball formation)

球状の細胞集塊*が液状検体の中に多数浮遊している状態、あるいは球形の充実性細胞集塊の比喩表現。

注 1. 本来は球状の細胞集塊が液状検体の中に多数浮遊している状態に命名された比喩表現であるが、現在では球状の細胞集塊の形態の特徴として用いられることが多い。

2. 液状検体中に出現した腺癌細胞(乳癌、肺癌、卵巣癌など)、中皮細胞集塊、上皮性中皮腫などでみられる。

3. 外国ではまりもは一般的に知られていないので、外国語として用いる場合は本態の十分な説明が必要である。

み

ミカエリス・ガットマン小体(一しょうたい)

Michaelis-Guttman body

肉芽腫性炎症であるマラコプラキア(malakoplakia)でみられる。組織球*の細胞質内に同心円状の構造

を示す石灰と鉄からなる封入体*である。主に膀胱にみられるが、尿中に剥離出現するのはまれである。

マイクロフィブリル =マイクロフィラメント(次項)

マイクロフィラメント

microfilament

同：マイクロフィブリル(microfibril), 微細線維, マイクロフィラメント

細胞骨格を構成する最も細い線維(直径 5~8nm)。アクチン(ac-tin)が主成分で、これにミオシン(myosin), トロポミオシン(tropomyosin), α -アクチニン(α -actinin)などを含む。しばしばアクチンフィラメントとも呼ばれる。細胞内部位により網目構造, 集合束〔緊張線維(stress fiber)〕として存在している。細胞の形態のみならず, 細胞運動の機能をも担っている。 ●細胞骨格

未熟(みじゅく) ●成熟(p.71)

ミトコンドリア

mitochondria

同：糸粒体

直径が約 $0.5\mu\text{m}$, 長さが 2, $3\mu\text{m}$ から $40\mu\text{m}$ に達する小顆粒ないし糸状の細胞内小器官。内外 2 枚の膜が外区画を形成し, 内膜に包まれた部分を内区画と呼ぶ。内膜は内区画または基質(マトリックス)に向かって突出し, 櫛(クリステ; cristae)を形成している。主な酵素としては, 外膜にモノアミンオキシダーゼ, 内膜にはチトクロムオキシダーゼが存在する。

細胞*により, その形態および数はさまざまである。一般に, 代謝の活発な細胞ほどその数は多く, 筋細胞では細胞容積の 50%以上を占める。一細胞内のミトコンドリアの数は恒常的でなく, 代謝の過程でその数は変化する。

注 1. クリステの内側には長さ 5nm の柄と頭部直径 8~10nm の大きさの内膜粒子が規則正しく並んでおり, ATPase を産生している。

2. 内区画(基質)は微細顆粒状ないし細線維状の構造を呈しており, $20\sim 50\mu\text{m}$ 径の高分子密度の顆粒(ミトコンドリア内顆粒)がしばしば観察され, Mg や Ca の結合部位と考えられている。また, ミトコンドリア基質内にはリボソーム様粒子, グリコーゲン顆粒, その他の封入体*もみられる。

3. ジェーナス緑によって生体染色ができるので光顕的に認識しうる。

用例ミトコンドリア DNA(mitochondrial DNA: 核とは別個にミトコンドリアが持っている DNA)

未分化〔型〕(みぶんか)がた) ●分化(p.114)

未分化癌(みぶんか)がん) ●分化(p.114)

ミラーボール状(一じょう)

mirror ball-like

同：桑実状(そうじつじょう)

個体発生の桑実胚のように, 中空状のボールの表面に細胞境界が明瞭な一層の細胞*が並列している状態。個々の細胞結合の状態がミラーボールのように見える。 ●まりも状

注 1. 中空状に見える部分には粘液様物質もしくは間質*が存在する。

2. 卵巣の明細胞腺癌, 中皮腫*で見られる。

む

無色素性黒色腫(むしきそせいこくしょくしゅ) ●メラニン

(p.127)

ムチン ●粘液染色(p.100)

め

明細胞腫瘍(めいさいぼうしゅよう) ●ホブネイル状(p.123)

メラニン

melanin

皮膚(表皮)基底層, 毛髪, 網膜, 軟髄膜, 大脳黒質, 交感神経節, 副腎髄質などにある樹枝状のメラノサイト(melanocyte)から作られる黄赤色～黒褐色の色素とたんぱくが結合したもの。皮膚では傍基底細胞や真皮のメラニン貪食細胞に沈着する。メラニン色素は, 産生細胞内のメラノソーム内でチロジンが酸化されてドーパ(dopa)を経て形成され, また一部はシスチンとの結合によって形成される。

注 1. メラニン産生細胞はメラノサイト, 色素細胞(pigment cell)ともいわれる。

2. 東洋人の殿部真皮内にはメラノフォレス(melanophores)が多く, 小児に青色斑として認められたものが蒙古人斑(Mongolian spot; sacral spot)である。

3. 妊娠性褐色症(melasma gravidarum)は, 妊娠により MSH 分泌が亢進することにより顔面, 乳房, 外陰に

発症する。

4. 悪性黒色腫(malignant melanoma)は色素細胞が悪性化したもので, 褐色調を種々の程度に呈する。S-100 たんぱくは必ずしも陽性ではない。色素形成能の違いにより, 必ずしもメラニンが沈着していないことがある。それらの細胞は, 電顕下で種々の段階のメラノソームが証明される。これらを無色素性黒色腫(amelanotic melanoma)という。

5. アジソン病(Addison disease)では, 副腎髄質でのアドレナリン形成障害のため, メラニンが過剰に産生され皮膚, 粘膜に沈着するとされる。

6. 大腸メラノーシス(melanosis coli)では, 虫垂, 大腸の粘膜固有層に黒褐色色素が沈着するが, 本体はメラニンではなくリポフスチンである。

用例メラニン顆粒(melanin granules)

メラノーマ ●メラニン(前項)

免疫細胞化学染色(めんえきさいぼうかがくせんしょく)

immunocytochemical staining

同: immunostaining, ペルオキシダーゼ抗ペルオキシダーゼ法(peroxidase-anti-peroxidase immunostaining; PAP), ストレプトアビジンビオチンペルオキシダーゼコンプレックス法(streptavidin-biotinyl-peroxidase complex method; ABC), ストレプトアビジンビオチンペルオキシダーゼ法(labeled-streptavidin-biotin-peroxidase method; LSAB)

標識抗体または標識抗原を用いて, 細胞組織内の抗原, 特異抗体の局在を検出する染色法。

注 1. 標識には, 蛍光, 酵素, 重金属, アビジン, ビオチンなどを用いる。

2. 光顕レベル，電顕レベルの微細構造研究にも用いられる。

3. 一本鎖の RNA または DNA をプローブとして，細胞内の遺伝子や mRNA の位置を決める in situ hybridization にも応用される。

用例カルシトニン免疫染色(calcitonin immunostaining)

も

蒙古人斑(もうこじんはん) ●メラニン(p.127)

モールドィング =相互圧排像(p.81)

ゆ

有糸分裂(ゆうしぶんれつ)

mitosis

真核細胞が複製した染色体*を2個の娘核に分配する過程で細胞*の数が増えること。前期(prophase)，中期(metaphase)，後期(telophase)の3段階がある。

注 1. 細胞回転(cell cycle)の M 期に属する。G1, S, G2 期は間期(interphase)という。増殖細胞(proliferating cell)とは細胞回転の状態にある細胞を，休止細胞(resting cell)とは休止期(resting phase; G0 期)にあり増殖*していない細胞をいう。

2. 核分裂数(mitotic count)とは核分裂の時期(M 期)にある細胞の数をいい，核分裂指数(mitotic index)とは全細胞に占める M 期の細胞の比率をいう。その多寡は細胞増殖力の指標となる。

疣状癌(ゆうじょうがん) ●扁平上皮癌(p.118)

よ

予備細胞(よびさいぼう)

reserve cell

腺上皮の基底膜*に接して位置する多分化能を有する細胞*である。上皮の傷害後の修復*(repair)，再生*(regeneration)，慢性刺激などによる増生*(hyperplasia)・化生*(metaplasia)・異形成*(dysplasia)などに直接関与する細胞と考えられている。

注扁平上皮系の同種の細胞は一般に基底細胞(basal cell)と呼ばれる。

用例予備細胞増生(reserve cell hyperplasia)

予備細胞増生(よびさいぼうぞうせい) ●増生(p.83)，予備細胞 (前項)

ら

ライソソーム =リソソーム(p.132)

裸核(らかく)

naked (bare, stripped) nucleus

細胞質*が観察されない細胞*の核*をいう。細胞質の脆弱性や外的要因，あるいは変性*の過程として細胞質の自己融解*により細胞質が失われた状態である。 ●核・細胞質比，合胞状，自己融解

ラテント癌(—がん)

latent carcinoma

生前、臨床的に癌*の徴候がみられず、死後剖検により初めて存在を確認された癌。

注 1. latent carcinoma の邦訳は一定せず、潜在癌、潜伏癌、不顕性癌などが用いられている。そのため混乱を防ぐためにあえてラテント癌と表記されている(「前立腺癌取扱い規約」,「甲状腺癌取扱い規約」)。

2. 前立腺, 甲状腺にその頻度が高い。非臨床癌の一種である。

ラングハンス巨細胞(一きよさいぼう)

Langhans giant cell

結核の類上皮肉芽腫に高頻度に見られる多核巨細胞。組織球が融合したもので、核*は 100 個以上となることもあり、通常は細胞*の辺縁ないし端に弓状に集まってみられる。 ●組織球

注 1. 結核に比べ頻度は低いが、サルコイドーシス(sarcoidosis)などの肉芽腫性病巣中にも出現する。

2. 胎盤内側のラングハンス細胞性トロホブラスト(Langhans cell trophoblast)とは異なる。

卵巣甲状腺腫(らんそうこうじょうせんしゅ) ●奇形腫(p.32)

り

リード・ステルンベルグ細胞(一さいぼう)

Reed-Sternberg cell

ホジキン病(Hodgkin disease)の病巣に出現する大型多核の特異細胞。2核の場合は、互いに対比する位置を占めて鏡面像(mirror image)を形成する。

注 1. 大きさは 15~50 μm に及び、細胞質は広く、PAS 反応、脂肪染色とも陰性を示す。2 個ないし数個の円形~不整円形の核*は細胞*の中心近くに位置し、粗網状のクロマチン*と巨大な好酸性核小体*が特徴である。

2. 単核の場合にはホジキン細胞*(Hodgkin cell)として区別する。

リガンド ●受容体(p.63)

リソソーム

lysosome

同: ライソソーム, 水解小体

酸ホスファターゼなど一群の加水分解酵素を含む限界膜で囲まれた細胞内小器官である。形態と起源は種々雑多であるが、リソソーム内にはたんぱく質、脂質、多糖類、核酸などを分解する 30 以上の酵素が同定されている。

注 1. リソソームは種々の酵素により消化を司るが、消化されるものは細胞*内および細胞外由来のものである。死んでいく細胞ではこのリソソームの膜が崩壊し、種々の酵素が自己の細胞内に浸潤*・拡散して細胞自身が破壊される。

2. リソソーム酵素を合成する粗面小胞体およびゴルジ装置由来のリソソームを一次リソソームと呼ぶ。ファゴソーム(phagosome)は細菌や巨大分子を細胞が取り込んだ状態のものであり、ミトコンドリア*, 小胞体*が生理的あるいは病的にリソソームになったものを自家融解水体と呼ぶ。これらのものと一次リソソームが癒合したものを二次リソソームと呼ぶ。このほか、小さな分子量の分子を取り込む飲小胞(pinocytotic vesicle)がいくつか集まった多胞体(multivesicular body)と呼ばれる二次リソソームもある。

立方上皮細胞(りっぽうじょうひさいぼう)

cuboidal epithelial cell

立方状の上皮細胞で通常単層に配列し、腺管などの内面を裏打ちする。

注 1. 腎尿細管, 甲状腺濾胞上皮, II型肺胞上皮, 羊膜上皮に分布する。

2. 円柱上皮細胞*と同様, 基底側において間質*に接し遊離縁は内腔に面する。分泌, 吸収などの機能を営む。

リポフスチン = 消耗色素(p.66)

良性(りょうせい)

[名詞] **benignancy**, [形容詞] **benign**

一般に生命を脅かす危険のない病態をいう。腫瘍*では, 現在および将来とも浸潤*, 転移*を示すことのない病変を意味する。非腫瘍性病変についても用いられる。●悪性

注 良性(benignancy)は, 多くの場合「良性の(benign)」として形容詞で使用される。

用例 良性腫瘍(benign tumor: 腫瘍の生物学的態度)

良性腎硬化症(benign nephrosclerosis)

良性潰瘍(benign ulcer: 非癌性を意味する表現)

臨床進行期分類(りんしょうしんこうきぶんるい)

clinical staging

同: **clinical stage classification**

癌*の進行程度を臓器別に定め進行期(stage)として分類したもの。

注 0期を非浸潤癌, I期を原発した臓器にとどまっている癌とし, II~IV期をさまざまな程度に進行した癌とするのが一般的である。各期はさらに Ia期, Ib期などというように細分されることもある。

る

類上皮細胞(るいじょうひさいぼう)

epithelioid cell

結核性病巣などの肉芽腫性病変にみられる楕円形~紡錘形の比較的大型の細胞*。核*は類円形~紡錘形で染色質は淡染し, 細胞質は豊かで上皮性細胞様に見える。

注 1. 組織球*および単球に由来すると考えられている。

2. サルコイド結節, 亜急性甲状腺炎などでもみられる。

用例 類上皮細胞結節(epithelioid cell tubercle)

類でんぶん小体(るい—しょうたい)

amyloid body, amyloid corpuscle, [ラ] **corpora amylacea**

同: でんぶん様小体, アミロイド小体

でんぶん顆粒に類似した円形の構造物で, ときに層状をなす。大きいものは細胞核の数倍になる。神経組織, 肺, 前立腺, 皮下などにみられる。

注 組成はでんぶん質とは異なり, アミロイドとも差異がある。

類表皮化(るいひょうひか) ●角化(p.25)

類表皮癌(るいひょうひがん) = 扁平上皮癌(p.118), 角化(p.25)

れ

レセプター = 受容体(p.63)

連珠状(れんじゅじょう)

beads-like

同：数珠状, 念珠状

円形の細胞*が一行に連なって出現した状態をいう。円形細胞の一端が他の円形細胞の一端に接し、それが一行に配列してあたかも連珠のように見える。

ろ

漏出液(ろうしゅつえき) = 濾出液(次々項)

老人性萎縮(ろうじんせいしゆく) ●萎縮(p.9)

濾出液(ろしゅつえき)

transudate

同：漏出液

脈管内の内圧亢進または血液の膠質浸透圧低下により脈管外へ漏れ出た液体成分。淡色透明でたんぱく含量は低く,細胞成分に乏しい。

ロゼット状(—じょう)

rosette-like

同：花冠状, 菊座

細胞*が放射状に配列して、バラの花(キクの花)の形に似た像を形成する状態。元来は、神経芽腫(neuroblastoma), 脳室上衣腫(ependymoma)の組織像においてこのような細胞配列がみられ真正ロゼット(true rosette)と呼ばれた。細胞診領域では、腺癌細胞がこのような細胞配列を示すことがあり、広義にロゼット状(ロゼット様)として用いられている。

注一見ロゼットに類似した像であっても、配列の中心に血管や微細顆粒を有するものを偽ロゼット(pseudorosette)と呼ぶ。例えば、ホーマー・ライト型偽ロゼット(Horner-Wright pseudorosette)は、中心部に微細顆粒状の物質を有し、その周りを腫瘍細胞が放射状に取り囲むもので、髄芽腫(medulloblastoma)などに認められる。また、血管周囲偽ロゼット(perivascular pseudorosette)は血管を中心とする腫瘍細胞の放射状配列で、脳室上衣腫(ependymoma), 星状細胞腫(astrocytoma)などに認められる。

●日本臨床細胞学会用語検討小委員会委員◇1990年5月～1994年5月

委員長：山田 喬

婦人科：山辺 徹，岡島弘幸，植木 実，山片重房

呼吸器：松田 実，山口 豊，小中千守

消化器：信田重光，垣花昌彦，堀中悦夫

病 理：山田 喬，坂本穆彦，矢谷隆一

◇1994年6月～現在(*印：編集委員)

委員長：矢谷隆一*

婦人科：岡島弘幸，植木 実，山片重房*，中島徳郎

呼吸器：小中千守*，宝来 威

消化器：垣花昌彦，堀中悦夫*，小塚正雄

病 理：矢谷隆一，坂本穆彦*，牛込新一郎

細胞検査士：山岸紀美江*，都竹正文*

幹 事：石原明徳*

●執筆者(五十音順)●阿部庄作●池田正典●石 和久●石原明徳●植木 実

●牛込新一郎●大塚俊通●岡島弘幸●落合和彦●小俣好作

●垣花昌彦●覚道健一●柏村正道●河手典彦●工藤隆一

●小塚正雄●小中千守●小林 晏●小松彦太郎●斉藤泰紀

●坂本穆彦●佐藤信二●篠塚孝男●杉下 匡●諏訪敏一

●高橋秀暢●武田鐵太郎●土橋康成●都竹正文●手塚文明

●利部輝雄●中島徳郎●根本則道●野澤志朗●長谷川壽彦

●馬場雅行●半澤 儁●東岩井 久●広岡保明●広川満良

●宝来 威●堀中悦夫●前田昭太郎●松田 実●三浦弘之

●水口國雄●元井 信●本山悌一●矢谷隆一●山内一弘

●山片重房●山岸紀美江●横井豊治●

●凡 例 1. 用語の選定

細胞診で用いられる基本用語のうち，現場で誤解や混乱を生じやすいもの 250 語を取り上げ，概念や用法を整理することを目的とした。

2. 見出語

1) 日本語で表記した。日本語訳のないもの，外国人名などは慣用を重視しながらカナ表記とした。表記は原則として『日本医学会医学用語辞典・和英』に従った。

2) 読みの五十音順に配列した。長音は直前の母音を重ねた位置に配列した〔例：アズール顆粒＝あずうるかりゅう〕。

英字は次のように読んだ。C：シー＝しい，T：ティー＝ていい

3) 見出語には読み(ひらがなで表記)と、対応する外国語を付した。外国語は英語を原則に、必要に応じて他の外国語でも記した。人名の後の 's は、国内の例に習い省略した。

4) 頻繁に用いられる略語があれば示した。

5) 省略可能な語は〔 〕で括り、その語があるものとして配列した。見出語の()内は言い換えが可能であることを示す。

6) 同義語は 同： で示した。なお、同義語として挙げられている語は見出語としても掲げ、解説が付されている項目を=の後に示した。

7) 見出語のうち他の項目でまとめて説明されているものは●でその項目を示した。

3. 解説

1) 各項目は解説文、注、用例からなる。

2) 解説文では、簡潔明解な定義を示した。学会により定義が異なる場合はその旨を明記し定義を併記した。

3) 注では、用語使用上の注意点、類義語や周辺用語との関係、歴史的変遷などをわかりやすく説明した。

4) 用例は注を補足する具体例で、外国語を併記し、必要により注意事項を簡潔に付記した。

5) 解説文中の●は参照語を、*はその語が見出語となっていることを示す。

4. 解剖用語

細胞診を行う際に必要な基本的解剖用語を、図を中心に示し、対応する外国語を併記した。

5. 索引

1) 欧文索引と和文索引に分けた。

2) 欧文索引には、対応する日本語を併記した。英和基本用語集としても使用可能である。

●序

「細胞」という表現は、周知のように *Cellula* が語源であり、壁に囲まれているいくつもの空隙一蜂の巣のようなものを意味する。この用語は、やがて *tissue cellulare*(仏)や *Zellgewebe*(独)の概念を生み出し、遂に「動植物の単位は細胞」(Shwann, 1839)という学説を確立した。また、核(*nucleus*)と命名されたのもこの時期である。

顕微鏡の発明は細胞内の観察を可能にしたが、照明装置や油浸装置の応用までには、さらに 100 年余の歳月を費やした。細胞形状の詳細な観察に加えて、細胞内部もますます大きく拡大観察されるようになり、種々の染色法の開発と相まって、形態学的認識法から細胞の構造やその異常を表現する多数の用語が編み出された。

1928 年, G. Papanicolaou の剥離細胞診断法の理論と手技が発表されたが、すでに確立されていたとも言える病理組織診断法の前に一蹴された。細胞単位での診断は不可能とする病理組織学の論理性に打ち打ちすることはできず、「細胞診は、組織診に対してそんなに余計な(*super-fluous*)ことであろうか」と Papanicolaou を失望落胆させたという。

しかし、大戦後、位相差顕微鏡、蛍光顕微鏡、電子顕微鏡、細胞分画法、電気泳動法、細胞計量法などの技術が急速に進歩し、細胞内核酸やたんぱく合成の機構が次第に解明され、分子レベルの情報がとどまるところなく細胞診へもフィードバックされている。一方、臨床検査法として、社会医学的ニーズが細胞診の価値を高めたことも見逃せない。1960 年代に入り、子宮癌、次いで肺癌、乳癌などの住民検診、集団検診が細胞診によって広く組織的、継続的に行われるようになり、早期癌の検出に、特異性(*specificity*)は十分とは言えないが、鋭敏性(*sensitivity*)を発揮したことから、論理性の不備を補って余りある実用的価値によって評価が得られたことになる。これによって細胞診に関する制度も専門化され、細胞診には、遠慮がちな表現も、ことさら誇張した主張も必要なくなった現在、われわれは 21 世紀へ向けて着実な歩みをしなければならない。細胞診のバイブルと言われる Papanicolaou の“*Atlas of Exfoliative Cytology*”以来、内外で細胞診に関するテキストやガイドラインの書籍は多数出版されたが、細胞診に関する用語を中心に細胞学の専門語を集積して解説した冊子は、前例がないと思う。

本書の企画をはじめ編集への労を多とした日本臨床細胞学会用語検討小委員会(委員長、矢谷隆一)委員の諸氏に深甚の謝意を捧げるとともに、細胞診に携わる専門医、細胞検査士はもとより、これから細胞診を通して広く細胞学を究める学徒の座右において役立てていただきたい。

1996 年 9 月

日本臨床細胞学会会長 西谷 巖

●刊行のことば

この度『細胞診用語解説集』が刊行されることとなった。臨床細胞学の発展に伴い、さまざまな用語が使用されるようになり、時としてその用法、意味に若干の混乱がみられるようになった。そのため細胞診に携わる医師、細胞検査士の間準拠できる用語集を求める声が挙がり、これに応え、日本臨床細

胞学会では 1990 年 5 月に用語検討小委員会を発足させた。初代委員長には山田 喬先生が就任され 13 名の委員が精力的に活動された。そこでの成果を受け継ぎ、1994 年 6 月より第 2 期の用語小委員会が発足し、用語集の発刊を目標として、婦人科、呼吸器、消化器、病理、技術の各分野から専門家にお集まりいただき、編集会議を繰り返しながらようやく形を整えることができた。

本書は細胞診の現場で誤解を生じやすい用語について、誤解や混乱を引き起こさないよう明快に解説したもので、現場で十分に活用されるようハンドブック形式とした。

解説の執筆は、長年にわたり細胞診業務に従事し細胞診の知識の向上に努力された人たちに、それぞれの専門的立場からお願いした。原稿依頼を快くお引き受けいただき心から御礼申しあげる。また、編集委員の方々には、ご多忙の中を何度も足を運んでいただき、用語の選定から執筆の依頼、編集・校正作業まで責任をもって行っていただいた。深く感謝申しあげる。とりわけ中心となって作業を進めて下さった坂本穆彦、石原明德両氏の献身的なご協力とご厚意に深謝する。比較的短期間のうちに何とか出版に漕ぎ着けることができたのは、関係各位のご協力の賜物である。

最後に、もちろん本書は最善を目指して努力したが完全なものとはいえない。本書を出発点に活発な議論が展開され、より充実した用語解説集が育っていくよう、ご批判、ご意見をお願い申しあげる次第である。

1996 年 9 月

日本臨床細胞学会用語検討小委員会委員長 矢谷隆一

●細胞の構造(例：肝細胞)細胞質 cytoplasm

細胞膜 cytoplasmic membrane

微絨毛 microvillus (microvilli)

デスモソーム desmosome

核 nucleus (nuclei)

核小体 nucleolus (nucleoli)

クロマチン chromatin

核膜 nuclear membrane

核膜孔 nuclear pore

ミトコンドリア mitochondria

ゴルジ装置 Golgi apparatus

粗面小胞体 rough (granular) endoplasmic reticulum

滑面小胞体 smooth endoplasmic reticulum

中心子 centriole

リソソーム lysosome

リボソーム ribosome

グリコーゲン顆粒 glycogen

granule

脂肪滴 lipid droplet

細胞質内細線維 intracytoplas-

mic filament

毛細胆管 bile canaliculus

(canaliculi)

●脳(矢状断面)硬膜 dura mata

クモ膜 arachinoid

クモ膜下腔 subarachinoidal space

クモ膜顆粒 arachinoid granulation

上矢状静脈洞 superior sagital sinus

直静脈洞 straight sinus

静脈洞交会 confluence of the sinus

大脳 cerebrum

小脳 cerebellum

橋 pons

延髄 bulb, medulla oblongata

下垂体 pituitary gland
松果体 pineal body
四丘体 corpora quadrigemina
腦弓体 corpus of the fornix
腦梁 corpus callosum

室間孔 intraventricular foramen
透明中隔 septum pellucidum
前交連 anterior commissure
視床間橋 interthalamic adhe-
sion
第三腦室 third ventricle
第四腦室 fourth ventricle
中腦水道 cerebral aqueduct
中心管 central canal
第三腦室脈絡叢 choroid
plexus of the third ventricle
第四腦室脈絡叢 choroid
plexus of the fourth ventricle
小腦延髓槽 cerebellomedullary cistern

●胸腹部(矢状断面)

甲状腺 thyroid gland
胸腺 thymus
气管 trachea
气管分岐部 bifurcation of trachea
心臟 heart
心膜腔 pericardial cavity
上行大動脈 ascending aorta
下行大動脈 descending aorta
胸骨 sternum
胸骨柄 sternal manubrium
肝臟 liver
膵臟 pancreas
食道 esophagus
胃 stomach

十二指腸 duodenum

空腸 jejunum

回腸 ileum

虫垂 appendix

盲腸 cecum

上行結腸 ascending colon

橫行結腸 transverse colon

下行結腸 descending colon

S 狀結腸 sigmoid colon

直腸 rectum

肛門 anus

橫隔膜 diaphragm

腹膜 peritoneum

腹腔 peritoneal cavity

腹膜後隙(後腹膜腔) retroperitoneal space

腸間膜 mesentery

腸間膜根 root of mesentery

大網 greater omentum

小網 lesser omentum

網囊 omental bursa

直腸子宮窩 rectouterine pouch

膀胱子宮窩 vesicouterine pouch

岬角 promontory

臍 umbilicus

膀胱 urinary bladder

子宮 uterus

膣 vagina

恥骨結合 pubic symphysis

頸椎 cervical vertebra

胸椎 thoracic vertebra

腰椎 lumbar vertebra

仙骨 sacrum

棘突起 spinous process of the vertebra

●胸部(水平断面)心臟 heart

心室 ventricle

心房 atrium

心外膜 epicardium

心膜 pericardium

心膜腔 pericardial cavity

前縱隔 anterior mediastinum

大動脈 aorta

肺動脈 pulmonary artery

主氣管支 mainstem bronchus

食道 esophagus

奇靜脈 azygos vein

右肺 right lung

左肺 left lung

胸腔 pleural space

肺胸膜 pulmonary pleura

壁側胸膜 parietal pleura

脊柱管 vertebral canal

胸椎 thoracic(dorsal)vertebra

脊髓 spinal cord

胸骨 sternum

肋軟骨 cartilage of the rib

肋骨 rib

肋間筋 intercostal muscle

大胸筋 pectoralis major muscle

小胸筋 pectoralis minor muscle

●腹部(水平断面)腹部大動脈 abdominal aorta

下大靜脈 inferior vena cava

門脈 portal vein

肝臟 liver

右葉 right lobe

左葉 left lobe

胆囊 gallbladder

胃 stomach

十二指腸 duodenum
橫行結腸 transverse colon
胰臟 pancreas
胰管 pancreatic duct
脾臟 spleen

右腎 right kidney
左腎 left kidney
右副腎 right adrenal gland
橫隔膜 diaphragm
腹膜 peritoneum
胸腔 pleural space
腹腔 peritoneal cavity
後腹膜腔 retroperitoneal space
肋骨 rib
肋間筋 intercostal muscle
腰椎 lumbal vertebra
脊髓 spinal cord
脊柱起立筋 elector trunci muscle

●氣道

喉頭 larynx
喉頭蓋 epiglottis
舌骨 hyoid bone
甲狀軟骨 thyroid cartilage
聲帶 vocal cord
輪狀軟骨 cricoid cartilage
氣管 trachea
氣管分岐部 tracheal bifurcation
主氣管支 main bronchus
肺葉氣管支 lobar bronchus
區域氣管支 segmental bronchus
亞區域氣管支 subsegmental
bronchus
終末細氣管支 terminal bron-
chiole

第1次呼吸細気管支 primary

respiratory bronchiole

第2次呼吸細気管支 secondary

respiratory bronchiole

肺胞管 alveolar duct

肺胞囊 alveolar sac

断面図

- a. 線毛円柱上皮 ciliated columnar epithelium
- b. 杯細胞 goblet cell
- c. 気管支腺 bronchial gland
- d. 平滑筋 smooth muscle
- e. 気管(気管支)軟骨 cartilage of the bronchus (bronchiole)

● 肝臓, 胆道, 膵臓部肝臓 liver

胆嚢 gallbladder

肝管 hepatic duct

総肝管 common hepatic duct

胆嚢管 cystic duct

総胆管 common bile duct

大十二指腸乳頭 major duodenal papilla

小十二指腸乳頭 minor duodenal papilla

膵管 pancreatic duct

副膵管 accessory pancreatic
duct

膵臓 pancreas

膵頭部 head of pancreas

膵体部 body of pancreas

膵尾部 tail of pancreas

鉤状突起 uncinata process

脾臓 spleen

十二指腸 duodenum

空腸 jejunum

門脈 portal vein

上腸間膜静脈 superior mesenteric vein

上腸間膜動脈 superior mesenteric artery

總肝動脈 common hepatic artery

● 男性生殖器(断面)膀胱 urinary bladder

膀胱尖 apex of bladder

尿管 ureter

尿管口 ureteral orifice

尿道 urethra

前立腺部 prostatic part

海綿体部 cavernous part

内尿道口 internal urethral orifice

外尿道口 external urethral orifice

尿道球腺 bulbourethral gland

陰莖 penis

陰莖海綿体 corpus cavernosum penis

尿道海綿体 corpus cavernosum urethra

前立腺 prostate

精管 ductus deferens

精管膨大部 ampulla of ductus deferens

精囊 seminal vesicle

射精管 ejaculatory duct

精巢 testis

精巢上体 epididymis

精巢上体管 duct of epididymis

陰囊 scrotum

腹膜 peritoneum

正中臍索 median umbilical ligament

恥骨結合 symphysis

● 泌尿器系器官(女性)

右腎 right kidney
皮質 cortex
髓質 medullary substance
腎錐體 pyramid
腎柱 renal column
腎乳頭 renal papilla
大腎杯 major calyx
小腎杯 minor calyx
腎盤 pelvis
線維被膜 fibrous capsule
右尿管 right ureter
尿管口 orifice of ureter
膀胱 urinary bladder
膀胱尖 apex of urinary bladder
膀胱體 body of urinary bladder
膀胱底 fundus of urinary bladder
膀胱三角 trigone of urinary
bladder

正中臍索 median umbilical ligament
尿道 urethra
內尿道口 internal urethral
orifice
外尿道口 external urethral
orifice
小陰唇 labium minus
右副腎 right adrenal gland
副腎皮質 cortex of suprarenal
gland
副腎髓質 medullary substance
of suprarenal gland
腎動脈 renal artery
腎靜脈 renal vein
下大靜脈 inferior vena cava
腹部大動脈 abdominal aorta
總腸骨動脈 common iliac artery

●女性骨盤臓器(矢状断面)膀胱 urinary bladder

尿道 urethra

外尿道口 external urethral or-
ifice

子宮 uterus

膣 vagina

膣円蓋 fornix of vagina

膣口 orifice of vagina

会陰 perineum

小陰唇 labium minus

大陰唇 labium majus

陰核 clitoris

卵巢 ovary

卵管采 fimbria tubae

卵管 uterine tube

卵巢提索 suspensory ligament
of ovary

子宮円索 round ligament of
uterus

尿管 ureter

直腸子宮窩(ダグラス窩) recto-
uterine pouch (of Douglas)

膀胱子宮窩 vesicouterine pouch

腹膜 peritoneum

直腸 rectum

肛門 anus

仙骨 sacrum

恥骨結合 symphysis

●女性生殖器(断面)子宮体部 corpus of uterus

子宮底 fundus of uterus

子宮頸 cervix of uterus

子宮腔 uterus cavity

子宮頸管 cervical canal

内子宫口 internal os of uterus

外子宫口 external os of uterus

膣口盖 fornix of vagina

膣 vagina

卵巢 ovary

输卵管 uterine tube

输卵管峡部 isthmus of uterine tube

输卵管膨大部 ampulla of uterine
tube

输卵管漏斗 infundibulum

输卵管采 fimbria tubae

输卵管腹腔口 abdominal ostium of uterine tube

输卵管子宫口 uterine ostium of
uterine tube

输卵管间膜 mesosalpinx

固有卵巢索 ovarian ligament

子宫圆索 round ligament of
uterus

子宫広间膜 broad ligament

黄体 corpus luteum

白体 corpus album

卵泡 ovarian follicle

●甲状腺甲状腺 thyroid

右葉 right lobe

左葉 left lobe

錐体葉 pyramidal lobe

峡部 isthmus

副甲状腺(上皮小体) parathyroid gland

舌骨 hyoid bone

甲状舌骨膜 thyrohyoid mem-
brane

甲状软骨 thyroid cartilage

气管 trachea

食道 esophagus

咽頭の後壁 posterior wall of
pharynx

●乳腺(断面)乳頭 nipple(mammary papilla)

乳輪 mammary areola

乳管 lactiferous duct

乳管洞 lactiferous sinus

乳腺葉 lobe of mammary gland

乳腺の腺房 acinus of mammary gland

乳房提靭帯(クーパー靭帯) sus-

pensory ligaments (Cooper)

脂肪組織 adipose (fatty) tissue

大胸筋 pectoralis major muscle

大胸筋膜 fascia of pectoralis

major

肋骨 rib

肋間筋 intercostal muscle

138 解剖用語

脳(矢状断面) 139

140 解剖用語

胸腹部(矢状断面) 141

142 解剖用語

腹部(水平断面) 143

144 解剖用語

気道 145

146 解剖用語

男性生殖器(断面) 147

148 解剖用語

泌尿器系器官(女性) 149

150 解剖用語

女性生殖器(断面) 151

152 解剖用語

乳腺(断面) 153

和文索引

- 欧文 APUD 細胞 39
- CCP 細胞 56
- classⅢ 35,46
- class 分類 51
- CT ガイド下穿刺吸引 75
- Davis 式 58
- DNA 39
 - 結合たんぱく 39
 - 分解酵素 23
- Ki-1 抗原 123
- Ki-1 リンパ腫 4
- MALT リンパ腫 4
- N/C 比 20
- PAS 反応 37,87,112
- PAS 陽性 34
- RNA 合成 21
- S 状結腸 141
- TNM 分類 90
- WHO 肺腫瘍組織分類 98
- X 線透視下 75
- IV型コラーゲン 33,34
 - α -アクチニン 125
 - α -フェトプロテイン 34
 - β -D-ガラクトシターゼ 43
- Ω 型分泌 12
- あアウエル小体 3
- 亜急性甲状腺炎 134
- 亜区域気管支 145
- 悪性 3,35
- 悪性血管内皮腫 103
- 悪性高血圧症 3
- 悪性黒色腫 128
- 悪性細胞 20
- 悪性腫瘍 3,26,27,41,92
- 悪性上皮性腫瘍 28

悪性上皮性新生物 28
悪性新生物 26,27
悪性線維性組織球腫 85
悪性腺腫 76
悪性組織球症 3
悪性中胚葉性混合腫瘍 31,88
悪性中皮腫 5,89,97
悪性度 7
悪性非上皮性腫瘍 97
悪性貧血 3
悪性リンパ腫 4
アクチン 125
—— フィラメント 125
アジソン病 128
アズール顆粒 5
アズール好性 3
アスベスト 5
—— 小体 5,30
アセトン 45
圧挫法 5,96
圧迫萎縮 10
アデノマトイド腫瘍 89
アポクリン化生 24
アポトーシス 5,12,22
—— 小体 6
アミノエチルカルバゾール 56
アミラーゼ消化抵抗性 104
アミロイド小体 134
アミロイド変性 117
アリア・ステラ現象 123
アルカリホスファターゼ 43,56
アルコール 45
—— 硝子体 65
—— 性肝障害 65
アルシアンブルー・パス法 100
アルデヒド 45

—— 基 112
α-フェトプロテイン 34
アンブレラ細胞 6,9
い胃 141,143
鑄型核 81
鑄形状 34
胃癌 27,38,69
異型 7,75
異型カルチノイド 26
異型細胞 6,7,91
異型性 7
異形成 7,11,18,24,35,57,74,82,
130
—— 細胞 19
—— 上皮 8
異型腺腫 7,76
異型増殖症 7
異型的再生 48
異型度 101
異型扁平上皮細胞 101
移行上皮 6,8,9
—— [型] 乳頭腫 8,9,98
—— 癌 8,9,65
—— 細胞 8
—— 内癌 8
石垣状 57
石畳(いしだたみ)状 57
異質クロマチン 40
萎縮 9,109,117
萎縮扁平上皮 124
胃主細胞 88
異種融解 59
異〔常〕角化〔症〕 25
異常増殖 7,63,67,85
異所性 10,31
—— 癌肉腫 10

—— 腫瘍 31
—— 腭組織 10
—— 脱落膜 10
—— ホルモン産生腫瘍 10,64
石綿 5,30
石綿曝露 89
胃洗浄細胞診 77
一次リソソーム 13,132
I 度潰瘍 110
異物巨細胞 84
いわゆる癌肉腫 31
陰核 150
印環型空胞 37
印環細胞 38,51,117
—— 癌 15,73
陰茎 147
陰茎海綿体 147
飲作用 16
飲小胞 13
インスリン産生腫瘍 96
陰性 29,92,101
陰性反応的中度 30,42,46
インディアンファイル状 11,53,81
咽頭後壁 152
咽頭リンパ腫 4
院内感染 110
陰嚢 147
うウイルス 50
—— 感染 56,71,91
—— 感染細胞 44
—— 封入体 112
ウェルマー症候群 76
右腎 143,149
右尿管 149
右肺 142
右葉(肝の) 143

上清 106
え栄養膜 93
会陰 150
エオジン好〔染〕性 55,78
—— 細胞 52
—— 指数 52
液化壊死 12
液状検体 14,34,107
—— 沈● 72
エクソサイトーシス 12
壊死 5,12,22,44,59,117
壊死巣 13
壊死組織 13
壊死背景 44,103
S 状結腸 141
エストロゲン 52
壊疽 12
エタノール 105
枝豆状 53
嚥飲空胞 13
遠隔転移 90
円形 19
円形細胞 11
炎症 13,20,68
炎症性壊死 13
炎症性過形成 23
炎症性細胞 97
炎症性滲出液 68
炎症性背景 102
遠心塗抹法 14,93
延髄 139
円柱状 50
円柱上皮 48,118
—— 細胞 15,132
延長形の 50
遠沈 14,21

遠沈塗抹法 111
遠沈用セル 14
エンドサイト 54
エンドサイトーシス 15
燕麦細胞型 64
燕麦細胞癌 64,81
エンペリポレーシス 82

お横隔膜 141,143
横行結腸 141,143
黄色肉芽腫 84
黄体 151
黄疸 87
横紋筋肉腫 31,97
オートクリン機構 67
オートスミア法 14
オカルト癌 16,36
オスミウム酸 43
オスミウムブラック 43
オタマジャクシ型細胞 32
オタマジャクシ状 50
オルガネラ 53
オレンジ G 好 [染] 性 25,78
かガードネレラ菌 38
カーボワックス 54
外陰潰瘍 18
開口放出 12
外子宮口 118,151
回腸 141
外尿道口 147,149,150
外胚葉 17,32,39,88
外分泌腺 17,35,100
—— 腫瘍 36
潰瘍 17,48
潰瘍性大腸炎 18
カウンターレセプター 63

過角化〔症〕 25
花冠状 135
可逆的変化 24
架橋固定 45
核 18,20,23,35,39,44,48,51,71,
130,138
核異型 80
核異常 18
—— 細胞 19
角化 25
核凝縮 22
核クロマチン 56
核形 19
核溝 19
核・細胞質比 18,20,65,91
角質 25
角質層 119
核周囲明庭 20,37,41,90
核腫大 20
核小体 18,20,40,138
—— 形成域 21
核染色 112
核相互圧排像 81
喀痰 39,54,60,67,69,70,72,80,
103,123
喀痰細胞診 29,67,101,104
喀痰融解法 21
確定診断 74
核内空胞 36
核内封入体 57,112
核濃縮 12,19,22,44
—— 指数 52
核の柵状配列 53
核の偏在 15
核破壊 22
核反応 112

核分裂指数 129
核分裂数 129
核分裂像 65
核崩壊 12,19,22,44
核膜 18,19,22,40,138
核膜孔 138
核膜肥厚 71
角膜びらん 110
核融解 12,19,22,23,44
核溶解 23
核ラミン 50
過形成 23,61,83,109
下行結腸 141
下行大動脈 141
過誤腫 23
芽出 19
下垂体 139
—— 好銀細胞 38
—— 腺腫 76
化生 24,50,61,74,130
化生癌 31
化生細胞 57,61
仮性肥大 9,109
過染 40
過染性 78
画像解析 24
家族性大腸腺腫症 76
下大静脈 143,149
過大着床部 62
角化 19,25,50,78,118
角化型 118
角化型扁平上皮癌 30,119
角化指数 52
角化症 25
角化真珠 30,118
角化物質塊 30

褐色萎縮 10
活性物質 26
滑膜肉腫 97
滑面小胞体 66,138
カテーテル尿 25
カテプシン 59
カニバリズム 82
化膿性炎症 14
カベオーレ 13
カラー画像解析 25
カリクレイン 26
顆粒膜細胞腫 20
カルシウム沈着 55
カルシトニン 39
カルチノイド 26,33,39
—— 症候群 26
カルノア液 112
癌 3,7,16,18,26,28,36,68,69,73,
75,81,85,103,118,133
がん 27
癌化 27
肝管 146
間期 21
間隙 27
還元剤 37
肝硬変 74
肝細胞 138
癌細胞 68
肝細胞癌 73,117
間質 15,27,59,60
間質結合織 38,61
間質細胞 27,86
間質細胞肉腫 27
肝実質 59
間質浸潤 65
間質肉腫 31

癌腫 27,28,31,64,65,86
感受性 28
管状 73
管状腺腫 35
癌真珠 30,82,118
癌性胸膜炎 104
癌性腹膜炎 104
間接法 43
汗腺 17
肝線維症 72
完全再生 48
感染症 20
乾燥 78
肝臓 141,143,146
乾燥固定 45,46,70
癌組織 24
含鉄小体 30
寒天セルブロック 72
感度 29
癌肉腫 31
癌発生 27
間葉系細胞 27
間葉組織 28,97
乾酪壊死 12
き偽陰性率 42
起炎刺激 14
起炎物質 14
奇怪形 19
奇怪細胞 32
偽カニバリズム 82
気管 141,145,152
気管支 145
—— 擦過細胞診 55
—— 上皮 23,39,83
—— 腺 145
—— 洗淨細胞診 77

—— 喘息 39,60
—— 中心性肉芽腫症 60
—— 軟骨 145
—— 粘液 39
—— 肺胞洗浄 77
—— ブラシ擦過法 113
気管軟骨 145
気管分岐部 141,145
菊座 135
奇形腫 32
偽篩状 114
基質 27,28,125
器質化 61,97
記述的診断 115
奇静脈 142
偽〔性〕柵状配列 53
偽足 84
奇胎後 hCG 存続症 62
偽脱落膜様変化 86
基底細胞 119,130
—— 増殖 61
基底小体 80
基底層 33
基底膜 9,33,68
气道 144
機能亢進 36
機能性腺腫 76
偽びらん 110
ギムザ希积液 33
ギムザ染色 3,5,33,45,70
木目込み細工様配列 34
逆位 78
キャノンボール〔状〕 34
吸引器具 75
吸飲小胞 132
吸引物 70

休止期 129
休止細胞 129
球狀細胞集塊 51,124
球狀硝子體 34
急性乾燥 34
橋 139
境界惡性群 35
境界病變 35
胸腔 142,143
凝固壞死 12
凝固沈殿固定 45
胸骨 141,142
胸骨柄 141
胸水 75,85
疑陽性 29,46,101
偽陽性率 46
胸腺 141
胸椎 141,142
胸部 142
峽部(甲狀腺) 152
胸腹部 140
胸膜中皮腫 89
胸膜肥厚斑 89
鏡面像 35,123,131
局所浸潤 68
極性 65
棘突起 141
棘融解細胞 90
虛血 12
巨細胞癌 86
巨大化 19
巨大濾胞增殖 23
偽ロゼット 135
銀還元細胞 38
銀還元性 38
—— 染色 38

菌交代現象 110
均衡電解質溶液 25
筋細胞 13
筋上皮細胞 35,97,98
銀親和性顆粒 37
銀親和性細胞腫 26
銀親和性反応 38
筋組織 28,84,88
筋肉収縮系 50
銀メッキ反応 37
く区域気管支 145
空腸 141,146
空洞化 42
空洞細胞化 42
クーパー靱帯 153
偶発癌 36
空胞 19,36,122
空胞変性 117
鎖状 30
クッパー星細胞 87
クモ状 50
クモ膜 139
—— 下腔 139
—— 顆粒 139
クラス 51
class分類 51
classIII 35,46
グラム陰性桿菌 38
クララ細胞 37
グリコーゲン顆粒 138
クリステ 126
グリメリウス染色 37,39
クルー細胞 38
クルケンベルグ腫瘍 38
グルコースオキシダーゼ 43
クルシュマンらせん体 39

グルタールアルデヒド 45
クルチツキー細胞 26,39,64
グロブリン凝縮塊 59
クロマチン 18,26,39,40,49,78,
138
—— 構造 40
—— パターン 40
—— 分布 40,67
—— 量 40
クロム親和性細胞 26
クロモソーム 78
け経気管支穿刺吸引細胞診 75
蛍光画像解析 25
蛍光染色 114
形成異常 7
形成不全 9
形態情報 24
頸椎 141
軽度 SIL 58
軽度異型 8
軽度異形成 7,8,57,116
軽度扁平上皮内病変 120
珪肺 5
経皮的肺穿刺吸引法 75
頸部外反 110
血液幹細胞 84
血液標本 34
結核 84,131
結核症 93
結核性病巣 133
血管周囲偽ロゼット 135
血管周皮細胞 28
血管内皮細胞 13
血管肉腫 103
血管壁透過性 68
月経性脱落膜 86

結合織性粘液 99,100
血行性転移 92
結合〔組〕織 88,106
血漿トロンビンセルブロック 72
血性液状検体 106
血性背景 102
結節型非ホジキンリンパ腫 4
欠損 78
欠損組織 47
血鉄素 116
ケラチノサイト 90
ケラチン 41,50
ケラトヒアリン顆粒 119
ケロイド 107
原核細胞 49
検査 28
原始外胚葉 17
原始内胚葉 95
検定 28
原発腫瘍 90
原発巣 16,41,68,69,92
原発不明臨床癌 16
ココイロサイト 41
コイロサイトーシス 20,41
誤陰性 29
—— 率 29,42,46
抗 S-100 たんぱく抗体 36
抗アクチン抗体 36
高エストロゲン状態 122
好塩基性 22,59,78
—— 色素 22
高円柱状細胞 53
岬角 141
膠芽腫 53
硬癌 11,51,81
好銀性 21,37

—— 顆粒 39
膠原線維 72,106
抗原提示 84,94
好酸球性間質性肺炎 60
好酸球性肉芽腫 101
好酸球增多 60
好酸球破壞 60
好酸指數 52
好酸性 34,78
—— 核小體 131
仔牛血清 108
甲状舌骨膜 152
甲状腺 141,152
—— 癌 76,117
—— 峽部 152
—— C 細胞 38
—— 髓樣癌 117
—— 乳頭癌 71,117
—— 濾胞腺腫 76
甲状軟骨 145,152
硬性 73
抗生物質感受性 30
構造異型 7,113
酵素原顆粒 88
酵素抗体 43
—— 法 43,56
硬組織 28
酵素前驅體 88
酵素組織化學染色 43
酵素標識 43
好中球 19
高度異型 8
—— 扁平上皮化生 73
高度異形成 7,52,57,73
喉頭 145
喉頭蓋 145

高度扁平上皮内病変 120
コウドリ A 型封入体 112
コウドリ封入体 112
後腹膜腔 141,143
高分化〔型〕 73,114
—— 子宮内膜型腺癌 113
—— 腺癌 53,73
—— 扁平上皮癌 119
高分子ケラチン 25
合胞状 44,60
合胞性トロホブラスト 44,94
硬膜 139
肛門 141,150
ゴースト細胞 44
コーティング固定液 45
コーティング法 44
—— 固定 45
コーヒー豆状 20
国際対がん連合 90
黒色腫 117
骨化生 24
骨細胞 28
骨髄性アズール顆粒 5
骨髄性白血病 3
骨肉腫 31
骨盤臓器（女性） 150
固定 45,70,93,112
固定液 45
固定むら 21
ゴム腫 63
固有卵巣索 151
誤陽性 29,35,46
—— 率 29,43,46
孤立散在性 47
孤立性 47
ゴルジ空胞 47

ゴルジ小胞 47
ゴルジ装置 47,53,95,132,138
ゴルジ層板 47
ゴルジ体 47
ゴルジ複合体 47
コルポスコピー 55
コロイド変性 117
混合腫瘍 31
混濁腫脹 117
コンタミネーション 45
さ臍 141
細顆粒状 40,71
細気管支 23,37
細気管支上皮 37
細菌性心内膜炎 14
細絨毛 108
再生 47,61,97,107,130
再生過程 48
再生肝 48
再生結節 48
再生細胞 48
再生子宮内膜 48
再生上皮細胞 48
再生性ポリープ 48
再生力 48
サイトカイン 13,63,67,84
サイトケラチン 41,111
サイトスピン・オートスミア法 14
サイトメガロウイルス 56,110
細胞 19,24,48,50,84
—— の構造 138
細胞異型 7,8
細胞外情報 63
細胞回転 129
細胞外物質 28
細胞間橋 49,90,118

細胞環境 102
細胞間接着装置 91
細胞形 50
細胞形態 18
細胞骨格 41,50,125
—— たんぱく 41
細胞採取 54
細胞死 19,22
細胞質 18,20,48,51,53,66,130,
138
—— 内顆粒 34
—— 内空胞 36
—— 内細線維 138
—— 内小腺腔 51
—— 内封入体 19,59
—— 連続性 49
細胞自滅 6
細胞集塊 51,60,79
細胞収集法 14
細胞診 7,49,105,115
—— クラス分類(日母) 51
—— 検体 72
—— 子宮癌検診 105
—— 指数 52
細胞性トロホブラスト 94
細胞接着分子 63
細胞増殖 81
—— 解析 114
—— 力 129
細胞増生 50
細胞突出 12
細胞塗抹標本 45
細胞貪食 82
細胞内小器官 51,53
細胞内輸送 50
細胞配列 53

細胞表面膜 55
細胞分裂 5
細胞変性 21
細胞膜 12,138
細網細胞 28
細網状 40
杯細胞 145
—— 増生 83
作業性肥大 109
索状 26,53,73
柵状 53
柵状配列 11,53
サコマノ液 54
サコマノ法 21,22,54
左腎 143
錯角化〔症〕 25
擦過スメア 55
擦過法 54
刷子縁 55,108
雑種 98
左肺 142
左葉(肝の) 143
砂粒小体 55,117
砂粒体 55
サルコイドーシス 59,131
サルコイド結節 134
散在性 47
三重癌 27
酸ホスファターゼ 43,132
シジアミノベンチジン 43,56
—— 反応 56
シアロ粘液 100
シアロムチン 100
CCP 細胞 56
シート状 57
ジェーナス縁 126

耳下腺細胞 88
脂褐素 66
自家融解 59
—— 水体 132
敷石状 57,119
—— 配列 57
色素細胞 127
色素性乾皮症 74
色素変性 117
子宮 141,150
子宮萎縮 10
子宮円索 150,151
子宮外妊娠 10
子宮癌肉腫 31
子宮頸 151
子宮頸管 151
—— 内擦過スメア 55
子宮頸癌 76,79
子宮頸部 120
—— 異形成 8
—— 異型病変 82
—— 修復細胞 61
—— 小細胞癌 64
—— 上皮内癌 53
—— 上皮内新生物 57
—— 上皮内病変 57
—— ・腔細胞診 115
—— 扁平上皮病変 7
子宮腔 151
子宮広間膜 151
四丘体 139
子宮体癌 79
子宮体部 151
子宮腔部びらん 110
子宮底 151
子宮内膜 31

—— 異型増殖症 35
—— 癌 69
—— 間質細胞 28
—— 修復細胞 61
—— 腺癌 122
—— 増殖症 23,83,122
—— ブラシ擦過法 113
—— ポリープ 122
子宮復古 9
自己採取スミア 58
自己採取法 58
自己消化 59
仕事肥大 109
自己複製 48
死後変化 45
自己免疫性甲状腺炎 14
自己免疫性疾患 90
自己融解 50,59,130
支持組織 59,84
支質 27
篩状 113
視床間橋 139
篩状構造 114
指状突起 49
自然尿 104
室間孔 139
湿固定 44,45,46,105
実質 27,28,59,60
実質細胞 59
シッフ試薬 112
シッフ反応 112
シップル症候群 76
自動遠心塗抹法 14
自動細胞収集装置法 14
脂肪壊死 12
脂肪細胞 28

脂肪腫 117
脂肪組織 9,84,153
脂肪滴 138
脂肪肉腫 31,117
脂肪変性 117
シャウマン小体 59
弱毒菌 110
射精管 147
シャルコー・ライデン結晶 60
充実結節状胞巣 26
充実性 60,73
—— 奇形腫 32
—— 集塊 60
—— 腫瘍 60
収縮性細糸 35
舟状細胞 119
重積性 60
—— 細胞集塊 51
重層 82
重層扁平上皮 25,49,82,118
—— 細胞 119
—— 組織 119
重度喫煙者 83
十二指腸 141,143,146
修復 48,61,72,130
重複 78
重複鑄型核 81
修復細胞 61
終末細気管支 39,145
絨毛 62
絨毛癌 44,62
絨毛上皮腫 62
絨毛性疾患 62
絨毛性腫瘍 62
絨毛腺腫 76
主気管支 142,145

数珠状 11,53,134
受精 93
受精卵 17
腫脹 63
出現症 117
授乳乳腺 9
腫瘍 3,60,62,67,73,100,114,133
腫瘍壊死 13
腫瘍化 19,50
受容器 63
腫瘍細胞 21,26,27,60,117
腫瘍実質 59
腫瘍集塊 63
腫瘍性増殖 67
腫瘍性背景 102
腫瘍組織 85
受容体 63,67
—— 病 63
腫瘍被膜 68
腫瘍胞巢 38
腫瘤 23,63,74
シュワン細胞 28,97
小陰唇 149,150
漿液性乳頭状腺癌 99
漿液性嚢胞性腫瘍 101
小窩 13
消化管好銀細胞 38
消化試験抵抗性 34
消化性潰瘍 17,110
松果体 139
小器官 49
小胸筋 142
上行結腸 141
上行大動脈 141
常在菌 110
小細胞癌 11,39,64,119

小細胞性未分化癌 64
硝酸銀液 37
硝子化 64
硝子質 64
上矢狀靜脈洞 139
硝子滴變性 117
硝子變性 64,65,117
小十二指腸乳頭 146
小腎杯 149
常染色體 78
床脫落膜 86
上腸間膜靜脈 146
上腸間膜動脈 146
小腦 139
小腦延髓槽 139
上皮異形成 8
上皮細胞 8,15,35,39,41,61
上皮小體 152
上皮性 27
—— 惡性腫瘤 27
—— 巨細胞 44
—— 細胞 113
—— 中皮腫 124
—— 粘液 99,100
上皮組織 84
上皮內癌 11,52,57,65,82,116
上皮內新生物 58
上皮內腺癌 65,73
小胞體 53,66,132
情報傳達物質 63
靜脈洞交會 139
小網 141
消耗色素 66
消耗性疾患 66
小葉癌 51,81
初期浸潤 68

初期胚 17,88
食菌作用 94
食作用 94
食道 141,142,152
食道・胃境界 118
食道癌肉腫 31
食道擦過細胞診 55
食道肉腫 97
食道ブラシ擦過法 113
女性生殖器 151
所属リンパ節転移 91
自律性増殖 67
糸粒体 125,138
腎 25
塵埃細胞 67
真陰性 29,71
腎盂 25
腎盂カテーテル法 26
心外膜 142
真核細胞 18,49,129
腎形 19
神経外胚葉 17
神経芽腫 53,135
神経膠細胞 28
神経膠組織 33
神経膠播種 33
神経周膜細胞 97
神経鞘腫 53
新形成 63,67
神経性萎縮 10
神経組織 28,84
神経堤 39
神経内分泌顆粒 12,95
神経内分泌細胞 26,39
神経分泌顆粒 64
神経稜 39

進行的パパニコロウ染色 105

腎細胞癌 73

心室 142

浸漬法 44

侵襲 68

真珠形式 30

滲出 13

滲出液 68,85

浸潤 68,117,133

浸潤癌 52,58,102

浸潤性小葉癌 11

浸潤性増殖 27

浸潤性乳頭腺管癌 113

腎静脈 149

腎錐体 149

新生 47

真正クロマチン 40

新生物 62,67

真正ロゼット 135

心臓 141,142

心臓障害 69

心臓転位 10

深達度 69

診断精度 42,46

腎柱 149

腎転位 10

腎動脈 149

腎乳頭 149

腎尿細管上皮 55

腎盤 149

真皮 17

心不全細胞 69

心房 142

心膜 142

心膜腔 141,142

真陽性 29,71

す髄液 14,75
水解小体 132
膵外分泌細胞 88
髄芽腫 135
膵管 143,146
膵癌 38
髄質 149
水腫変性 117
スイスチーズ様増殖症 23
水性背景 103
膵臓 141,143,146
錐体葉 152
髄膜腫 117
髄様 60,73
水溶性ポリマー 45
膵ランゲルハンス島 38
数的萎縮 9
頭蓋骨幹形成異常 7
スクリーニング検査 42,46
スタンプ法 96
ステロイドホルモン 63
ストレプトアビジンビオチンペルオキシダーゼ法 128
スプレー固定 44
すり合わせ塗抹 21
すり合わせ法 70
すりガラス状 40
—— 核 71
スルフォムチン 100
せ精管 147
精管膨大部 147
生検材料 5
成熟 71,78
成熟型 32
成熟奇形腫 33,71
成熟細胞 24
成熟指数 52,71

成熟嚢胞性奇形腫 32
星状細胞腫 135
星状小体 59
生殖器 147,151
生食水 25,77
正所性 10
正診率 71
性染色体 78
精巢 147
精巢上体 147
——管 147
声帯 145
正中臍索 147,149
精囊 147
西洋わさびペルオキシダーゼ 43,
56
生理的萎縮 9
生理的再生 47
脊索腫 111,122
脊髓 142,143
脊柱管 142
脊柱起立筋 143
石灰化 55
舌骨 145,152
接着小帯 92
接着斑 91
接着複合体 92
セミデスモソーム 92
セルブロック法 72
セロトニン 26,39
線維 28
線維化 72,106
線維芽細胞 28,72,96
線維型細胞 32
腺異形成 8
線維脂肪組織 23

線維症 72
線維状 50
線維性骨異形成 7
線維性骨形成異常 7
線維性リン脂質たんぱく 65
線維腺腫 80
線維素変性 117
線維被膜 149
腺癌 32,60,73,74,79
前肝硬変症 72
腺癌細胞 37,51,57,124,135
腺管腺腫 76
前癌病変 7,35,73,75
腺棘癌 74
腺棘細胞癌 24,74
腺腔 79
腺腔形成 73
腺型細胞 60
前交連 139
仙骨 141,150
潜在癌 16,131
腺細胞 37,49
穿刺器具 75
穿刺吸引細胞診 74
穿刺吸引材料 34,70
穿刺吸引物 5,72
穿刺吸引法 75
穿刺細胞診 124
腺腫 75
前縦隔 142
腺腫-癌腫相関 76
腺腫症 76
腺腫性ポリープ 75
腺腫内癌 76
腺腫様甲状腺腫 33,76
腺腫様ポリープ 76

洗淨液 77
洗淨迅速細胞診 77
線状配列 11
腺上皮 57,75,130
—— 細胞 15,97
洗淨法 25,77
染色質 18,22,39
—— 塊 22
—— 融解 23
染色性 23,45,50,78
染色体 21,78,98,129
—— 異常 78
—— 画像解析 25
—— 分析 78
染色不同性 78
全身死 12
腺侵襲 65
腺組織 17,73,95
腺表皮癌 79
潜伏癌 16,131
腺扁平上皮癌 79
腺房 153
腺房状 26,60,73,79
線毛 15,56,80,121
線毛運動 80
線毛円柱上皮 56,80,145
—— 細胞 15,80
線毛上皮細胞 80
腺様構造 26
前立腺 147
—— 細胞 122
—— 中分化腺癌 113
—— マッサージ 122
そ層化 82
総肝管 146
総肝動脈 146

早期扁平上皮癌 101
双極裸核 80
層形成 65,82,118
相互圧排像 34,81
層構造 82
相互封入像 82
桑実状 126
創傷治癒 72
増殖 67,83,85,86
増殖因子 67
増殖細胞 129
増殖〔症〕 23,83
増殖性の指標 21
増生 38,72,83,109,130
総胆管 146
総腸骨動脈 149
粗顆粒状 40
側方浸潤 65
組織 24,84
組織液 84
組織型 84
組織球 19,67,84,85
組織球症 X 101
組織球性巨細胞 44
組織欠損 17,84,110
組織構築像 5
組織修復 61,106
組織診 7
粗大顆粒状クロマチン分布 65
粗面小胞体 37,47,66,95,132,138
粗網状 40
—— クロマチン 131
存続絨毛症 62
た第1抗体 43
第1次呼吸細気管支 145
第1次扁平円柱上皮接合部 118

大陰唇 150
大胸筋 142,153
—— 膜 153
体腔液 85
体腔被覆上皮 44
退形成 85
退行性病変 117
退行的パパニコロウ染色 105
退行変性 36,64
体細胞 78
大細胞癌 86
第三脳室 139
—— 脈絡叢 139
胎児型成熟嚢胞性奇形腫 33
大十二指腸乳頭 146
退縮 9
代償性肥大 109
大食細胞 84,94
大腎杯 149
耐性菌感染 110
大腸腺腫症 76
大腸メラノーシス 128
大動脈 142
タイト結合 92
第2抗体 43
第2次呼吸細気管支 145
第2次扁平円柱上皮接合部 118
大脳 139
大網 141
第四脳室 139
—— 脈絡叢 139
唾液腺 17
橢円形 19
多核化現象 81
多核巨細胞 44,59,84,131
ダグラス窩 150

多形性腺腫 76
多孔性膜構造 18
たこ壺 13
多細胞生物 49
多染性 78
多空胞型空胞 37
脱分化 115
脱落膜細胞 86
脱落膜腫 86
多嚢胞性腫瘍 101
多倍体 98
多発性内分泌腺腫症 76
多房性腫瘍 101
多胞体 132
タマネギ状 30
多面体の 50
多稜型 9
多稜形の 50
多列円柱上皮細胞 15
痰 21
単球 84
単球性白血病 3
担空胞細胞 111
単細胞生物 49
胆汁円柱 87
胆汁色素 87
単純萎縮 9
単純外分泌腺 17
単純型子宮内膜増殖症 83
単純肥大 109
単純ヘルペス感染細胞 81
探触子 75
男性生殖器 147
淡染 40
淡染性 78
単層扁平上皮 88

—— 細胞 119
胆道 146
胆嚢 143,146
胆嚢管 146
胆嚢癌 38
たんぱく小滴 103
たんぱく線維 50
たんぱく分解酵素 21,25
たんぱく融解酵素入緩衝液 77
短腕 78
ち蓄痰粘液融解法 21
恥骨結合 141,147,150
腔 141,150,151
腔円蓋 150,151
腔口 150
腔スメア 52
腔分泌液 103
—— 細胞診 104
腔壁擦過スメア 55
腔扁平上皮 52
チトクロムオキシダーゼ 126
チモーゲン顆粒 88
着床部絨毛性腫瘍 62
中間型トロホプラスト 62,94
中間径フィラメント 41,50
中間細胞型 64
中心管 139
中心子 138
中層細胞 119
虫垂 141
中等度異型 8
中等度異形成 7,57,116
中脳水道 139
中胚葉 28,32,88
中皮 88,119
中皮細胞 44,89

—— 集塊 124
中皮腫 89,127
中分化〔型〕 73,114
チュブリン 50
超音波ガイド下穿刺吸引 75
腸癌 76
腸管上皮 39
腸間膜 141
—— 根 141
腸絨毛 108
腸上皮 55
—— 化生 24,74
長腕 78
直静脈洞 139
直接浸潤 69
直接塗抹法 22
直接法 43
直腸 141,150
直腸子宮窩 141,150
沈着 117
つツァンク細胞 90
対細胞 81,82
ツモーレット 39
て低悪性群 35
TNM分類 90
低形成 9
ディッピング法 44
低分化〔型〕 73,114
—— 腺癌 47,86
—— 肉腫 47
—— 粘液性腺癌 38
—— 扁平上皮癌 86
デカンテーション 106
デコイ 91
—— 細胞 91
デスミン 50

デスモソーム 49,91,138
—— 結合 92
鉄垂鈴形 30
鉄たんぱく複合体 30
鉄反応陽性 116
テニスラケット様形態 101
転移 68,92,133
転移性腫瘍 38
転移性石灰化 92
転移性増殖 27
転移性肺癌 92
転移巣 16,41
転移能 3
転座 78
天神式 58
でんぶん様小体 134
天疱瘡 90
とトゥートン型巨細胞 84
導管 95
導管上皮細胞 80
糖原変性 117
同所性 10,31
—— 腫瘍 31
透明中隔 139
鍍銀反応 37
特異抗体 43
特異性 92
—— 炎 92,93
特異度 93
塗抹 21,33
塗抹操作 14
塗抹標本 5,44,70
塗抹法 93
トリコモナス膣炎 34
鳥の目型細胞 32
トルーカット針 75

トロホブラスト 62,93
トロポミオシン 125
貪食 16,66,84,94
貪食空胞 13
貪食細胞 84
貪食作用 94
な内子宮口 151
内視鏡 55
内生色素 116
内尿道口 147,149
内胚葉 17,32,39,88,94
—— 洞腫瘍 95
内反性乳頭腫 98
内皮 89
内皮細胞 119
内分泌顆粒 95
内分泌腫瘍細胞 38
内分泌性萎縮 10
内分泌性肥大 109
内分泌腺 95
—— 腫 76
捺印法 5,96
繩状 53
軟骨細胞 28
軟骨腫性過誤腫 23
軟部組織 28
軟部肉腫 97
に2核 41
肉芽 96
肉芽腫 97
肉芽腫性炎 93,97,125
肉芽腫性病変 133
肉芽組織 61,72,96
肉腫 27,31,97
二次リソソーム 132
偽カニバリズム 82

二相型中皮腫 89
二層性 97
二相性 97
日母分類 51
日光性角化症 74
二倍体 98
乳管 153
乳癌 38,81,117
乳管拡張症 122
乳管洞 153
乳管内乳頭腫 98
乳腺 17,153
乳腺症 98
乳腺浸潤性小葉癌 53
乳腺葉 153
乳頭 153
乳頭癌 20,99
乳頭腫 98
—— 症 98
乳頭状 60,73,99
—— 移行上皮癌 8
—— 構造 99
—— [細胞] 集塊 51,99
—— 腺癌 55,73,99
乳頭腺管癌 99
ニューフクシン 56
乳房外パジェット病 104
乳房提靱帯 153
ニューモシスチス・カリニ 110
乳輪 153
尿管 147,150
尿管カテーテル 25
—— 法 25
尿管口 147,149
尿管膀胱鏡 25
尿細胞診 104

尿道 147,149,150
尿道海綿体 147
尿道球腺 147
尿路 25
尿路粘膜 6,8
妊娠 86,119,122
妊娠性褐色症 127
妊娠性絨毛 93
ぬヌクレポアフィルター法 111
ねネグリ小体 112
粘液 21,73,99
粘液癌 73
粘液空胞 37
粘液形成型 86
粘液細胞 99
粘液産生 73
粘液腫 100
粘液性腺癌 99
粘液性嚢胞性腫瘍 101
粘液性嚢胞腺癌 73
粘液性嚢胞腺腫 76
粘液腺 99
粘液染色 100
粘液背景 102
粘液非形成型 86
粘液変性 99,117
念珠状 11,134
粘表皮癌 79
粘膜 17
粘膜下腫瘍 26
粘膜筋板 17
の脳 139
脳回状 19
脳弓体 139
脳室上衣腫 135
濃縮核 40,52

濃染核 65
濃染性 78
嚢胞性 100
—— 奇形腫 32
—— 乳腺炎 122
—— 病変 84
嚢胞内乳頭腫 98
脳梁 139
はバーベック顆粒 101
肺うっ血 69
胚芽層 88
肺癌 5,39
肺癌検診 29,54,101
—— 細胞診分類 101
肺癌組織型分類 86
肺胸膜 142
背景 102
胚結節 17
杯細胞 15,19,145
—— 増生 83
肺細胞診 46
肺腫瘍 63
肺小細胞癌 34,53,64,81
肺硝子膜症 65
倍数体 98
肺動脈 142
梅毒 93
肺ヘモジデリン症 116
バイベル・パレード顆粒 103
バイベル・パレード小体 103
肺胞管 145
胚胞腔 17
肺胞内出血 69
肺胞嚢 145
肺胞マクロファージ 67
肺葉気管支 145

廃用性萎縮 10
白体 151
剥離細胞 54
剥離細胞診 55,74,75,84,103
パジェット細胞 104
パジェット病 104
播種 104
播種性血管内凝固症候群 104
播種性転移 104
PAS 反応 87,112
発育 83
発育不全 9
白血球 34,59
白血病/リンパ腫細胞のマーカー解析 114
発生 17,114
発生異常 23
パップ染色 105
パパニコロウ 18,56,105
—— 検査 106
—— 原法 105
—— 染色 21,30,45,54,70,105,
106
—— 分類 29,51,105,115
バフィーコート 106
針穿刺 74
半月形 19
癒痕 106
癒痕形成 61
癒痕〔性〕狭窄 107
癒痕〔性〕拘縮 107
繁殖 83
ハンド・シェルラー・クリスチャン病 101
パンピング 25,77
ひ非悪性疾患 36
ヒアリン化 64
ヒアルロン酸 89,100

被蓋細胞 6
非角化型 118
—— 扁平上皮癌 119
非角化小細胞型扁平上皮癌 64
光アレルギー感受性 30
引きガラス法 93,96,107
微細飲小胞 13
微細顆粒状 71
微細線維 125
皮脂腺 17
皮質 149
微絨毛 15,37,51,55,108,138
非腫瘍性病変 133
微小管 50,80
微小癌 36
微小絨毛 108
微小浸潤 68
—— 癌 52,68
非上皮細胞 27
非上皮性 27
非上皮組織 28
非浸潤癌 65,133
非浸潤性上皮異常 120
非浸潤性乳管癌 113
非浸潤性扁平上皮癌 65
ヒスタミン 26
ヒストン 39
—— コア 39
脾臓 143,146
肥大 109
非特異性炎 93
ヒトパピローマウイルス 20,115
—— 感染 41
泌尿器系器官(女性) 148
非病原性微生物 109
非標識酵素抗体法 43

皮膚 17
被覆円柱上皮細胞 15
被包脱落膜 86
非ホジキンリンパ腫 4
被膜浸潤 68
びまん型非ホジキンリンパ腫 4
びまん性 109
—— 浸潤 109
ビメンチン 50
標識抗原 128
標識抗体 128
病巣 74,75
表層細胞 119
病的再生 47
皮様嚢胞腫 32
表皮 25
表皮化生 24,25
標本作製 21
標本背景 102
病理組織型 124
日和見感染 109
びらん 17,48,110
—— 性胃炎 110
ビリフスチン 87
ビリプラシン 87
ビリベルジン 87
ビリルビン 87
非臨床癌 16,131
ふファゴソーム 13,132
ファストレッド 56
ブアン液 72
ファンギーソン染色 87
フィサリフォラス細胞 111,122
フィブロネクチン 33
フィルター法 111
風船細胞 41

封入細胞 81
封入体 111
—— 性結膜炎 112
フォイルゲン染色 112
フォイルゲン反応 112
フォンタナ・マッソン染色 38
不完全再生 48
不均等分布 40
腹腔 141,143
腹腔内播種 104
複合外分泌腺 17
副甲状腺 152
複雑型子宮内膜増殖症 83
副腎髓質 149
副腎皮質 149
—— 過形成 23
腹水 75,85
副睪管 146
腹部 143
腹部大動脈 143,149
腹膜 141,143,147,150
腹膜後隙 141
腹膜神経膠腫症 33
フクロウの目 123
不顕性癌 131
婦人科癌検診 58
婦人科検診 55
婦人科細胞診 61,119
不整型空胞 37
ブラシ 54
—— 法 113
—— ボーダー 55
フランゼン型前立腺陰圧吸引器 75
篩状 113
篩状構造 114
ブレンダー 21

ブレンナー腫瘍 20
フローサイトメトリー 114
プログラムされた細胞死 5
プログレッション 115
プロラクチン産生腫瘍 96
分化 71,114
分化型扁平上皮癌 32
分泌顆粒 12,26,37,88
分泌腺 15
分葉化 19
分葉状 19
分類不能癌 86
へ平滑筋 23,145
—— 腫 53
—— 腫性過誤腫 23
—— 肉腫 31
閉塞性肺疾患 39
平面的 57
—— シート状 61
—— 配列 57,115
壁側胸膜 142
ベストのカルミン法 100
ベセスダシステム 58,115,120
ヘテロリソソーム 13
蛇型細胞 32
蛇状 50
ヘマトキシリン 22
—— ・エオジン染色 45
—— 液 105
—— 好性 55
—— 好染 59
ヘモクロマトーシス 116
ヘモジデリン 69,116
—— 含有マクロファージ 69,85
ヘモジデローシス 116
ヘラ 54

ペルオキシダーゼ抗ペルオキシダーゼ法 128

ペルオキシダーゼ反応 3

ヘルペス 56

—— ウイルス感染 40

変性 20,39,44,50,59,71,78,116

変性空胞 37

変性細胞 117

扁平円柱上皮境界 117

扁平円柱上皮接合部 117

扁平型 9

扁平上皮 20,118

—— 化生 20,24,74,119

—— [型]乳頭腫 98,120

—— 癌 25,32,49,79,118,120

—— 癌を伴った腺癌 79

—— 細胞 30,38,41,48,49,119

—— 内病変 116,120

—— 病変 7

鞭毛 121

鞭毛運動 121

鞭毛虫 121

ほボウエン病 65

蜂窩状 57,121

傍基底細胞 119

膀胱 141,147,149,150

膀胱三角 149

膀胱子宮窩 141,150

膀胱尖 147,149

膀胱洗淨細胞診 77

膀胱体 149

膀胱底 149

放射線 50

—— 照射 32,78

—— 照射後 44

—— 線維症 72

胞状奇胎 62
胞状胚 17
紡錘形 19,50
紡錘細胞化生を伴う癌 31
蜂巣型空胞 36
蜂巣状 57,121
—— 配列 121
胞体 51
膨張性増殖 83
泡沫細胞 111,122
泡沫状 122
—— マクロファージ 85
ホーマー・ライト型偽ロゼット
135
ボール状 60
墨汁状 40
ホジキン細胞 122,132
ホジキン病 4,35,122,131
ポストチューブ法 123
ホブネイル 123
—— 型 124
—— 細胞 15,124
—— [状] 123
—— 配列 124
—— 変化 124
ポリLリジン 21
ポリエチレングリコール 45
ポリペプチド 64
ホルムアルデヒド 45
ホルモン 63,64,95
—— 産生腫瘍 95
—— 受容体 63
—— 前駆体 95
—— 臓器 95
—— 様物質 26
まマイクロバイオプシー [状] 124

マイクロフィラメント 125
膜受容体 63
膜小器官 66,108
膜濾過法 111
マクロファージ 30,69,84,94,116
末梢血液式塗抹法 93
末梢肺腺癌 37
マトリックス 125
マラコプラキア 125
まりも状 60,124
—— 細胞集塊 51
慢性気管支炎 39
みミオシン 50,125
ミカエリス・ガットマン小体 125
三日月形 19
右副腎 143,149
マイクロフィブリル 125
マイクロフィラメント 50,125
未熟 71
未熟型 32
未熟奇形腫 32
ミトコンドリア 37,53,125,132,138
—— DNA 126
—— 内顆粒 126
未分化〔型〕 85,114
—— 癌 85,114
—— 間葉細胞 28
ミラーボール状 60,126
ミリポアフィルター法 111
む無為性萎縮 10
無色素性黒色腫 128
無水アルコール 112
無線毛立方上皮細胞 37
ムチカルミン法 100
ムチン 99,100
無粘液立方上皮細胞 37

めメイ・ギムザ染色 34
メイ・グリュンヴァルト液 34
明細胞腫瘍 123
明細胞腺癌 73,123,127
迷入腺 10
メサングウム細胞 28
メタクロマジー法 100
メタノール固定 33
メッシュセメント 21
メラニン 127
—— 顆粒 128
—— 産生細胞 127
—— 色素 127
—— 貪食細胞 127
メラノサイト 127
メラノソーム 127
メラノフォレス 127
免疫細胞化学染色 128
免疫組織化学 43
メンブランフィルター法 111
綿棒 54
も蒙古人斑 127
毛細管ピペット 21
毛細胆管 138
盲腸 141
網嚢 141
モールドィング 81
モノアミンオキシダーゼ 126
MALT リンパ腫 4
門脈 143,146
や薬剤 30
ゆ融解壊死 12
有糸分裂 17,21,129
疣状癌 118
遊走 84
遊走化 13

遊走細胞 82
有尾型細胞 32
幽門癌 38
よヨークサック腫瘍 34
陽性 101
陽性反応的中度 30,42,46
腰椎 141,143
横山式 58
予備細胞 83,130
—— 増生 83,130
らライソソーム 132
ライディッヒ細胞 28
ライトグリーン好〔染〕性 67,78,103
裸核 108,130
裸核細胞 20
裸核状 64
ラテント癌 36,130
ラミニン 33,34
卵円形 19
卵黄囊腫瘍 34
卵管 150,151
卵管間膜 151
卵管峡部 151
卵管采 150,151
卵管子宮口 151
卵管腹腔口 151
卵管膨大部 151
卵管漏斗 151
ラングハンス〔型〕巨細胞 59,84,131
ラングハンス細胞 94
—— 性トロホブラスト 131
ランゲルハンス細胞 84,101
卵巢 150,151
卵巢甲状腺腫 33
卵巢腫瘍 32,35,38
卵巢提索 150

卵巣明細胞癌 15
卵胞 151
りリード・ステルンベルグ細胞 35,
123,131
リガンド 63
リソソーム 47,59,66,116,132,138
—— 酵素 132
立方型 9
立方上皮細胞 15,132
リボソーム 53,138
—— RNA 20
リポフスチン 66,128
—— 沈着 9
リボン状 26
流産 62
良性 35,133
良性潰瘍 133
良性腫瘍 63,98,133
良性上皮性腫瘍 75
良性腎硬化症 133
良性真珠 30
両染性 41,78
臨床進行期分類 133
臨床的絨毛癌 62
臨床的侵入奇胎 62
輪状軟骨 145
リンパ芽球 5
リンパ球サブセット 114
リンパ行性転移 92
リンパ腫 4
リンパ性白血病 3
リンパ節穿刺材料 108
る類上皮細胞 133
—— 結節 134
類上皮肉芽腫 131
涙腺 17

類でんぷん小体 134
類でんぷん変性 117
類内膜腺癌 73
類表皮化 25
類表皮癌 25,118
れレセプター 63
レットレル・ジーベ病 101
連珠状 11,53,134
連続病変 58
ろ漏出液 135
老人性萎縮 10
肋軟骨 142
濾出液 85,135
ロゼット状 26,135
ロゼット様 135
肋間筋 142,153
肋骨 142,143,153
濾胞癌 73
濾胞状 73
濾胞腺腫 33
わ腕比 78

欧文索引

- Ω type secretion Ω型分泌 12
- AABC(aspiration biopsy cytology) 穿刺吸引細胞診 74
- ABC method(avidin biotinylated peroxidase complex method) アビジンビオチンペルオキシダーゼコンプレックス法 43
- ABC(streptavidin-biotinyl-peroxidase complex method) ストレプトアビジンビオチンペルオキシダーゼコンプレックス法 128
- abdominal aorta 腹部大動脈 143,149
- abdominal ostium of uterine tube 卵管腹腔口 151
- aberrant pancreas 迷入膵 10
- acantholytic cell 棘融解細胞 90
- accessory pancreatic duct 副膵管 146
- accuracy 正診率 71
- acidophilic 好酸性 78
- acidophilic index 好酸指数 52
- acinar 腺房状 73
- acinar formation 腺房状 60,79
- acinus of mammary gland 乳腺の腺房 153
- Addison disease アジソン病 128
- adenoacanthoma 腺棘細胞癌, 腺棘癌 24,74
- adenocarcinoma 腺癌 73
- adenocarcinoma in situ 上皮内腺癌 65,73
- adenocarcinoma with foci of squamous cell carcinoma 扁平上皮癌を伴った腺癌 79
- adenoma 腺腫 75
- adenoma-carcinoma sequence 腺腫・癌腫相関 76
- adenoma malignum 悪性腺腫 76
- adenomatoid tumor アデノマトイド腫瘍 89
- adenomatosis 腺腫症 76
- adenomatosis coli 大腸腺腫症 76
- adenomatous goiter 腺腫様甲状腺腫 76
- adenomatous polyp 腺腫性ポリープ, 腺腫様ポリープ 75
- adenosquamous carcinoma 腺扁平上皮癌, 腺表皮癌 79
- adipose (fatty) tissue 脂肪組織 153
- adrenal cortical hyperplasia 副腎皮質過形成 23
- AEC(3-amino-9-ethylcarbazole) アミノエチルカルバゾール 56
- AFP(α -fetoprotein) α -フエトプロテイン 34

agar cell block 寒天セルブロック 72
agranular endoplasmic reticulum 滑面小胞体 66
air-dried smear preparation 乾燥固定 46
alcianblue-periodic acid Schiff アルシアンブルー・パス(法) 100
alcoholic hyaline アルコール硝子体 65
alkaline phosphatase アルカリホスファターゼ 56
alveolar duct 肺胞管 145
alveolar sac 肺胞嚢 145
amelanotic melanoma 無色素性黒色腫 128
amine precursor uptake and decarboxylation cell APUD 細胞 39
aminoethylcarbazole アミノエチルカルバゾール 56
amphophilia 両染性 41
amphophilic 両染性の 78
ampulla of ductus deferens 精管膨大部 147
ampulla of uterine tube 卵管膨大部 151
amyloid corpuscle 類でんぷん小体, でんぷん様小体, アミロイド小体 134
amyloid body 類でんぷん小体, でんぷん様小体, アミロイド小体 134
amyloid degeneration アミロイド変性, 類でんぷん変性 117
anaplasia 退形成 85
anaplastic 未分化(の) 85
anaplastic carcinoma 未分化癌 85,114
anisochromatic 染色不同性 78
anterior commissure 前交連 139
anterior mediastinum 前縦隔 142
antibiotic sensitivity 抗生物質感受性 30
anus 肛門 141,150
aorta 大動脈 142
AP(alkaline phosphatase) アルカリホスファターゼ 56
apex of urinary bladder 膀胱尖 147,149
apocrine metaplasia アポクリン化生 24
apoptosis アポトーシス 5,12,22
apoptotic body アポトーシス小体 6
appendix 虫垂 141
arachnoid クモ膜 139
arachnoid granulation クモ膜顆粒 139
argentaffin 銀還元性 38

argentaffinoma 銀親和性細胞腫 26
argyrophil granule 銀親和性顆粒 37
argyrophilia 好銀性 21
Arias-Stella アリア・ステラ(現象) 123
asbestos 石綿 89
asbestos body アスベスト小体 5
ascending aorta 上行大動脈 141
ascending colon 上行結腸 141
aspiration biopsy cytology 穿刺吸引細胞診 74
aspiration cytology 穿刺吸引法 75
asteroid body 星状小体 60
astrocytoma 星状細胞腫 135
atrium 心房 142
atrophy 萎縮 9
atrophy of the uterus 子宮萎縮 10
atypia 異型 7
atypical adenoma 異型腺腫 7,76
atypical carcinoid 異型カルチノイド 26
atypical cell 異型細胞 7
atypical endometrial hyperplasia 子宮内膜異型増殖症 35
atypical hyperplasia 異型増殖症 7
atypical squamous metaplasia, severe 高度異型扁平上皮化生 73
atypism 異型 7
Auer body アウエル小体 3
autodigestion 自己消化 59
autoimmune thyroiditis 自己免疫性甲状腺炎 14
autolysis 自己融解, 自家融解 59
automatic centrifugal preparation 自動遠心塗抹法 14
autonomous 自律性の 67
autonomous growth 自律性増殖 67
auto-smear method 自動細胞収集装置法, オートスミア法 14
avidin biotinylated peroxidase complex method アビジンビオチンペルオキシダーゼコンプレックス法 43
Ayre (人名) 41
azurophilic granule アズール顆粒 5
azygos vein 奇静脈 142

Bbackground 背景 102
bacterial endocarditis 細菌性心内膜炎 14
ball-like cell cluster 球状細胞集塊 51
balloon cell 風船細胞 41
bare nucleus 裸核 20,130
basal body 基底小体 80
basal cell 基底細胞 119
basement membrane 基底膜 33
basophilic 好塩基性 78
beads-like 連珠状, 数珠状, 念珠状 134
benign 良性(の) 133
benign nephrosclerosis 良性腎硬化症 133
benign tumor 良性腫瘍 63,133
benign ulcer 良性潰瘍 133
benignancy 良性 133
bifurcation of trachea 気管分岐部 141
bile canalicules (canaliculi) 毛細胆管 138
bile pigment 胆汁色素 87
bilirubin ビリルビン 87
biliverdin ビリベルジン 87
biphasic type mesothelioma 二相型中皮腫 89
Birbeck granule バーベック顆粒 101
bird eye cell 鳥の目型細胞 32
bizarre 奇怪(な) 19
bizarre cell 奇怪細胞 32
bladder irrigation smear 膀胱洗浄細胞診 77
bladder washing cytology 膀胱洗浄細胞診 77
blebbing 細胞突出 12
bloody background 血性背景 102
body fluid 体腔液 85
body of urinary bladder 膀胱体 149
borderline lesion 境界病変 35
Bouin ブアン(液) 72
Bowen disease ボウエン病 65
Brenner tumor ブレンナー腫瘍 20
broad ligament 子宮広間膜 151

bronchial brush cytology 気管支ブラシ擦過法 113
bronchial gland 気管支腺 145
bronchial scraping cytology 気管支擦過細胞診 55
bronchial washing cytology 気管支洗浄細胞診 77
bronchoalveolar lavage 気管支肺胞洗浄 77
brown atrophy 褐色萎縮 10
brush ブラシ 54
brush border 刷子縁, ブラシボーダー 55,108
brush cytology ブラシ法 113
budding 芽出 19
buffy coat バフィーコート 106
bulb 延髄 139
bulbourethral gland 尿道球腺 147
Calcitonin immunostaining カルシトニン免疫染色 129
cancer 癌 26
cancer pearl 癌真珠 30,82,118
canceration 癌化, 癌発生 27
cancerization 癌化, 癌発生 27
cannibalism カニバリズム, 鳥の目型細胞 32,82
cannon ball [-like] キャノンボール [状] 34
capsular invasion 被膜浸潤 68
carcinoid カルチノイド 26,39
carcinoid syndrome カルチノイド症候群 26
carcinoma 癌腫 27,28
carcinoma in adenoma 腺腫内癌 76
carcinoma in situ 上皮内癌 65
carcinoma with spindle cell metaplasia 紡錘細胞化生を伴う癌 31
carcinosarcoma 癌肉腫 31
carcinosarcoma, heterologous 異所性癌肉腫 10
carmine Best method ベストのカルミン法 100
cartilage of bronchus (bronchiole) 気管(気管支)軟骨 145
cartilage of rib 肋軟骨 142
caseous necrosis 乾酪壊死 12
cathepsin カテプシン 59
catheterized urine カテーテル尿 25
caveolae カベオーレ, 小窩, たこ壺 13

cavernous part 海綿体部 147
cavity 空洞 42
cavity fluid 体腔液 85
CCP(ciliocytophtholia) CCP 細胞 56
cecum (caecum) 盲腸 149
cell 細胞 48
cell ball formation 球状細胞集塊 124
cell block technique セルブロック法 72
cell cluster 細胞集塊 51
cell cycle 細胞回転 129
cell mutual inclusion 相互封入像 82
cell shape 細胞形 50
cellular atypia 細胞異型 7
cellular environment 標本背景, 細胞環境 102
central canal 中心管 139
centrifugal preparation 遠心塗抹法 14,93
centriole 中心子 138
cerebellomedullary cistern 小脳延髄槽 139
cerebellum 小脳 139
cerebral aqueduct 中脳水道 139
cerebrum 大脳 139
cervical canal 子宮頸管 151
cervical ectropion 頸部外反 110
cervical erosion 子宮腔部びらん 110
cervical intraepithelial neoplasia 子宮頸部上皮内新生物 57
cervical repair cell 子宮頸部修復細胞 61
cervix of uterus 子宮頸 151
cervical vertebra 頸椎 141
Charcot-Leyden crystal シャルコー・ライデン結晶 60
chondromatous hamartoma 軟骨腫性過誤腫 23
chordoma 脊索腫 111
choriocarcinoma 絨毛癌 62
chorioepithelioma 絨毛上皮腫 62
choroid plexus of the fourth ventricle 第四脳室脈絡叢 139
choroid plexus of the third ventricle 第三脳室脈絡叢 139
chromatin クロマチン, 染色質 18,39,49,78,138

chromatin content クロマチン量 40
chromatin distribution クロマチン分布 40
chromatin pattern クロマチンパターン 40
chromatin structure クロマチン構造 40
chromatolysis 染色質融解 23
chromosomal analysis 染色体分析 78
chromosome 染色体, クロモソーム 78
chromosome abnormality 染色体異常 78
chromosome morphometry 染色体画像解析 25
cicatrix 癒痕 106
cilia 線毛 80
ciliated columnar epithelial cell 線毛円柱上皮細胞 15,80
ciliated columnar epithelium 線毛円柱上皮 80,145
ciliated epithelial cell 線毛上皮細胞 80
ciliocytophtholia CCP細胞 56
CIN(cervical intraepithelial neoplasia) 子宮頸部上皮内新生物
57
CIS(carcinoma in situ) 上皮内癌 65
Clara cell クララ細胞 37
Clara cell specific 10kDa protein 37
classification of sputum cytology in mass surveys 肺癌検診細胞診分類 101
clear cell adenocarcinoma 明細胞腺癌 73,123
clinical stage classification 臨床進行期分類 133
clinical staging 臨床進行期分類 133
clitoris 陰核 150
cloudy swelling 混濁腫脹 117
clue cell クルー細胞 38
coagulation necrosis 凝固壊死 12
coagulative fixation 凝固沈殿固定 45
coarse granular 粗顆粒状 40
coarse reticular 粗網状 40
coating fixation コーティング法固定 45
coating fixative solution コーティング固定液 45
coating method コーティング法 44
coffee bean コーヒー豆(状) 20
colliquative necrosis 融解壊死, 液化壊死 12

colloid degeneration コロイド変性 117
color image analysis カラー画像解析 25
columnar 円柱状 50
columnar epithelial cell 円柱上皮細胞 15
common bile duct 総胆管 146
common iliac artery 総腸骨動脈 149
common hepatic artery 総肝動脈 146
compensatory hypertrophy 代償性肥大 109
complete regeneration 完全再生 48
compound exocrine gland 複合外分泌腺 17
confluence of the sinus 静脈洞交会 139
convoluted 脳回状 19
corneal erosion 角膜びらん 110
cornification index 角化指数 52
corpora amylacea 類でんぷん小体, でんぷん様小体, アミロイド小体 134
corpora quadrigemina 四丘体 139
corpus album 白体 151
corpus callosum 脳梁 139
corpus cavernosum penis 陰茎海綿体 147
corpus cavernosum urethra 尿道海綿体 147
corpus luteum 黄体 151
corpus of the fornix 脳弓体 139
corpus of uterus 子宮体部 151
cortex 皮質 149
cortex of suprarenal gland 副腎皮質 149
Corynebacterium vaginalis 腔コリネバクテリウム 38
counter receptor カウンターレセプター 63
Cowdry inclusion body コウドリ封入体 112
craniodiaphyseal dysplasia 頭蓋骨幹形成異常 7
cribriform 篩状 113
cribriform pattern 篩状構造 114
cribrous 篩状 113
cricoid cartilage 輪状軟骨 145
cristae 櫛, クリステ 126
crosslinking fixation 架橋固定 45
cuboidal epithelial cell 立方上皮細胞 15,132

Curschmann spiral クルシュマンらせん体 39
cystic 嚢胞性 100
cystic duct 胆嚢管 146
cystic teratoma 嚢胞性奇形腫 32
cytokeratin サイトケラチン 41
cytological diagnosis 細胞診 49
cytologic diagnosis 細胞診 49
cytologic indices 細胞診指数 52
cytological classification ("Nichibo") 細胞診クラス分類(日母), 日母分類 51
cytophagocytosis 細胞貪食 82
cytoplasm 細胞質, 胞体 51,138
cytoplasmic membrane 細胞膜 138
cytoplasmic vacuole 細胞質内空胞 36
cytoskeleton 細胞骨格 50
cytospin auto-smear method サイトスピン・オートスミア法 14
cytotrophoblast 細胞性トロホブラスト 94
DDAB(diaminobenzidine) ジアミノベンチジン 56
decantation デカンテーション 106
decidua basalis 床脱落膜 86
decidua capsularis 被包脱落膜 86
decidua menstrualis 月経性脱落膜 86
decidual cell 脱落膜細胞 86
deciduoma 脱落膜腫 86
Deck Zellen 被蓋細胞 6
decoy デコイ 91
decoy cell デコイ細胞 91
dedifferentiation 脱分化 115
degenerated vacuole 変性空胞 37
degeneration 変性 116
degenerative cell 変性細胞 117
deposition 沈着 117
depth of invasion 深達度 69
dermoid cyst 皮様嚢胞腫 32
descending aorta 下行大動脈 141
descending colon 下行結腸 141
desmin デスミン 50

desmosome デスモソーム 49,91,138
desmosome junction デスモソーム結合 92
diaminobenzidine reaction ジアミノベンチジン反応, DAB 反応 56
diaphragm 横隔膜 141,143
DIC (disseminated intravascular coagulation) 播種性血管内凝固症候群 104
differentiated 分化〔型〕 114
differentiation 分化 114
diffuse びまん性 109
diffuse infiltration びまん性浸潤 109
diploid 二倍体 98
dipping fixation デIPPING法, 浸漬法 44
direct method 直接法 43
disseminated intravascular coagulation 播種性血管内凝固症候群 104
dissemination 播種, 播種性転移 104
disuse atrophy 廃用性萎縮, 無偽性萎縮 10
dorsal vertebrae 胸椎 142
double layer 二層性 97
double nuclear molding 重複鋳型核 81
duct of epididymis 精巢上体管 147
ductus deferens 精管 147
duodenum 十二指腸 141,143,146
dura mata 硬膜 139
dust cell 塵埃細胞 67
dyskaryosis 核異常 18
dyskaryotic cell 核異常細胞 19
dyskeratosis 異〔常〕角化〔症〕 25
dysplasia 異形成 7,18,35
dysplasia of uterine cervix 子宮頸部異形成 8
dysplastic cell 異形成細胞 19
Early invasion 初期浸潤 68
ECJ (esophago-cardiac junction) 食道・胃境界部 118
ectoderm 外胚葉 17
ectopia 異所性 10
ectopia cordis 心臓転位〔症〕 10
ectopia renis 腎転位〔症〕 10
ectopic 異所性 10

ectopic hormone-producing tumor 異所性ホルモン産生腫瘍 10
ectopic decidua 異所性脱落膜 10
ectopic pancreas tissue 異所性膵組織 10
ectopic pregnancy 子宮外妊娠 10
ectopy 異所性 10
effusion 体腔液 85
ejeculatory duct 射精管 147
elector trunci muscle 脊柱起立筋 143
elliptical 楕円形の 19
elongated 延長形の 50
embryonic mature cystic teratoma 胎児型成熟嚢胞性奇形腫 33
emperipolexis エンペリポレーシス 82
endocervical scraping smear 子宮頸管内擦過スミア 55
endocrine atrophy 内分泌性萎縮 10
endocrine gland 内分泌腺 95
endocrine granule 内分泌顆粒 95
endocyte エンドサイト 54
endocytosis エンドサイトーシス 15
endoderm 内胚葉 94
endodermal sinus tumor 内胚葉洞腫瘍 95
endogenous pigment 内生色素 116
endometrial brush cytology 子宮内膜ブラシ擦過法 113
endometrial hyperplasia 子宮内膜増殖症 23,83
endometrial hyperplasia, simple 単純型子宮内膜増殖症 83
endometrial hyperplasia, complex 複雑型子宮内膜増殖症 83
endometrial repair cell 子宮内膜修復細胞 61
endometrial stromal cell 子宮内膜間質細胞 28
endometrioid adenocarcinoma 類内膜腺癌 73
endoplasmic reticulum 小胞体 53,66
endothelium 内皮 89
enterochromaffin cell クロム親和性細胞 26
enzyme-labeled antibody method 酵素抗体法 43
eosinophilic エオジン好〔染〕性 78
eosinophilic index エオジン好性指数 52
ependymoma 脳室上衣腫 135
epicardium 心外膜 142

epidermization 扁平上皮化生, 類表皮化, 表皮化生 24,25
epidermoid carcinoma 類表皮癌 25,118
epididymis 精巢上体 147
epiglottis 喉頭蓋 145
epithelial tissue 上皮組織 84
epithelioid cell 類上皮細胞 133
epithelioid cell tubercle 類上皮細胞結節 134
ER(endoplasmic reticulum) 小胞体 66
erosion びらん, I度潰瘍(UI-I) 17,110
erosive gastritis びらん性胃炎 110
esophageal brush cytology 食道ブラシ擦過法 113
esophageal carcinosarcoma 食道癌肉腫 31
esophageal sarcoma 食道肉腫 97
esophageal scraping cytology 食道擦過細胞診 55
esophago-cardiac junction 食道・胃境界部 118
esophagus 食道 141,142,152
etoderm 内胚葉
euchromatin 真正クロマチン 40
eukaryotic cell 真核細胞 49
exaggerated placental site 過大着床部 62
exfoliative cytology 剝離細胞診 103
exocrine gland 外分泌腺 17
exocytosis エクソサイトーシス, 開口放出 12
expansive growth 膨張性増殖 83
external os of uterus 外子宮口 151
external urethral orifice 外尿道口 147,149,150
extramammary Paget disease 乳房外パジェット病 104
exudate 滲出液 68
False negative 誤陰性 29
false negative rate 誤陰性率, 偽陰性率 42
false positive 誤陽性 29
false positive rate 誤陽性率, 偽陽性率 46
familial adenomatosis coli 家族性大腸腺腫症 76
fascia of pectoralis major 大胸筋膜 153
fast red ファストレッド 56
fat cell 脂肪細胞 28

fat necrosis 脂肪壊死 12
fatty degeneration 脂肪変性 117
fatty tissue 脂肪組織 84
FCM (flow cytometry) フローサイトメトリー 114
ferruginous body 含鉄小体 30
Feulgen reaction フォイルゲン反応 112
Feulgen reaction nuclear staining フォイルゲン染色 112
fiber-like 線維状 50
fiber type cell 線維型細胞 32
fibrinoid degeneration 線維素変性 117
fibroblast 線維芽細胞 28
fibrosarcoma ovarii mucocellulare carcinomatoides 38
fibrosis 線維化, 線維症 72
fibrosis of alveolar septum 肺泡中隔の線維化 72
fibrous capsule 線維被膜 149
fibrous dysplasia of bone 線維性骨形成異常, 線維性骨異形成 7
fimbria tubae 卵管采 150,151
fine granular 細顆粒状 40
fine needle aspiration 穿刺吸引細胞診 74
fine reticular 細網状 40
fixation 固定 45
flagella 鞭毛 121
flagellata 鞭毛虫 121
flat sheet-like シート状, 平面的 57
flow cytometry フローサイトメトリー 114
fluorescence morphometry 蛍光画像解析 25
FNA(fine needle aspiration) 穿刺吸引細胞診 74
foam cell 泡沫細胞 122
foamy 泡沫状 122
foamy cell 泡沫細胞 122
foamy macrophage 泡沫状マクロファージ 85
focus of necrosis 壊死巣 13
follicular 濾胞状 73
follicular carcinoma 濾胞癌 73
Fontana-Masson stain フォンタナ・マッソン染色 38
fornix of vagina 膺円蓋 150,151

fourth ventricle 第四脳室 139
Franzen フランゼン(型前立腺陰圧吸引器) 75
Frost (人名) 34
functioning adenoma 機能性腺腫 76
fundus of urinary bladder 膀胱底 149
fundus of uterus 子宮底 151
fusiform 紡錘形の 19
Ggallbladder 胆嚢 143,146
gangrene 壊疽 12
Gardnerella vaginalis 陰ガードネレラ 38
gastric cancer 胃癌 27
gastric washing cytology 胃洗浄細胞診 77
gastrin releasing peptide (GRP) ガストリン放出ペプチド 39
GFAP(glial fibrillary acidic protein) 50
ghost cell ゴースト細胞 44
giant follicular hyperplasia 巨大濾胞増殖 23
Giemsa stain ギムザ染色 33
gigantic 巨大化 19
glandular cell 腺細胞 49
glandular dysplasia 腺異形成 8
glandular epithelial cell 腺上皮細胞 15,97
glandular involvement 腺侵襲 65
glial fibrillary acidic protein (GFAP) 50
glial implantation 神経膠播種 33
glycogen degeneration 糖原変性 117
glycogen granule グリコーゲン顆粒 138
goblet cell 杯細胞 15,145
goblet cell hyperplasia 杯細胞増生 83
Golgi apparatus ゴルジ装置 47,53
Golgi body ゴルジ体 47,138
Golgi complex ゴルジ複合体 47
Golgi vacuole ゴルジ空胞 47
Golgi vesicle ゴルジ小胞 47
granular endoplasmic reticulum 粗面小胞体 66,138
granulation 肉芽 96
granulation tissue 肉芽組織 96

granuloma 肉芽腫 97
granulomatous inflammation 肉芽腫性炎 93
Grawitz tumor グラウィッツ腫瘍(腎細胞癌) 73
greater omentum 大網 141
Grimelius stain グリメリウス染色 37
ground glass appearance すりガラス状 40
ground-glass nucleus すりガラス状核 71
growth 発育, 繁殖 83
GRP(gastrin releasing peptide) 39
gumma ゴム腫 63
gummy tumor ゴム腫 63
Hhamartoma 過誤腫 23
Hand-Schüller-Christian disease ハンド・シェルラー・クリスチャン病 101
heart 心臓 141
heart failure cell 心不全細胞 69
hemangiopericyte 血管周皮細胞 28
hemochromatosis ヘモクロマトーシス 116
Hemophilus vaginalis 膺ヘモフィルス 38
hemosiderin ヘモジデリン, 血鉄素 116
hemosiderin-laden macrophage ヘモジデリン含有マクロファージ 69,85
hemosiderosis ヘモジデローシス 116
hepatic duct 肝管 146
hepatocellular carcinoma 肝細胞癌 73
heterochromatin 異質クロマチン 40
heterologous 異所性 10,31
heterotopia 異所性 10
high grade squamous intraepithelial lesion 高度扁平上皮内病変 120
histiocyte 組織球 67,84
histiocytosis X 組織球症 X 101
histological type 組織型 84
Histological Typing of Female Genital Tract Tumors 120
hobnail ホブネイル [状] 123
hobnail arrangement ホブネイル配列 124
hobnail cell ホブネイル細胞 15,124
hobnail change ホブネイル変化 124
hobnail pattern ホブネイル型 124

Hodgkin cell ホジキン細胞 122,132
Hodgkin disease ホジキン病 4,35,122,131
Hollende (人名) 75
homologous 同所性, 正所性 10,31
honeycomb arrangement 蜂巢状配列 121
honeycomb pattern 蜂巢状, 蜂窩状 121
Horner-Wright pseudorosette ホーマー・ライト型偽ロゼット 135
hormonal hypertrophy 内分泌性肥大 109
hormone ホルモン 95
hormone producing tumor ホルモン産生腫瘍 95
hormone receptor ホルモン受容体 63
horseradish peroxidase 西洋わさびペルオキシダーゼ 43
horseradish peroxidase-anti-horseradish peroxidase method 非標識酵素抗体法 43
hospital acquired infection 院内感染 110
HPV(human papilloma virus) ヒトパピローマウイルス 20,41,115
HRP(horseradish peroxidase) 西洋わさびペルオキシダーゼ 43,56
HSIL (high grade squamous intraepithelial lesion) 高度扁平上皮内病変 120
huge 巨大化 19
human papilloma virus ヒトパピローマウイルス 20,115,120
hyaline degeneration 硝子変性 64,65,117
hyaline droplet degeneration 硝子滴変性 117
hyaline globule 球状硝子体 34
hyaline membrane disease 肺硝子膜症 65
hyalinization 硝子化, ヒアリン化 64
hyaluronic acid ヒアルロン酸 100
hydatidiform mole 胞状奇胎 62
hydropic degeneration 水腫変性 117
hyoid bone 舌骨 145,152
hyperchromasia 過染 40
hyperchromatic 濃染性(過染性) 78
hyperkeratosis 過角化〔症〕 25
hyperplasia 過形成, 増生 23,83,130
hypertrophy 肥大 109
hypochromasia 淡染 40
hypochromatic 淡染性 78
hypoplasia 發育不全, 低形成, 形成不全 9

IICAM(intercellular adhesion molecule) 細胞接着分子 63
ileum 回腸 141
immature 未熟型, 未熟な 32,71
immature teratoma 未熟奇形腫 32
immaturity 未熟 71
immunocytochemical staining 免疫細胞化学染色 128
immunophenotype 免疫表現型 4
immunostaining 免疫細胞化学染色 128
in situ hybridization 129
incidental carcinoma 偶発癌 36
inclusion body 封入体 111
inclusion body conjunctivitis 封入体性結膜炎 112
inclusion cell 封入細胞 81
incomplete regeneration 不完全再生 48
India ink appearance 墨汁状 40
indian file-like インディアンファイル状 11,53,81
indices of hormonal cytology 細胞診指数 52
indirect method 間接法 43
inferior vena cava 下大静脈 143,149
infiltration 浸潤, 侵襲 68,117
inflammation 炎症 13
inflammatory background 炎症性背景 102
inflammatory exudate 炎症性滲出液 68
inflammatory hyperplasia 炎症性過形成 23
inflammatory necrosis 炎症性壊死 13
infundibulum 卵管漏斗 151
insulinoma インスリン産生腫瘍 96
intercellular adhesion molecule 細胞接着分子 63
intercellular bridge 細胞間橋 49,118
intercostal muscle 肋間筋 142,143,153
intermediate cell 中層細胞 119
intermediate filament 中間径フィラメント 50
intermediate trophoblast 中間型トロホブラスト 94
internal os of uterus 内子宮口 151
internal urethral orifice 内尿道口 147,149
International Histologic Classification of Tumors, No. 22 36

interphase 間期 129
interstice 間隙 27
interstitial tissue 間質組織 27
interstitium 支質 27
interthalamic adhesion 視床間橋 139
intestinal metaplasia 腸上皮化生 24
intracystic papilloma 嚢胞内乳頭腫 98
intracytoplasmic filament 細胞質内細線維 138
intracytoplasmic inclusion 細胞質内封入体 59
intracytoplasmic lumina 細胞質内小腺腔 51
intraductal papilloma 乳管内乳頭腫 98
intraepithelial carcinoma 上皮内癌 65
intranuclear inclusion 核内封入体 112
intranuclear vacuole 核内空胞 36
intraventricular foramen 室間孔 139
invasion 浸潤, 侵襲 68
inverted papilloma 内反性乳頭腫 98
involution 退縮 9
irregular distribution of chromatin クロマチン不均等分布 40
isolated 孤立性 47
isthmus of thyroid gland 甲状腺峡部 152
isthmus of uterine tube 卵管峡部 151
Jejunum 空腸 141,146
junctional complex 接着複合体 92
Karyolysis 核融解, 核溶解 19,23,44
karyopyknotic index 核濃縮指数 52
karyorrhexis 核崩壊, 核破壊 19,22,44
K-cell(Kultschitzky cell) クルチツキー細胞 39
keratin ケラチン 41,50
keratin pearl 角化真珠 30,118
keratinization 角化 25,118
keratinizing squamous cell carcinoma 角化型扁平上皮癌 119
keratinizing type 角化型 118
keratohyaline granule ケラトヒアリン顆粒 119
keratosis 角化症 25
KI(karyopyknotic index) 核濃縮指数 52

Ki-1 lymphoma Ki-1 リンパ腫 4
kidney shaped 腎形 19
koilocyte コイロサイト 41
koilocytic atypia コイロサイトーシス 41
koilocytosis コイロサイトーシス 20,41
koilocytotic atypia 42
koilos 空洞 42
Koss (人名) 41
Krukenberg tumor クルケンベルグ腫瘍 38
Kulchitzky cell クルチツキー細胞 39
Kultschitzky cell クルチツキー細胞 26,39,64
Kupfer クッパー (星細胞) 87
Llabeled-streptavidin-biotin-peroxidase method ストレプトアビジンビオチンペルオキシダーゼ法 128
labium majus 大陰唇 150
labium minus 小陰唇 149,150
lactiferous duct 乳管 153
lactiferous sinus 乳管洞 153
lamin 核ラミン 50
Langerhans cell ランゲルハンス細胞 84,101
Langhans cell ラングハンス細胞 94
Langhans cell trophoblast ラングハンス細胞性トロホプラスト 131
Langhans giant cell ラングハンス巨細胞 59,131
Langhans type giant cell ラングハンス型巨細胞 84
large cell carcinoma 大細胞癌 86
laryngeal lymphoma 咽頭リンパ腫 4
larynx 喉頭 145
latent carcinoma ラテント癌 36,130
lateral invasion 側方浸潤 65
left kidney 左腎 143
left lobe 左葉(肝) 143
left lung 左肺 142
leiomyomatous hamartoma 平滑筋腫性過誤腫 23
lesser omentum 小網 141
Letterer-Siwe disease レッテレル・ジーベ病 101
Leydig cell ライディッヒ細胞 28

ligand リガンド 63
light greenphilic ライトグリーン好〔染〕性 78
linear arrangement 線状配列 11
lipid droplet 脂肪滴 138
lipofuscin 脂褐素 66
lipofuscin pigment 消耗色素, リポフスチン 66
liver 肝臓 141,143,146
liver cell carcinoma 肝細胞癌 73
liver fibrosis 肝線維症 72
liver parenchyma 肝実質 59
lobal bronchus 肺葉気管支 145
lobe of mammary gland 乳腺葉 153
lobulated 分葉状 19
local invasion 局所浸潤 68
low grade squamous intraepithelial lesion 軽度扁平上皮内病変 120
LSAB(labeled-streptavidin-biotin-peroxidase method) ストレプトアビジンビオチンペ
ルオキシダーゼ法 128
LSIL (low grade squamous intraepithelial lesion) 軽度扁平上皮内病変 120
lumbal vertebra 腰椎 143
lymphogenous metastasis リンパ行性転移 92
lysosome リソソーム, ライソソーム, 水解小体 59,132,138
Mm 粘膜内(胃癌深達度の) 69
macrophage マクロファージ, 大食細胞 67,84
macula adherens 接着斑 91
main bronchus 主気管支 145
mainstem bronchus 主気管支 142
major calyx 大腎杯 149
major duodenal papilla 大十二指腸乳頭 146
malignancy 悪性 3
malignant 悪性(の) 3
malignant epithelial neoplasm 悪性上皮性新生物 28
malignant epithelial tumor 悪性上皮性腫瘍 28
malignant fibrous histiocytoma 悪性線維性組織球腫 85
malignant histiocytosis 悪性組織球症 3
malignant hypertension 悪性高血圧症 3
malignant lymphoma 悪性リンパ腫 4

malignant lymphoma of the bone 骨の悪性リンパ腫 4
malignant melanoma 悪性黒色腫 128
malignant mesothelioma 悪性中皮腫 89
malignant mixed mesodermal tumor 悪性中胚葉性混合腫瘍 31,88
malignant neoplasm 悪性新生物 26
malignant non-epithelial tumor 悪性非上皮性腫瘍 97
malignant tumor 悪性腫瘍 3,26
Mallory hyaline アルコール硝子体 65
mammary areola 乳輪 153
mammary papilla 乳頭 153
maturation 成熟 71
maturation index 成熟指数 52,71
mature 成熟型, 成熟(した) 32,71
mature cystic teratoma 成熟嚢胞性奇形腫 32
mature teratoma 成熟奇形腫 33,71
maturity 成熟 71
May-Giemsa stain メイ・ギムザ染色 34
May-Grunwald メイ・グリュンヴァルト(液) 34
MEA(multiple endocrine adenomatosis) 多発性内分泌腺腫症
76
median umbilical ligament 正中臍索 147,149
medulla oblongata 延髄 139
medullary 髄様 60,73
medullary substance 髄質 149
medullary substance of suprarenal gland 副腎髄質 149
medulloblastoma 髄芽腫 135
melanin メラニン 127
melanin granules メラニン顆粒 128
melanocyte メラノサイト 127
melanophores メラノフォレス 127
melanosis coli 大腸メラノーシス 128
melasma gravidarum 妊娠性褐色症 127
membrane-filter method フィルター法, メンブランフィルター法
111
membrane receptor 膜受容体 63
mesangial cell メサンギウム細胞 28

mesenchymal cell 間葉系細胞 27
mesenchyme 間葉組織 28
mesentery 腸間膜 141
mesoderm 中胚葉 88
mesosalpinx 卵管間膜 151
mesothelial cell 中皮細胞 89
mesothelioma 中皮腫 89
mesothelium 中皮 88
metachromasia method メタクロマジー法 100
metaphase 中期 129
metaplasia 化生 24,130
metaplastic carcinoma 化生癌 31
metastasis 転移 92
metastatic calcification 転移性石灰化 92
metastatic cancer in the lung 転移性肺癌 92
metastatic lesion 転移巣 41
MI(maturation index) 成熟指数 52,71
Michaelis-Guttman body ミカエリス・ガットマン小体 125
microbial substitution 菌交代現象 110
microbiopsy [-like] マイクロバイオプシー [状] 124
microfibril ミクロフィブリル 125
microfilament ミクロフィラメント, 微細線維, マイクロフィラメント 50,125
microinvasion 微小浸潤 68
microinvasive carcinoma 微小浸潤癌 68
micropinocytotic vesicle 微細飲小胞 13
microtubule 微小管 50
microvillus (複 : microvilli) 微絨毛, 微小絨毛, 細絨毛 108,138
mild 軽度(の) 7
mild dysplasia 軽度異形成 8
millipore-filter method ミリポアフィルター法 111
minor calyx 小腎杯 149
minor duodenal papilla 小十二指腸乳頭 146
mirror ball-like ミラーボール状, 桑実状 126
mirror ball pattern ミラーボール状 60
mirror image 鏡面像 35,123,131
mitochondria ミトコンドリア, 糸粒体 53,125,138

mitochondrial DNA ミトコンドリア DNA 126
mitosis 有糸分裂 129
mitotic count 核分裂数 129
mitotic index 核分裂指数 129
moderate 中等度(の) 7
moderately differentiated 中分化〔型〕 114
molding 相互圧排像, モールディング 81
monad 単細胞生物 49
Mongolian spot 蒙古人斑 127
monocyte 単球 84
mono-layered squamous epithelium 単層扁平上皮細胞 119
morphometry 画像解析 24
motility of cilia 線毛運動 80
motility of flagella 鞭毛運動 121
mucicarmine Mayer method ムチカルミン法 100
mucin ムチン 99,100
mucin stain 粘液染色 100
mucinous adenocarcinoma 粘液性腺癌 99
mucinous carcinoma 粘液癌 73
mucinous cystadenocarcinoma 粘液性嚢胞腺癌 73
mucinous cystadenoma 粘液性嚢胞腺腫 76
mucinous cystic tumor 粘液性嚢胞性腫瘍 101
mucoepidermoid carcinoma 粘表皮癌 79
mucosa associated lymphoid tissue lymphoma MALT リンパ腫 4
mucous background 粘液背景 102
mucous cell 粘液細胞 99
mucous degeneration 粘液変性 99,117
mucous gland 粘液腺 99
mucous vacuole 粘液空胞 37
mucus 粘液 99
multicellular organism 多細胞生物 49
multilocular cystic tumor 多嚢胞性腫瘍, 多房性腫瘍 101
multinucleate [d] giant cell 多核巨細胞 44,84
multiple endocrine adenomatosis 多発性内分泌腺腫症 76
multivesicular body 多胞体 132
muscular tissue 筋組織 84

myoepithelial cell 筋上皮細胞 35,97,98
Naked bipole nucleus 双極裸核 80
naked nucleus 裸核 130
National Cancer Institute 115
navicular cell 舟状細胞 119
N/C ratio(nucleocytoplasmic ratio) 核・細胞質比 18
necrosis 壊死 12
necrotic tissue 壊死組織 13
necrotizing background 壊死背景 103
negative 陰性 101
negative predictive value 陰性反応の中度 42,46
Negri body ネグリ小体 112
neoplasia 新形成 63,67
neoplasm 新生物 62,63,67
neural crest 神経稜, 神経堤 39
neural ectoderm 神経外胚葉 17
neural tissue 神経組織 84
neuroblastoma 神経芽腫 135
neuroderma 神経外胚葉 17
neuroendocrine cell 神経内分泌細胞 39
neuroendocrine granule 神経内分泌顆粒 95
neurofilament ニューロフィラメント 50
neurogenic atrophy 神経性萎縮 10
neuroglia cell 神経膠細胞 28
new fuchsin ニューフクシン 56
NF(neurofilament) ニューロフィラメント 50
nipple 乳頭 153
non-ciliated cuboidal epithelial cell 無線毛立方上皮細胞 37
non-epithelial cell 非上皮細胞 27
non-epithelial tissue 非上皮組織 28
non-Hodgkin lymphoma 非ホジキンリンパ腫 4
non-invasive carcinoma 非浸潤癌 65
non-keratinizing squamous cell carcinoma 非角化型扁平上皮癌 119
non-keratinizing type 非角化型 118
non-mucous cuboidal epithelial cell 無粘液立方上皮細胞 37
non-specific inflammation 非特異性炎 93

NOR(nucleolar organizer region) 核小体形成域 21
nosocomial infection 院内感染 110
nuclear groove 核溝 19
nuclear membrane 核膜 18,138
nuclear molding 核相互圧排像, 鑄型核 81
nuclear palisading 核の柵状配列 53
nuclear pore 核膜孔 138
nuclear reaction 核反応 112
nuclear shape 核形 19
nuclear staining 核染色 112
nuclei (単: nucleus) 核 138
nucleocytoplasmic ratio 核・細胞質比, N/C 比 18,20
nucleolar organizer region 核小体形成域 21
nucleolus (複: nucleoli) 核小体 18,20,138
nucleopore-filter method スクレポアフィルター法 111
nucleus (複: nuclei) 核 18,138
nucleus/cytoplasm ratio 核・細胞質比, N/C 比 20
Oat cell carcinoma 燕麦細胞癌 64
occult carcinoma オカルト癌 16,36
omental bursa 網嚢 141
opportunistic infection 日和見感染 109
orangeophilic オレンジG好〔染〕性 78
organelle 細胞内小器官, オルガネラ 53
organization 器質化 97
orifice of ureter 尿管口 149
orifice of vagina 膣口 150
orthotopia 同所性, 正所性 10
osseous metaplasia 骨化生 24
oval 卵円形 19
ovarian follicle 卵胞 151
ovarian ligament 固有卵巣索 151
ovary 卵巣 150,151
overlapping 重積性 60
overlapping cell cluster 重積性細胞集塊 51
owl eye フクロウの目 123
PPaget cell パジエット細胞 104

Paget disease パジエット病 104
pair cell 対細胞 81,82
palisade 柵状配列, 柵状 53
palisade arrangement 柵状配列 53
palisading 柵状配列 11,53
palisading of tall columnar cell 高円柱状細胞の柵状配列 53
pancreas 膵臓 141,143,146
pancreatic duct 膵管 143,146
PAP(peroxidase-anti-peroxidase immunostaining) ペルオキシダーゼ抗ペルオキシダーゼ法 128
Pap classification パパニコロウ分類 105
PAP method(horseradish peroxidase-anti-horseradish peroxidase method) 非標識酵素抗体法 43
Pap stain パパニコロウ染色 106
PAP test パパニコロウ検査 106
Papanicolaou (人名) 18,56,105
Papanicolaou classification パパニコロウ分類 46,51,105,115
Papanicolaou stain パパニコロウ染色 105,106
Papanicolaou stain 1942 パパニコロウ原法 105
Papanicolaou test パパニコロウ検査 106
papilla 乳頭 99
papillary 乳頭状 73,99
papillary adenocarcinoma 乳頭状腺癌 73,99
papillary [cell] cluster 乳頭状〔細胞〕集塊 51,99
papillary formation 乳頭状 60
papillary structure 乳頭状構造 99
papillary transitional cell carcinoma 乳頭状移行上皮癌 8
papilloma 乳頭腫 98
papillomatosis 乳頭腫症 98
parabasal cell 傍基底細胞 119
parakeratosis 錯角化〔症〕 25
parathyroid gland 副甲状腺(上皮小体) 152
parenchyma 実質 59
parenchymal cell 実質細胞 59
parenchymatous degeneration 実質変性 117
pavement-like 敷石状 57

pavement-like arrangement 敷石状配列 57
pearl formation 真珠形式 30
pectoralis major muscle 大胸筋 142,153
pectoralis minor muscle 小胸筋 142
peg-shaped ホブネイル〔状〕 123
pelvis 腎髒 149
penis 陰莖 147
peptic ulcer 消化性潰瘍 17
percutaneous pulmonary aspiration cytology 経皮的肺穿刺吸引法 75
pericardial cavity 心膜腔 141,142
pericardium 心膜 142
perineum 会陰 150
perineural cell 神経周膜細胞 97
perinuclear halo 核周明庭, 核周明庭 20,37,41,90
peritoneal cavity 腹腔 141,143
peritoneal dissemination 腹腔内播種 104
peritoneal gliomatosis 腹膜神経膠腫症 33
peritoneum 腹膜 141,143,147,150
peritonitis carcinomatosa 癌性腹膜炎 104
perivascular pseudorosette 血管周囲偽ロゼット 135
permeation 侵襲 68
pernicious anemia 悪性貧血 3
peroxidase-anti-peroxidase immunostaining ペルオキシダーゼ抗ペルオキシダーゼ法
128
persistent trophoblastic disease 存続絨毛症 62
Persson (人名) 75
phagocytosis 貪食作用, 食作用, 食菌作用, 貪食 13,16,94
phagosome 貪食空胞, ファゴソーム 13,132
phanerosis 出現症 117
photoallergic sensitivity 光アレルギー感受性 30
physaliferous cell フィサリフォラス細胞 111
physaliphorous cell フィサリフォラス細胞, 泡沫細胞, 担空胞細胞 111,122
Physalis ホオズキ 111
picnosis 核濃縮 19
pigment cell 色素細胞 127
pigment degeneration 色素変性 117

pigmentation 色素沈着 117
pineal body 松果体 139
pinocytosis 飲作用 16
pinocytotic vesicle 飲小胞 13,132
pinosome 嚥飲空胞 13
pituitary adenoma 下垂体腺腫 76
pituitary gland 下垂体 139
placental site trophoblastic tumor 着床部絨毛性腫瘍 62
plasma-thrombin clot cell block 血漿トロンビンセルブロック 72
pleomorphic adenoma 多形性腺腫 76
pleura 壁側胸膜 142
pleural mesothelioma 胸膜中皮腫 89
pleural plaque 胸膜肥厚斑 89
pleural space 胸腔 142,143
pleuritis carcinomatosa 癌性胸膜炎 104
pm 固有筋層内(胃癌深達度の) 69
polychromatic 多染性 78
polycystic tumor 多嚢胞性腫瘍, 多房性腫瘍 101
polygonal 多稜形の 50
polyhedral 多面体の 50
polyploid 多倍体, 倍数体 98
pons 橋 139
pool smear 腔分泌液 103
poorly differentiated 低分化〔型〕 114
portal vein 門脈 143,146
positive 陽性 101
positive predictive value 陽性反応的中度 42,46
posterior wall of pharynx 咽頭の後壁 152
post-tube preparation ポストチューブ法 123
precancerous lesion 前癌病変 73
predictive value of a negative test 陰性反応的中度 42,46
predictive value of a positive test 陽性反応的中度 42,46
preparation technique 塗抹法 93
pressure atrophy 圧迫萎縮 10
primary lesion 原発巣 41
primary respiratory bronchiole 第1次呼吸細気管支 145

primitive ectoderm 原始外胚葉 17
primitive endoderm 原始内胚葉 95
probe 探触子 75
process of regeneration 再生過程 48
progression プログレッション 115
progressive Papanicolaou stain 1960 進行的パパニコロウ染色 105
prokaryotic cell 原核細胞 49
prolactinoma プロラクチン産生腫瘍 96
proliferating cell 増殖細胞 129
proliferation 増殖, 増生 83
promontory 岬角 141
prophase 前期 129
prostate 前立腺 147
prostatic part 前立腺部 147
protein 1 37
psammoma body 砂粒小体, 砂粒体 55
pseudocannibalism 偽カニバリズム 82
pseudocribiform 偽篩状 114
pseudodecidual change 偽脱落膜様変化 86
pseudohypertrophy 仮性肥大 9,109
pseudopalisade 偽〔性〕柵状配列 53
pseudopalisading 偽〔性〕柵状配列 53
pseudopod (複: pseudopodia) 偽足 84
pseudopodium 偽足 84
pseudorosette 偽ロゼット 135
pseudostratified columnar epithelial cell 多列円柱上皮細胞 15
pubic symphysis 恥骨結合 141
pulmonary artery 肺動脈 142
pulmonary hemosiderosis 肺ヘモジデリン症 116
pulmonary pleura 肺胸膜 142
pulmonary tumor 肺腫瘍 63
pumping パンピング 25,77
pyknosis 核濃縮, 核凝縮 22,44
pyramid 腎錐体 149
pyramidal lobe 錐体葉 152
Radiation induced pulmonary fibrosis 放射線線維症 72

receptor 受容体, レセプター, 受容器 63
receptor disease 受容体病 63
rectouterine pouch 直腸子宮窩 141
rectouterine pouch of Douglas ダグラス窩 150
rectum 直腸 141,150
Reed-Sternberg cell リード・ステルンベルグ細胞 35,123,131
regenerating liver 再生肝 48
regenerating nodule 再生結節 48
regeneration 再生 47,97,130
regenerative cell 再生細胞 48
regenerative endometrium 再生子宮内膜 48
regenerative epithelial cell 再生上皮細胞 48
regenerative polyp 再生性ポリープ 48
regressive Papanicolaou stain 1954 退行的パパニコロウ染色 105
renal artery 腎動脈 149
renal cell carcinoma 腎細胞癌 73
renal column 腎柱 149
renal papilla 腎乳頭 149
renal pelvic catheterization 腎盂カテーテル法 26
renal vein 腎静脈 149
repair 修復 61,130
reserve cell 予備細胞 130
reserve cell hyperplasia 予備細胞増生 83,130
resting cell 休止細胞 129
resting phase 休止期 129
reticulum cell 細網細胞 28
retroperitoneal space 腹膜後隙, 後腹膜腔 141,143
rhabdomyosarcoma 横紋筋肉腫 97
rib 肋骨 142,143,153
ribosome リボソーム 53,138
Richart (人名) 57
right adrenal gland 右副腎 143,149
right kidney 右腎 143,149
right lobe 右葉(肝) 143
right lung 右肺 142
right ureter 右尿管口 149

root of mesentery 腸間膜根 141
rosette-like ロゼット状(ロゼット様), 花冠状, 菊座 135
rough endoplasmic reticulum 粗面小胞体 66,138
round 円形 19
round ligament of uterus 子宮円索 150,151
Ss 漿膜(胃癌深達度の) 69
Saccomanno preparation サコマノ法 21,54
sacral spot 蒙古人斑 127
sacrum 仙骨 141,150
sarcoidosis サルコイドーシス 59,131
sarcoma 肉腫 27,97
scar 瘢痕 106
scar contracture 瘢痕 [性] 拘縮 107
scar stenosis 瘢痕 [性] 狭窄 107
scattered 散在性 47
SCC(squamous cell carcinoma) 扁平上皮癌 118
Schaumann body シャウマン小体 59
Schiff reaction シッフ反応 112
Schwann cell シュワン細胞 28,97
scirrhous 硬性 73
SCJ(squamo-columnar junction) 扁平円柱上皮接合部 117
scraping preparation 擦過法 54
scraping smear 擦過スメア 55
scrotum 陰囊 147
secondary respiratory bronchiole 第2次呼吸細気管支 145
segmental bronchus 区域気管支 145
self-correcting method 自己採取法 58
self-irrigation smear 自己採取スメア 58
semidesmosome セミデスモソーム 92
semilunar 半月形 19
seminal vesicle 精囊 147
senile atrophy 老人性萎縮 10
sensitivity 感受性, 感度 28
septum pellucidum 透明中隔 139
serous cystic tumor 漿液性嚢胞性腫瘍 101
severe 高度 7

severe dysplasia 高度異形成* 73
sex chromosome 性染色体 78
sheet-like シート状, 平面的 57
sheet-like arrangement 平面的配列 115
sialomucin シアロムチン 100
sievelike 篩状 113
sigmoid colon S状結腸 141
signet ring cell carcinoma 印環細胞癌 15,73
SIL(squamous intraepithelial lesion) 扁平上皮内病変 116,120
silver impregnation 銀メッキ反応, 鍍銀反応 37
simple exocrine gland 単純外分泌腺 17
Sipple syndrome シップル症候群 76
slight 軽度 7
sm 粘膜下層内(胃癌深達度の) 69
small cell carcinoma 小細胞癌 39,64,119
small cell carcinoma of the lung 肺小細胞癌 64
smooth endoplasmic reticulum 滑面小胞体 66,138
smooth muscle 平滑筋 145
smudged nuclei 41
snake cell 蛇型細胞 32
snake-like 蛇状 50
so-called carcinosarcoma いわゆる癌肉腫 31
soft part sarcoma 軟部肉腫 97
solid 充実性 60,73
solid mass 充実性集塊 60
solid teratoma 充実性奇形腫 32
solid tumor 充実性腫瘍 60
solitary 孤立性 47
spatula ヘラ 54
specific granulomatous inflammation 特異性肉芽腫性炎症 97
specific inflammation 特異性炎 92
specificity 特異性 92
spectrum disease 連続病変 58
spider-shaped クモ状 50
spinal cord 脊髄 142,143
spindle 紡錘 50

spindle-shaped 紡錘形 19
spinous process of the vertebra 棘突起 141
spleen 脾臓 143,146
spray fixation スプレー固定 44
sputum cytology 喀痰細胞診 104
sputum homogenizing technique 喀痰融解法, 蓄痰粘液融解法 21
squamo-columnar junction 扁平円柱上皮接合部, 扁平円柱上皮境界 117
squamous cell carcinoma 扁平上皮癌 118,120
squamous cell papilloma 扁平上皮型乳頭腫 98,120
squamous epithelial cell 扁平上皮細胞 49,119
squamous intraepithelial lesion 扁平上皮内病変 116,120
squamous metaplasia 扁平上皮化生 20,24,74,119
squash preparation 圧挫法 5
ss 漿膜下層内(胃癌深達度の) 69
stage 進行期 133
staining reaction 染色性 78
stamp preparation 捺印法, スタンプ法 5,96
sternal manubrium 胸骨柄 141
sternum 胸骨 141,142
stomach 胃 141,143
straight sinus 直静脈洞 139
stratification 層構造, 層形成, 重層, 層化 82,118
stratified squamous epithelium 重層扁平上皮細胞 119
stratum basale 基底層 33
streptavidin-biotinyl-peroxidase complex method ストレプトアビジンビオチンペルオキシダーゼコンプレックス法 128
stripped nucleus 裸核 130
stroma 間質, 基質 27
stromal cell 間質細胞 27
stromal cell sarcoma 間質細胞肉腫 27
structural atypia 構造異型 7
struma ovarii 卵巣甲状腺腫 33
subarachnoidal space クモ膜下腔 139
subclinical cancer 非臨床癌 16
subsegmental bronchus 亜区域気管支 145
sulfomucin スルフォムチン 100

superficial cell 表層細胞 119
superior mesenteric artery 上腸間膜動脈 146
superior mesenteric vein 上膜間膜静脈 146
superior sagittal sinus 上矢状静脈洞 139
supernatant 上清 106
supporting tissue 支持組織 84
suppurative inflammation 化膿性炎症 14
surface columnar epithelial cell 被覆円柱上皮細胞 15
surfactant apoprotein A 37
suspensory ligament of ovary 卵巣提索 150
suspensory ligaments (Cooper) 乳房提靱帯(クーパー靱帯) 153
swab 綿棒 54
Swiss-cheese hyperplasia スイスチーズ様増殖症 23
symphysis 恥骨結合 147,150
syncytial 合胞状 44
syncytial arrangement [form] 合胞状 60
syncytiotrophoblast 合胞性トロホブラスト 44,94
Tadpole cell オタマジャクシ型細胞 32
tadpole-shaped オタマジャクシ状 50
TBS(The Bethesda System) ベセスダシステム 115
TCC(transitional cell carcinoma) 移行上皮癌 8
tegmental cell 被蓋細胞 6
telophase 後期 129
teratoma 奇形腫 32
terminal bronchiole 終末細気管支 145
testis 精巣 147
The Bethesda System ベセスダシステム 115,120
the first squamo-columnar junction 第1次扁平円柱上皮接合部 118
the second squamo-columnar junction 第2次扁平円柱上皮接合部 118
third ventricle 第三脳室 139
thoracic vertebrae 胸椎 141
thymus 胸腺 141
thyrohyoid membrane 甲状舌骨膜 152
thyroid 甲状腺 152
thyroid cartilage 甲状軟骨 145,152
thyroid gland 甲状腺 141

tight junction タイト結合 92
tissue 組織 84
tissue defect 組織欠損 84
tissue repair 組織修復 61
tissue repair cell 修復細胞 61
TNM-classification of malignant tumors TNM 分類 90
Touton type giant cell トゥートン型巨細胞 84
trabecular [cord-like] 索状 53,73
trachea 気管 141,145,152
tracheal bifurcation 気管分岐部 145
transbronchial aspiration biopsy cytology 経気管支穿刺吸引細胞診 75
transitional cell carcinoma 移行上皮癌 8,9
transitional cell carcinoma in situ 移行上皮内癌 8
transitional cell papilloma 移行上皮乳頭腫 8,9
transitional [epithelial] cell 移行上皮細胞 8
“transitional” papilloma “移行上皮”型乳頭腫 98
transudate 濾出液, 漏出液 135
transverse colon 横行結腸 141,143
trigone of urinary bladder 膀胱三角 149
triple cancer 三重癌 27
trophoblast トロホプラスト, 栄養膜 93
trophoblastic cell トロホプラスト(栄養膜)細胞 62
trophoblastic disease 絨毛性疾患 62
trophoblastic neoplasm 絨毛性腫瘍 62
Tru-cut トルーカット(針) 75
true negative 真陰性 29
true positive 真陽性 29
true positive rate 感受性 29
true rosette 真正ロゼット 135
tubular 管状 73
tubular adenoma 管状腺腫, 腺管腺腫 35,76
tubulin チュブリン 50
tumoret ツモーレット 39
tumor(tumour) 腫瘍 62,67
tumor clustur 腫瘍集塊 63
tumor diathesis 腫瘍性背景 102

tumor necrosis 腫瘍壊死 13
tumor parenchyma 腫瘍実質 59
tumorous growth 腫瘍性増殖 67
two cell pattern 二相性 97
Tzanck cell ツァンク細胞 90
UICC 国際対がん連合 90
ulcer 潰瘍 17
ulcerative colitis 潰瘍性大腸炎 18
umbrella cell アンブレラ細胞 6,9
unbilicus 臍 141
undifferentiated 未分化 [型], 未分化な 85,114
undifferentiated carcinoma 未分化癌 85,114
undifferentiated mesenchymal cell 未分化間葉細胞 28
ureter 尿管 147,150
ureteral catheterization 尿管カテーテル法 25
ureteral orifice 尿管口 147
urethra 尿道 147,149,150
urinary bladder 膀胱 141,147,149,150
urinary cytology 尿細胞診 104
uterine carcinosarcoma 子宮癌肉腫 31
uterine ostium of uterine tube 卵管子宮口 151
uterine tube 卵管 150,151
uterus 子宮 141,150
uterus cavity 子宮腔 151
Vvacuolar degeneration 空胞変性 117
vacuole 空胞 36
vagina 膣 141,150,151
vaginal scraping smear 膣壁擦過スメア 55
vaginal smear 膣分泌液 103
vaginal smear cytology 膣分泌液細胞診 104
Van Gieson stain ファンギーソン染色 87
ventricle 心室 142
verrucous carcinoma 疣状癌 118
vertebral canal 脊柱管 142
vertebral column インディアンファイル状 11
vesicouterine pouch 膀胱子宮窩 141,150

villi 腸絨毛 108
villous adenoma 絨毛腺腫 76
vimentin ビメンチン 50
viral inclusion body ウイルス封入体 112
vocal cord 声帯 145
vulvar ulcer 外陰潰瘍 18
Wwashing cytology 洗浄法 77
watery background 水性背景 103
wedge method 引きガラス法 107

Weibel-Palade body バイベル・パレード顆粒, バイベル・パレード小体 103
well differentiated 高分化〔型〕 114
well differentiated adenocarcinoma 高分化〔型〕腺癌 73
well differentiated squamous cell carcinoma 高分化型扁平上皮癌 119
Wermer syndrome ウェルマー症候群 76
wet-fixed smear preparation 湿固定 46
work hypertrophy 作業性肥大 109
Yolk sac tumor 卵黄囊腫瘍, ヨークサック腫瘍 34
Zzona adherence 接着小帯 92
zymogen granule チモーゲン顆粒, 酵素原顆粒 88

細胞診用語解説集

発行 1996年11月15日 第1版第1刷●C

編集 日本臨床細胞学会

発行者 株式会社 医学書院代表取締役 金原 優 〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3 電話
03-3817-5600 (社内案内)

印刷 三美印刷

製本 長野製本

用紙 北越製紙

本書の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意
ください。

ISBN4-260-10355-5 Y3200

●R<日本複写権センター委託出版物・特別扱い>本書の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じ
られています。本書は日本複写権センターへの特別委託出版物です。複写される場合は、そのつど事前
に日本複写権センター（電話 03-3401-2382）の許諾を得てください。

● 目次

序…3

刊行のことば…5

凡例…9

用語解説…1

解剖用語…137

索引…155

 欧文索引…157

 和文索引…201